目次

A. 第 44 回京都大学 11 月祭環境対策委員会総括・・・・・・・・・・・・・・・・7

B. 調査担当

1. 総量調査報告・・・11
2. ごみ組成調査報告・・13
3. 模擬店実態調査報告・・14
4. 模擬店担当者アンケート(NF 前) 報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
5. 模擬店担当者アンケート(NF 後) 報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
6. メニュー・売上及び容器・食材購入量調査報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

C. 広報担当

目的・・21

1. 環境虎の巻について・・・21
2. 今年度の本祭中における広報活動について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
3. その他の広報物・・・25
4. 洗い皿、非木材紙、生ごみ堆肥化、それぞれの参加企画広報について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
5. 集積場広報について・・・25
6. 広報を担当としておくことの意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
7. 総括・・26
8. 巡回・・26

D. 企画担当

1. 目的・・27
2. 実施日時、場所・・27
3. 実施内容・・・27

4.　物品確保について……28
5.　各立て看板について……28
6.　主な時系列……29
7.　反省点および来年度以降への展望……29
8.　これからの企画……31

E. ごみ分別･リサイクル担当

1. 担当の目的および紹介……31
2. ごみの分別……31
3. ごみ回収システムについて……35
4. 前夜祭報告……39
5. 本祭中の集積場運営に関する報告……41
6. ごみ箱の作成について……46
7. ごみ箱の設置について……47
8. 店内 POP……50
9. 発泡トレー洗浄……50
10.　後片付け日ごみ回収……52

F. 洗い皿担当

1.　目的、意義……54
2.　企画内容……54
3.　当日までの時系列……55
4.　当日の詳細な内容……55
5.　参加模擬店数、皿使用枚数等の報告……56
6.　反省……56
7.　将来への展望……58
8.　洗い皿アンケート……58

G. 生ごみ堆肥化担当

1.　目的……59
2.　実施内容……60
3.　反省点＆次年度への展望……62
4.　生ごみ堆肥化アンケート……64
5.　生ごみ堆肥化所感……65

H. スタッフに係わる事項の報告

1. スタッフ募集･シフト管理等に関する報告……66
2. スタッフアンケート……70
3. 当日スタッフの感想……74

I. その他

1.　11 月祭事務局との連携に関する報告……75
2.　本部運営に関する報告……76
3.　後片付け日に関する報告……78
4.　エピソード集……80

～おまつり広場を臨む～

はじめに

京都大学 11 月祭環境対策委員会も今年度で９年目になります。

既存の活動はシステムとしてほぼ完成された感がありますがそれらをただ鵜呑みにするのではなく、

一つひとつの意義、目的を自身で考えた上で

各々の活動を取り入れ、また新しい活動を試みました。

この報告書は内部資料としての役割も負っているため当委員会以外の方には

冗長と思われる内容、分かりにくい内容もあるかと思いますが、

なるべくご理解いただけるよう努めました。

やや長い報告書ではありますが、最後までお付き合い下さると嬉しく思います。

これが、今年度の私たちの活動です。

第 44 回京都大学 11 月祭環境対策委員会概要

文責：田辺 文子

今年度の 11 月祭環境対策の活動の概要を、当日の活動を中心に報告する。詳細については各担当の項を参照していただきたい。

１．第 44 回京都大学 11 月祭について

実施日　2002 年 11 月 21（木）、22（金）、23（土）、24（日）に渡って行われた。
※20 日（水）前夜祭、25 日（月）後片付け日
天候　前夜祭：晴天　本祭中 4 日間：晴天　後片付け日：雨天
備考　150 もの模擬店が軒を連ね、他にも様々な教室企画、グラウンド企画、講演企画等が行われた。

２．11 月祭環境対策委員会について

11 月祭環境対策委員会は「11 月祭での実質的なごみ減量・環境負荷の削減」「11 月祭を通しての環境意識の啓発」を目標に、1994 年度以来活動を続けている。今年度は、特にごみの発生抑制を中心に、来場者、模擬店などへの啓発活動に力を入れた。

→詳細は 7 ページ

３．11 月祭のごみについて

＜今年度のごみ分別＞

「紙ごみ」「ビニール・プラスチック類」「缶・びん」「発泡トレー」「ＰＥＴボトル」「割り箸」「生ごみ」「廃食油」「段ボール」「卵パック」「牛乳パック」「乾電池」
以上 12 分別。
ただし、「卵パック」「牛乳パック」の分別は試験的なものである。また会場内については「廃食油」「段ボール」「卵パック」「牛乳パック」「乾電池」をのぞく 7 分別のごみ箱を設置した。
それぞれのごみは再資源化及び適正処理に回す。

→詳細は 31ージ

＜ごみの総量＞

前夜祭及び本祭中に出たごみの総量は約６ｔに昇った。
なお、ごみの総量調査の他にごみの組成を調べる組成調査等も実施している。

→詳細は 11 ページ

４．ごみの発生抑制・リサイクルに関する活動について

（１）洗い皿企画

模擬店にプラスチックの皿（洗い皿）及び箸（洗い箸）を貸し出し、それを洗浄し使いまわすことで、使い捨て容器の削減を図る企画。

洗い皿企画参加模擬店	８店
洗い皿使用枚数	のべ 2811 枚
洗い箸使用膳数	のべ約 1000 膳

→詳細は 54 ページ

（２）分別・リサイクル

分別は前述の 12 分別。それぞれ再資源化・適正処理を図っている。
また、会場内ごみ箱については 11 月祭において多くごみを排出する模擬店がそれぞれごみ箱の管理を担当し、その設営・再分別等を責任をもって行う。排出者責任の考えに基づいたシステムである。
また、全模擬店は来場者が排出した発泡トレーの洗浄作業を行い、洗浄されたトレーはリサイクルに回される。

→詳細は 31 ページ

（3）生ごみ堆肥化

11 月祭で排出された生ごみは、京都大学有機農業研究会の協力のもと、ほぼ全て堆肥として再利用される。

→詳細は 59 ページ

5．広報・啓発に関する活動について

11 月祭環境対策委員会のみが活動するのではなく、その意義等を来場者や諸企画の方に理解してもらい、協力してもらうこと、また 11 月祭を通して環境問題に興味をもってもらうことは重要な活動である。今年度は当委員会の活動の広報として下記のものを実施した。

（1）広報活動

◆公式パンフレット

11 月祭公式パンフレットにて 11 月祭のごみ分別、当委員会の活動等について 3 ページ半を使って紹介した。

◆立看板

11 月祭当日において「11 月祭におけるごみ分別の紹介」「洗い皿の紹介」「洗い皿参加模擬店紹介」「生ごみ堆肥化についての紹介」「11 月祭環境対策委員会概要」「洗い皿、非木材紙皿、生ごみ堆肥化参加模擬店マップ」の各種立看板を会場の随所に設置し、来場者の方にも当委員会の活動や、それに参加する模擬店を知ってもらえるよう努めた。

◆環境虎の巻

11 月祭においてごみの排出の多くを占め、当日実際にごみ回収等の作業にあたってもらう模擬店企画を対象に、11 月祭で環境対策を行う意義について、伝達事項及び過年度の売上データなどの情報を載せた冊子「環境虎の巻」を作成、配布した。

散逸しやすいレジュメ類をまとめ冊子にした点が機能的である。

→詳細は 21 ページ

（2）企画活動

◆レストスペース

休憩場所が少ない 11 月祭において、グラウンドの各所に当委員会の活動等を紹介した看板と椅子を設置した「レストスペース」を行った。単なる休憩所の提供ではなく、その場を用いて環境問題に意識を向けてもらえるような広報を行った。

当日は非常に多くの人が利用してくれた。

→詳細は 27 ページ

A.第 44 回京都大学 11 月祭環境対策委員会活動総括

代表：田辺 文子

１．ごみ問題と 11 月祭

近年ごみ問題が頻繁に取り上げられ、新聞紙面上に現れない日はないといっても過言ではない。ごみ問題の歴史は古く江戸時代中期から発生していたと言われているが、その問題点は時代とともに変遷し、近年は主に最終処分場（埋立地）の逼迫や汚染物質の流出の問題として取り上げられている。

現在、1 年に日本全国で排出されるごみの量は一般廃棄物（家庭ごみと一部の事業ごみの合計）で 5000 万ｔ前後、産業廃棄物（事業活動で生じたごみ）で４億ｔ前後となっている。

これらごみは焼却・破砕化・再資源化等の中間処理を行った後に、最終的には埋立地で処分されるが、その処分量もまた膨大であり、一般廃棄物の最終処分場の残余年数は約８年、産業廃棄物のそれは約 3 年と言われている。（2000 年現在）

ダイオキシンなどに代表される、汚染物質による環境汚染も広く取り上げられている。減容化に効果的であるとして一般廃棄物の７５％が処理されている焼却処理であるが、それによってダイオキシンを始めとした有害物質が排出されるなどの問題がある。焼却場に限らず、最終処分場からの汚染物質の漏出は事例に事欠かない。

また、ごみも元々は資源であったということを鑑みれば、資源の大量消費・ごみの大量廃棄という現代社会の構図は有限な地球資源を枯渇へと向かわせているということであり、夢のような技術の発見でもないかぎり、いずれこの構図は破綻することが目に見えている。地球資源を無限の物として使用していた時代から一歩進み、有限であることに我々が気づいた今、将来の破綻を避けるために何らかの対策を講じることが求められている。

さて、11 月祭は例年 4 日間にわたって行われ、関西の学園祭の中では最大規模といえる。当日は多数の講演・教室展示・模擬店が軒を連ね、多くの来場者が訪れる。しかし、その裏では使い捨て容器類を中心に膨大なごみが排出されており、その総量は約 5ｔ（2002 年度 11 月祭環境対策委員会 総量調査結果）にもなり、先述の大量消費・大量廃棄の縮図と言えよう。上記のような社会状況にあるなか、11 月祭においても環境対策を行い、環境負荷の削減に努めていくことが必要であろう。

また、11 月祭には推定約 6 万人もの人が訪れることから、そこでの環境対策は広報の面で非常に有意であり、当委員会の活動を通じて多くの人々にごみ問題に対して意識を持ってもらうことが出来ると考えている。

２．今年度の活動方針

以上、ごみ問題の現状と 11 月祭における環境対策の意義を挙げた上で、以下に今年度 11 月祭環境対策委員会の理念および方針について述べる。

理念：11 月祭環境対策委員会は環境問題が重要な問題であることを認識し、特に 11 月祭におけるごみ問題について総合的な活動をする。同祭りにおいてごみ減量の理想的モデルを構築し、本学学生及び 11 月祭来場者、ついには社会に対してこのごみ減量モデルを提示し、社会のめざすべき方向を示唆する。

この理念を満足するためには社会一般のごみ問題を理解し、それに対して 11 月祭で何ができるかを考えていく必要があり、それには当委員会の委員一人一人のごみ問題に関する知識、考察が不可欠である。そこで今年度は、後の「今年度の活動内容」で述べているような勉強会や見学会などを行った。各委員の知識を増やすとともにより深い勉強へのきっかけとなったと考えている。改善の余地はあるが、委員会としての時間も限られていることから、一定レベル以上の勉強等は委員個人の努力にゆだねるしかないであろう。

次に、上記の理念を受けての今年度の活動方針について述べる。

方針：一. 11 月祭において、実質的な環境負荷の削減を行う。・・・（1）
一. 11 月祭において、祭り参加者すべてを巻き込んだ活動を行い、環境問題についての意識啓発を行う。・・・（2）

まず方針（1）について、「一に発生抑制、二に再資源化、三に適正処理」これは巷でもよく言われるようになったが、むろん当委員会の活動においても常に頭に入れておくべきことである。今年度は特に発生抑制を念頭に置いた広報活動に重きを置いた。

次に（2）について、11 月祭の環境対策においては、当委員会だけが奔走していても問題の根本的な解決にはつながらない。そもそも 11 月祭は 4 日間という短期間のイベントであり、そこでの当委員会の活動が祭り参加者を通して社会に影響を与え、大量消費・大量廃棄からの転換に繋がらなければ、この活動は単なる内輪だけの自己満足でしかない。祭り参加者へ環境負荷削減の必要性を訴えつつ、実際に行動してもらい、その影響が日常生活にも波及することが目的である。そのためには広報および当委員会の企画が重要な役割を担う。それらを通して祭り参加者に行ってもらうごみ分別などの意義を理解してもらい、同時にその行為と社会におけるごみ問題との繋がりを理解してもらうよう努めた。詳細については広報及び企画の項に譲る。

３．今年度の活動内容

今年度の活動内容について時系列に沿って述べる。

６月　６月初旬に 11 月祭環境対策委員会が発足し、下旬に理念、方針などを決定した上で１回生に対し、当委員会についてのガイダンスを行った。

この時期から１回生に大きな負担を掛けるのは望ましくないとの考えから、例会では当委員会の理念、方針等に密接に関係する内容について取り上げ、それ以外の実務的な内容については２・３回生のみで別に会議を持ち、１回生は自由参加とした。

また、６月中旬から７月にかけて、主に１回生を対象とした当委員会が行っている各種リサイクルについての勉強会を実施した。例会の最後に実施したため、時間の関係から一回につき 15 分程度の短いものであったが、１回生の導入としては良かったのではないかと思う。

会議の分割、勉強会については１回生から良かったとの意見を得た。

７月　今年度のシステム作り（模擬店によるごみ回収や発泡トレー洗浄などについて）をする時期である。システム作りに際しては 11 月祭の諸企画との関わりについて熟考する必要がある。模擬店をはじめとする各企画は半ば強制的に当委員会の作ったシステムで動くことになるため、表面的なシステムの作成のみに陥らず、各企画に課す作業等の意義を理解し、また根本的な企画と当委員会との関わり合いについて常に考えながらシステムを考案していかなければならない。今年度はおおかた出来ていたと思うが、後のごみ分別・リサイクル担当の項で述べる、キャンセル模擬店に関する対応については十分でなかったと言わざるを得ない。

夏休み　ごみ問題を扱った本を読んでの感想文の提出、最終処分場についての勉強会と現地の見学を行った。社会におけるごみ問題の知識なしに当委員会の活動を行うことは無意味である。社会と当委員会の活動との結びつきを確認、実感するためこれらのことを行った。

９月　中旬に後期の例会が開始された。この時期に今年度のシステムを確立する。

10・11 月　11 月祭の諸企画が集まる企画担当者会議が始まり、実際に企画と関わることになる。11 月祭を作り上げる委員会の一つとして、自覚と責任ある行動が求められる。

当委員会の活動はその性質上、一方的な企画への押しつけになってはならない。直接企画と接する機会のあるこの時期、如何にして当委員会の活動に対する企画の意見を得るかが重要である。

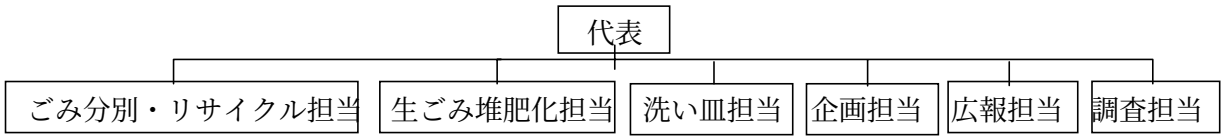
しかし、この点に関しては現在のところ当委員会の活動は不十分であるといわざるを得ない。企画担当者会議での意見の募集方法など、改善の余地はまだまだあるように思われる。難しいことではあるが、企画との意見交換の手段について更なる議論が必要であろう。

当日　いままで机上の産物であったものが実現する日である。当日の来場者や企画との接触などによって気づいた点はよく吟味し、実務的な面、および思想的な面においていかに来年度以降につなげていくか考えることが肝要である。後の各項であげる反省点等を単に表面的な改善で終わることなく、その原因となった思想的な部分にまで立ち入り、改善策を模索していくべきであろう。

なお、今年度の当日運営に関しては比較的スムーズに進んだと考える。

４．今年度の組織編成

当委員会は学生の団体である故に年ごとの委員の移り変わりが早く、その時々の委員の個性、人数に応じた組織編成が求められる。今年度は以下のような編成となった。



それぞれの担当の内容については後の各項を参照して頂きたい。

昨年度までの２部門６担当制から、部門を廃止し、代表の下に直接６担当を設置する形にした。これは部長を置かなくても担当間の意思疎通は可能であること、各担当の進行具合などを直接代表が把握、調整することが可能であること等の理由により部長を必要なしと判断したためである。ただ今年度は作業内容の多いごみ分別・リサイクル担当からいくつかの作業を独立化、もしくは他の担当に吸収させ、同担当の担当長を１人から２人に増やした。

組織変革の結果としては、担当間の意思疎通、代表の各担当の進行状態の把握、ともに特に問題はなかったが、来年度以降はまた中心となる委員が一新されるため、それに応じた組織編成を考える必要があるだろう。

最後に代表のあり方について思うところを述べる。

代表の役割としては以下の点が挙げられる。

- 対外的に 11 月祭環境対策委員会のすべての活動について責任を負う
- 理念および方針の提示
- 最終的な判断と決定の実施
- 議論すべき内容の提示
- 各担当の進行等の調整
- 各委員のまとめ役
- その他、外部との対応や必要とされる実務の実施

近年のコアスタッフの増加に伴い、委員会内には多様な価値観や委員会との関わり方が存在する。そのような場では、代表には議論すべき内容を提示し、議論の場を設定するという役割が求められると考える。

しかし、今年度に関しては十分にその役目を遂行できていたとは言い難く、11 月祭を迎えて初めて見えてきたことも多々ある。それらは 11 月祭終了後の活動や来年度の活動につなげていくつもりである。また来年度以降のことであるが、10 月以降は実務に追われることもあり、代表は早い段階での議論すべき内容の見極め、場の設定などに努めるべきであろう。

以上は私見であるが、来年度以降代表になる人は是非上記のことについて考えて欲しい。

５．おわりに

11 月祭環境対策委員会は 11 月祭の環境対策の中心的な役割を果たすことになるが、それは当委員会が事務局や模擬店、諸企画などに対して優位に立っているということではない。11 月祭の環境負荷に責任を負うのは祭りの全参加者であり、直接的に責任を負うのは企画や来場者である。当委員会はそれら責任者が責任を自覚し、環境対策を行うための一助となるもので、お互いに協力して 11 月祭をよりよいものにしていくものである。

ところで、今年度の 11 月祭環境対策委員会は初めて１、２、３回生がそろい、当委員会史上最も委員の多い年となった。今年度の 11 月祭では、初めて 11 月祭を経験する１回生、２回目の 11 月祭であり、中心回生である２回生、３回目の 11 月祭であり、中心回生の経験を持つ３回生と、三者三様の思いを持っていたであろう。また、このような立場の異なる委員同士が話し合うことによって有益な意見が生まれ、当委員会の活動に影響を与えることは間違いない。この貴重な経験を生かし、来年度以降もそれぞれの委員が活躍していってくれることを期待している。

また、最後になったが、当委員会の活動は様々な方面の協力により成り立っている。この場をお借りして、お世話になった関係各位のお名前を記し、感謝すると同時に来年度以降の変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いしたい。

京都大学 11 月祭全学実行委員会本部事務局
京都大学生活協同組合本部及び吉田食堂・中央購買部の各店舗
京都大学学生部課外教養課担当
京都大学学生部厚生課
京都大学有機農業研究会
京都大学応援団（前夜祭実行委員会）
株式会社ホーム・ケルン
株式会社ロンフォード
有限会社トカイ・トータルパッケージ
中谷酒店
稲田米穀店
中川米穀店
吉田米穀店
京都大学総合人間学部事務部施設・管理掛
京都大学農学部等事務部経理課
環境ネットワーク４Ｒの会
京都大学生活協同組合学生委員会

B. 調査担当

文責：児玉 真美

１．総量調査報告

(１)目的
　ごみの分別形態別の総量を知ることにより、本年度のごみの分別形態及び公設ごみ箱設置数が適切であったかを判断し、11 月祭におけるごみの各分別での排出量を調べる。そして来年度以降の公設ごみ箱設置数の参考にする。

(２)実施日時
　２００２年１１月２０日(水)～２５日(月)

(３)実施場所
　総合人間キャンパス構内吉田集積場

(４)調査内容
　＊割り箸、洗浄済みトレー以外の集積場で集めるごみ　→　集積場の項（P41）を参照
　＊割り箸
　　箱詰めの際、重量を測定する。

　＊洗浄済みトレー
　　洗浄したものすべてを集める際(片付け日)にまとめて重量を測定する。

　＊後片付け日グラウンドで集めるごみ（紙ごみ、ビニール･プラスチック類、段ボール）
　　①ごみ袋を適当に５袋選んで重量を測定する。
　　②ごみ収集終了後一定量のごみの置かれている場所の距離を測定する。（１～２m）
　　③測った距離までのごみ袋の数を数える。
　　④ごみのおかれている場所の距離を測定する。

(５)調査結果

	20 日(水)	21 日(木)	22 日(金)	23 日(土)	24 日(日)	25 日(月)	合計(kg)	個数
紙ごみ(kg)	184.4	151.4	187.8	324.0	677.5	315	1840.1	
ビニール･プラスチック類(kg)	125.5	91.5	102.2	172.2	287.2	448	1226.6	
缶(kg)	39.4	12.7	17.0	35.7	34.4	-	99.8	3400 本
びん(kg)		9.5	12.3	28.8	120.8	-	171.4	
生ごみ(米ぬか含む)(kg)		120.9	187.5	189.2	630.0	-	1127.6	
生ごみ(米ぬか含まず)(kg)							677.6	
ＰＥＴボトル(本)	274	172	281	712	1302	907	98.5	3648 本
未洗浄トレー(kg)		16.8	8.9	48.7	-	32.0	106.4	30000 枚
洗浄済トレー(枚)							13.7	3600 枚
割り箸							214.9	40000 膳
段ボール(kg)	-					2100	2100.0	
卵パック(枚)	2	33	118	121	-	-	6.3	274 枚
紙パック(kg)	0	1.4	-	-	7.6	1.9	10.9	360 枚
乾電池(kg)							-	11 本

注）斜線は回収なし、－はデータなし、下線は推定値
20 日の缶びんは重量測定の際分けなかったため合計のみ

過去との比較

	2000 年度	2001 年度	2002 年度
紙ごみ(kg)	1348.1	1513.3	1840.1
ビニール･プラスチック類(kg)	985.7	762.69	1226.6
缶･びん(kg)	588.6	396.25	310.6
生ごみ(kg)	601.9	546.03	677.6
ＰＥＴボトル(本)	1268	3478	3648
洗浄済トレー(枚) (推定)	7300	11400	3600
割り箸(膳) (推定)	27000	34000	40000

注）2000 年度の紙ごみ、ビニール･プラスチック類の値はそれぞれ可燃ごみ、不燃ごみの値で代用
2002 年度の紙ごみ、ビニール･プラスチック類、ＰＥＴボトルの値は後片付け日の分も含む

(６)検討・考察

・紙ごみ、ビニール･プラスチック類は、前夜祭から 4 日目までの総量はそれぞれ 1525.1kg、778.6kg で、前年度の 1513.3kg、762.7kg よりわずかだが増えている。最終日の量が多いという傾向が特に顕著だった。本年度は後片付け日に大まかな総量調査を行ったが、やはり無視できないほどの量が出されており、ビニール･プラスチック類は 6 日間で一番多い。ただし、これは雨の影響もあると思われる。
・缶とびんについては、今年から缶とびんを分けて計量したため、各々の重量は比較できないが、缶びんの総量は前年度と比べ、125kg の減少であった。これは、あとの PET ボトルの総量結果と合わせて考えると、PET ボトルの使用量増加に伴って缶やびんの使用量が減少したためと言える。
・PET ボトルは前年度に比べ、107 本の増加であるが、ほぼ変わっていないといえるだろう。
・洗浄済トレーについては、２日目、４日目に業者が未洗浄トレーを回収したことと、後片付け日は雨天のためトレー洗浄作業がなかったことから、非常に少ない量となっている。
・生ごみは前年度に比べ 131kg の増加、割り箸は前年度に比べ 4000 膳の増加である。二つをあわせて考えると、出食数が前年度より増えたものと考えられる。また、割り箸を使用した模擬店数が前年度の 46 店から 61 店に増えたということも原因に挙げられる。
・卵パック、紙パック、乾電池は初めてどの程度出されるのものなのかがわかった。
・缶は 38.2 本/kg、PET ボトルは 27g/本、トレーは 280 枚/kg、割り箸は 184 膳/kg、卵パックは 23g/枚、紙パックは 32.8 枚/kg として計算した。(数値について、缶、PET ボトルは組成調査より算出、トレー、割り箸、紙パック、卵パックはサンプルより計測)
・計算結果から、本年度のごみの総排出量は約 6.6t と推定できる。今まで言っていた「約４t」よりも大幅に多くなっている。今まで計量していなかった後片付け日のごみの量が含まれたことと、段ボールの重量が影響しているのだろう。

(７)反省・来年度への展望

・生ごみ、卵パック、紙パック、乾電池の調査用紙が不足していた。どの調査用紙が何枚必要か事前にもっとよく検討すべきだった。
・缶とびんの調査用紙を分けていなかった。1 日目以降は分けて調査するよう指示したが、前夜祭は分けずに記入してしまったためデータを生かせなかった。事前によく確認するべきだった。
・今年は卵パック、紙パック、乾電池を試験的に回収した。これらのリサイクルが可能かを検討した上で、来年度以降再び分別回収するか決定する際の参考としたい。
・後片付け日のごみ(特に段ボール)については後片付け日が雨天だったため、吸水しており乾燥状態のものより重くなっている。あまり有意な数値ではないように思う。
・本年度は初めて後片付け日の総量調査を行った。後片付け日は調査に割ける人員が少ないためおおよその値のみを計測する調査方法にしたことに加え、調査の準備が不十分だったため、数値はあまり正確ではないが、大体の量はわかり、11 月祭で出されたごみの量をより正確に把握できたと思う。

２．ごみ組成調査報告

(１)目的
　ＮＦにおいて出されるごみのサンプルを取り、それに含まれるごみの種類と種類別の重量を調査する。また、異物混入率から本年度のごみ分別が適切に行われたかどうかを見た上で本年度の環境対策委員会の指導やアピールの効果、及びスタッフの指導の程度を知り、来年度以降の参考にする。

(２)実施日時
　２００２年１１月２２日（金）～２５日（月）
８：００～９：００

(３)実施場所
　吉田集積場南トイレ前（ただし２５日（月）は雨天のため吉田食堂入口）

(４)実施方法
　①前日に紙ごみ、ビニール・プラスチック類、缶、びんのごみ袋をそれぞれ３袋ずつ確保しておく。
　　不法投棄防止のため集積場南トイレの裏に隠し、ビニールシートで覆う。
　②ごみ袋を開封し、組成調査分類にしたがって分類して、それぞれの重量及び個数を計測する。
　③調査が終了したら、ごみ袋は集積場に返還する。

(５)組成調査分類
　(1)プラスチック類
　　a. 発泡トレー(お椀型)
　　b. 発泡トレー(平型)
　　c. 透明フードパック
　　d. ＰＥＴボトル(500ml)
　　e. ＰＥＴボトル(500ml 以外)
　　f. プラスチックスプーン
　　g. プラスチックコップ
　　h. ビニール袋(ごみ袋・買い物袋・包装)
　　i. その他
　(2)紙類
　　a. 紙トレー(お椀型)
　　b. 紙トレー(平型)
　　c. 段ボール
　　d. その他
　(3)木片
　　a. 割り箸
　　b. 竹串
　　c. その他
　(4)金属類
　　a. スチール缶
　　b. アルミ缶
　　c. その他
　(5)生ごみ
　(6)びん
　　a. リユース可能なびん
　　b. リユース不可能なびん
　(7)その他

(６) 調査結果
　次頁参照

(７) 検討・考察
　過去のデータと比較して、多少分別率の下がっている品目もあったが、全体的に今年も分別率はよかったと思う。ただ、生ごみが特に混入してはいけないビニール・プラスチック類への生ごみの混入が多かったのが気になった。

(８)反省・来年度への展望
　・4 日目に調査したもので、缶とびんの袋が２袋ずつしかなかった。その日の集積場責任者が責任を持って確認し、ごみ袋の確保は確実にしておかなければならない。

・後片付け日は調査人員を他のシフトへ回したため人手不足のため２袋ずつしか調査できなかった。
・調査品目に紙コップの欄を作っていなかった。事前に調査用紙のチェックをもっとしっかりするべきだった。

調査結果

分類	品目	紙ごみ			ビニール･プラスチック類			缶･びん		
		重量(%)			重量(%)			重量(%)		
		2002 年度	2001 年度	2000 年度	2002 年度	2001 年度	2000 年度	2002 年度	2001 年度	2000 年度
プラスチック類	発泡トレー(お椀型)	0.08	0.15	0.00	1.24	0.27	0.00	0.00	0.00	0.00
	発泡トレー(平型)	0.17	0.36	0.18	0.27	0.88	0.06	0.00	0.00	0.00
	透明フードパック	0.12	0.16	0.55	16.58	22.77	0.55	0.00	0.00	0.00
	ＰＥＴボトル(500ml)	0.00	0.14	0.00	0.41	0.85	0.35	0.00	0.00	0.40
	ＰＥＴボトル(500ml 以外)	0.00	0.00	0.00	7.02	0.58	0.58	0.00	0.00	0.00
	プラスチックスプーン	0.00	0.03	0.11	0.94	1.24	0.88	0.00	0.00	0.00
	プラスチックコップ	0.05	0.28	0.01	0.91	9.31	3.20	0.00	0.00	0.40
	ビニール袋	0.18	0.52	0.35	38.65	7.46	5.68	0.00	0.05	0.25
	その他	17.80	3.40	1.41	15.27	34.46	39.81	0.00	0.09	23.39
紙類	紙トレー(お椀型)	0.55	1.07	1.34	0.00	0.69	0.00	0.00	0.00	0.00
	紙トレー(平型)	2.98	0.43	2.81	0.00	0.04	0.03	0.00	0.00	0.00
	段ボール	5.31	3.79	3.49	0.00	0.88	0.00	0.00	0.00	0.00
	その他	62.74	73.59	70.81	3.12	10.00	9.81	0.27	0.24	0.64
木片	割り箸	0.66	0.99	1.61	0.81	0.79	1.40	0.00	0.13	0.00
	竹串	3.08	4.06	1.44	0.37	0.14	0.06	0.01	0.01	0.00
	その他	1.06	0.37	0.08	0.23	0.14	0.02	0.02	0.01	0.00
金属類	スチール缶	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.75	11.66	11.53	17.90
	アルミ缶	0.03	0.00	0.00	0.00	0.24	0.79	18.86	23.57	27.24
	その他	0.05	0.10	0.57	0.25	0.89	1.72	3.26	12.58	13.86
生ごみ		5.12	7.52	8.07	13.94	2.99	12.40	0.00	0.01	0.25
びん	リユース可能なびん	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.40	6.33	2.36
	リユース不可能なびん	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	59.28	41.76	22.12
その他		0.00	3.04	0.98	0.00	5.37	0.26	0.23	3.69	0.00

３．模擬店実態調査報告

(１)目的
　ＮＦ当日の模擬店の実態を調査することにより、実際に出されたごみと集積所に集まったごみの量との関連などを調べ、内部資料として活用する。

(２)実施日時
　２００２年１１月２１日(木)　１３：３０～１４：３０

(３)実施方法･内容
　環境対策委員が模擬店の営業時間内に各模擬店を巡回し、以下の項目を記録用紙に記入する。
　①模擬店コード、模擬店名(あらかじめ記入しておく)
　②メニュー
　③使用容器(洗い皿、発泡スチロールトレー、紙皿、フードパック、非木材紙の紙トレー、プラスチックコップ、紙コップ、紙、アルミホイル、串、その他、なし　から選択)
　④食べる際使用するもの(貸し箸、割り箸、スプーン、フォーク、つまようじ、おからカトラリ

ー、なし　から選択)
⑤廃食油として回収できる油の使用の有無

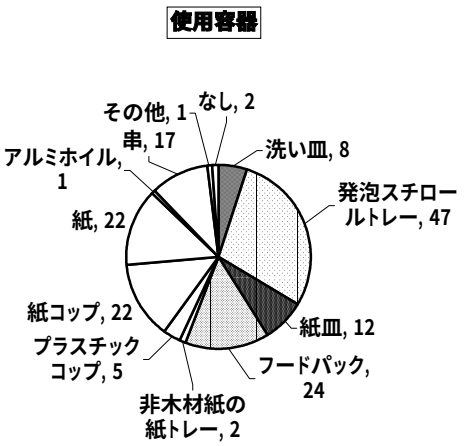
(４)実施結果
下記参照

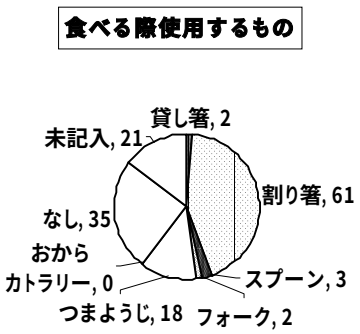
(５)検討･考察
・メニューについては、１模擬店で数種類のものを売っている模擬店が多く、複数回答とした。前年度の人気メニューＢＥＳＴ５はクレープ 14、焼き鳥・焼きそば 10、たい焼き・たこ焼き・ぜんざい 9 であったが、やはり人気メニューは変わらないようだ。
・使用容器について発泡スチロールトレーを使用する模擬店数が前年度の 39 店から増えている。発泡スチロールトレー、フードパック、紙の使用が多いという傾向は前年度と変わっていない。人気メニューが変わらないこととも関連しているのだろう。
・食べる際使用するものについて、割り箸を使用する模擬店が前年度の 46 店から大きく増えている。これは総量調査での割り箸の廃棄量の増加につながっていると考えられる。
・廃食油として回収できる油の使用の有無は、前年度は単に「油の使用」の調査であったため単純に比較することはできないが、揚げ物のメニュー数と関連して多いようだ。
・総量調査の結果とあわせて考えると、１模擬店あたりの割り箸使用数は約 650 膳、発泡スチロールトレー使用数は約 640 枚だった。

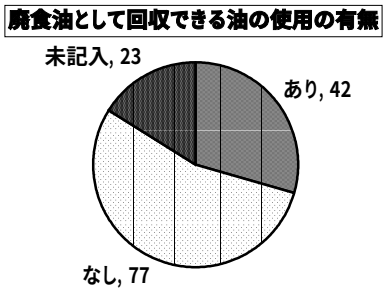
(６)反省･来年度への展望
・「食べる際使用するもの」と、「油の使用の有無」は未記入が多かった。実際調査したときに売っているところを見られないということもあったため、調査しにくかったが、できるかぎり調査したかった。
・本年度は、廃食油を回収していることとの関連を考え、油の使用ありの定義を廃食油として回収できるものと限定したため、廃食油関係の検討に使えるだろう。

実施結果

メニュー	店舗数	メニュー	店舗数	メニュー	店舗数	メニュー	店舗数
焼きそば	15	じゃがバター	3	ベビーカステラ	2	バナナジュース	1
たこ焼き	13	ぜんざい	3	ドーナツ	2	ういろう	1
クレープ	8	カレーライス	3	たません	2	スイートポテト	1
おでん	7	沖縄料理	3	ホットケーキ	2	餃子	1
焼き鳥	7	焼きおにぎり	3	ワッフル	2	水餃子	1
チョコバナナ	6	わらびもち	2	お茶漬け	1	大学いも	1
たこせん	5	もち	2	ごま団子	1	オムソバ	1
お好み焼き	5	揚げシュー	2	かにスープ	1	鶏ポン	1
コロッケ	5	りんご飴	2	豚キムチ	1	パウンドケーキ	1
フランクフルト	5	チヂミ	2	ココナッツミルク	1	わんこそば	1
から揚げ	4	揚げアイス	2	けんちん汁	1	蒸しパン	1
そば飯	4	豚汁	2	牛串	1	アイスクリーム	1
たい焼き	4	揚げパン	2	焼肉	1	ミルクせん	1
みたらし団子	4	焼きいも	2	一銭洋食	1	揚げさつま	1
焼きうどん	3	串かつ	2	綿あめ	1	味噌汁	1







４．模擬店企画者アンケート(ＮＦ前)

(１)目的

環境と学園祭に対する模擬店企画者の意識、及び環境虎の巻の効果が発揮されているかどうかを調査し、調査結果を 11 月祭事務局と環境対策委員会の環境対策改善のための参考とする。

(２)実施方法

企画担当者会議に慣れる時間や環境虎の巻を読む時間を考慮して、第４回模擬店企画担当者会議(11/5)においてアンケートを配布し、その場で回収する。

(３)アンケート内容と結果

（１）模擬店企画担当者会議での環境対策委員会の説明はいかがでしたか？

Ａ）わかりやすかった　　Ｂ）普通　　Ｃ）わかりにくかった

Ａ）18　Ｂ）81　Ｃ）12　無回答 3

（１－Ｃ）（１）で「わかりにくかった」と答えられた方にお尋ねします。

どのような点がわかりにくかったのですか？(複数回答可)

Ａ）声が小さかった　　Ｂ）話すスピードが速かった

Ｃ）内容説明自体がわかりにくかった　Ｄ）周囲がうるさかった

Ｅ）その他

Ａ）4　Ｂ）4　Ｃ）3　Ｄ）2　Ｅ）3

（２）環境と学園祭とのかかわりについて模擬店企画者としてどうお考えですか？

Ａ）普段から環境負荷を減らそうと努めており、学園祭においてもそうしたい。

Ｂ）普段は環境負荷を減らそうと努めているが、学園祭という場においては環境負荷をあまり考えない。

Ｃ）普段は環境負荷を考えていないが、学園祭という場においては環境負荷を減らそうと努めたい。

Ｄ）普段から環境負荷を考えておらず、学園祭においても考えない。

Ｅ）その他

Ａ）47　Ｂ）25　Ｃ）37　Ｄ）4　Ｅ）0　無回答 1

（3）あなたの模擬店では洗い皿を使用しますか？
A）はい　　B）いいえ
A）9　B）105

（3－B）（3）で「いいえ」と答えられた方にお尋ねします。
あなたの模擬店ではなぜ洗い皿を使用しないことにしたのですか？(複数回答可)
A）メニューから不要だったから。　B）メニューが未定だったから。
C）コストがかかりそうだったから。　D）手間がかかりそうだったから。
E）衛生的によくなさそうだったから。　F）知らなかったから。
G）使いたい種類の皿がなかったから。　H）その他
A）37　B）24　C）13　D）35　E）3　F）2　G）11　H）8

（4）あなたの模擬店は生ごみ堆肥化参加模擬店ですか？
A）はい　　B)いいえ
A）17　B）96　無回答 1

（4－B）（4）で「いいえ」と答えられた方にお尋ねします。
生ごみ堆肥化に参加しないのはなぜですか？(複数回答可)
A）手間がかかりそうだから。　B）面白くなさそうだから。
C）不潔そうだから。　D）知らなかったから。
E）その他
A）50　B）7　C）2　D）24　E）15　無回答 4

（5）あなたの模擬店は非木材紙の紙トレー(パルプモールド、おからカトラリー)を使用しますか？
A）はい　　B）いいえ
A）3　B）108　無回答 3

（5－A）（5）で「はい」と答えられた方にお尋ねします。
非木材紙の紙トレーを使用するのはなぜですか？
A）環境にやさしいから。　B）広報をしてもらえるから。
C）見栄えがいいから。　D)その他
A）1　B）2　C）0　D）1

（5－B）（5）で「いいえ」と答えられた方にお尋ねします。
非木材紙の紙トレーを使用しないのはなぜですか？
A）メニューから不要だったから。　B）メニューが未定だったから。
C）コストがかかるから。　D）知らなかったから。
E）見栄えが悪いから。　F)その他
A）47　B）15　C）25　D）12　E）4　F）5

（6）環境虎の巻をすでに読まれましたか？
A）すべて読んだ。　B）部分的に読んだ。
C）まだ読んでいないがこれから読むつもりだ。
D）読むつもりはない。　E）代表者ではないのでわからない。
A）30　B）60　C）15　D）1　E）7　無回答 1

以下は環境虎の巻を読まれた方にお尋ねします。
（7）環境虎の巻で読んだものにすべて○をつけてください。
A）模擬店企画のみなさんへ(p.1)　B）ごみの分別と諸注意(p.2～3)
C）各模擬店が行う作業(p.4～5)　D）各作業の時間帯(p.6～7)
E）ごみ箱地図(p.8～10)　F）スプレー缶とごみ袋について(p.11)
G）ごみのリサイクルフローチャート(p.12～13)　H）４Ｒの重要性(p.14～15)

Ｉ）過去の模擬店データ集(p.16～19)　　Ｊ）生ごみ堆肥化への道(p.20)
Ａ）62　Ｂ）61　Ｃ）61　Ｄ）61　Ｅ）57　Ｆ）47　Ｇ）37　Ｈ）42　Ｉ）70　Ｊ）43

（８）ごみの分別形態やトレー洗浄シフト等当日どうすればよいかわかりやすかったですか？
Ａ）わかりやすかった　　Ｂ）普通　　Ｃ）わかりにくかった
Ａ）12　Ｂ）56　Ｃ）14

（９）データ集は役に立ちましたか？
Ａ）役に立った　　Ｂ）どちらともいえない　　Ｃ）役に立たなかった
Ａ）46　Ｂ）31　Ｃ）4

(10) ＮＦのごみの分別数についてどのようにお考えですか？
Ａ）多すぎて面倒だ。　　Ｂ）多いが環境のためなら仕方がない。
Ｃ）ちょうどよい。　　Ｄ）もう少し増やしたほうがよい。
Ａ）10　Ｂ）44　Ｃ）28　Ｄ）0

(11) 環境虎の巻について意見や感想等ございましたらご自由にお書きください。

(４)検討・考察
（１）環境対策委員会の説明はおおむね理解してもらえたようだ。
（１－Ｃ）その他の意見は「パンフレットをそのまま読むのは時間の無駄」「説明にアクセントがなく聞きづらかった」「長々と話されて要点がつかみにくかった」「説明に慣れていない」というものがそれぞれ１ずつだった。説明内容を簡潔にし、要点を明確にする努力が必要なようだ。
（２）学園祭において環境に配慮したいと考えている人は全体の 74%にのぼった。特に、普段配慮していないという人の中で、学園祭においては配慮したいと答えた人は 90%であった。
（３）実際に洗い皿を使用した模擬店数は８店なので、どこかが間違えたか、キャンセルした模擬店が「はい」と答えたかだろう。洗い皿を使用する模擬店はすべてアンケートを提出している。
（３－Ｂ）メニューの関係で使用しないとの意見が多かった。しかし、やはり手間がかかるという回答も多かった。また、使用したい種類の皿がないという回答もあったことから、次回皿を買い足す際にはどの種類の皿を購入するか検討が必要だろう。その他の意見では、「客に皿を返却してもらわなければいけない」というのが３、「紛失しそう」、「皿を洗う際の環境負荷を考えると洗い皿が本当に環境にやさしいか疑問」、「先輩の命令」、「人手不足」、「デザイン」というのがそれぞれ１ずつだった。
（４－Ｂ）やはり手間がかかるという回答が大多数を占めた。しかし洗い皿に比べ、知らなかったという回答が目立った。生ごみ堆肥化の広報の検討が必要だろう。その他の意見はすべて「生ごみが出ない」というものだった。また、「生ごみ堆肥化を広めたいなら生ごみを出す模擬店は全店強制参加にしてもよいのでは」という意見もあった。
（５）非木材紙を使用する模擬店はまだまだ少ない。
（５－Ａ）環境への配慮と広報のメリットが大きいようだ。その他の意見は「高熱のものを発泡トレーに入れたくなかった」というものだった。健康面へも配慮しているようだ。
（５－Ｂ）これも洗い皿と同様にメニューの関係で使用しないとの回答が多数を占めた。やはりコストがかかるというデメリットは大きいようだ。また、生ごみ堆肥化と同様、「知らなかった」との回答も目立つ。広報の検討が必要だろう。その他の意見は「洗い皿を使うので」というものが４、無回答が１だった。
（６）少しでも環境虎の巻に目を通している模擬店は全体の 79%。前年度より少ないものの、大体の企画担当者は読んでいるようだ。環境虎の巻は十分機能しているといってよいだろう。
（７）やはりデータ集はよく読まれている。当日必要な情報の掲載されているページはよく読まれているが、概念的なページはあまり読まれていないようだ。
（８）当日必要な情報はよく伝わっているようだ。
（９）半数以上の人の役に立っているようだが、どちらとも言えないと答えた人も多い。
(10) 多いと感じている人が多数だが、環境のためなら分別しようという意識を持っているようだ。
(11) 回答数は５。
「模擬店の 9 割以上が飲食取扱だと思われるので仕方ないとは思うけれど、基本的に関係ない話

ばかりはつらいです」
「ごみ箱に雨だったらわざわざビニールをかぶせさせるというのは面倒です。最初からビニールをかぶせておいても問題はないのでは？」
「データ集役立ちそう！値段も書いてくれればよかったのにと思う。」
「過去のデータをもっと詳しくしてほしい」
「洗い皿の返却がその場でなく、いろいろなところに設置したらよいのではないだろうか？」
環境対策のシステムについての積極的な問題提起が見られ、模擬店側からの意見を聞けるよい場になった。

(５)反省･来年度への展望
（９）（11）からわかるように、データ集については不十分な点があるようだ。データ集をさらに充実させる必要あるだろう。模擬店企画者アンケート(ＮＦ後)の回収率の向上を図るなどの対策を考えるというのも一つの方法だろう。値段に関しては、量によって値段が異なるため有効なデータが得られず、またそもそも環境対策の目的から外れると考えたため、本年度は調査しなかった。来年度以降そのことを考慮しつつ、値段を調査すべきか検討してもらいたい。

５．模擬店企画担当者アンケート(NF後)

(１)目的
11月祭全体について模擬店側の環境対策委員会に対する意見を聞き、来年度以降の環境対策委員会の活動を改善する参考資料とする。

(２)実施日時
2002年12月２日(月)～６日(金)　事務局の保証金返還時間(回収日時)

(３)実施場所
11月祭事務局本部BOX(回収場所)

(４)実施方法
環境虎の巻の巻末に添付し、11月祭終了後に模擬店側が事務局に保証金返還で訪れる際にアンケートを提出してもらった。

(５)調査結果
A、11月祭環境対策委員会及びその活動についておたずねします。
A－1　会場内のごみ回収の作業負担はどうでしたか？
ア、かなり大変だった。　イ、大変だったがこれくらいだと思う。
ウ、普通。　エ、もう少し負担すべきだと思う。
ア、３　イ、５　ウ、３　エ、０

A－2　トレー洗浄の作業負担はどうでしたか？
ア、かなり大変だった。　イ、大変だったがこれくらいだと思う。
ウ、普通。　エ、もう少し負担すべきだと思う。
ア、３　イ、３　ウ、２　エ、０　していない(中止、洗い皿のため)　２　無回答　１

A－3　11月祭中、ごみ回収システムやトレー洗浄システムについてとまどうことはなかったですか？
ア、とまどうことがあった。　イ、普通。　ウ、特に問題はなかった。
ア、７　イ、４
A－3’　A－3で（ア）と答えた人にお聞きします。どのような点にとまどいましたか？お書きください。
・当番を忘れてしまうことがあった
・回収場所がわかりにくかった
・担当ごみ箱内での分別に関して多少疑問を感じた。こっちでやることではないと思う。
・お客さんが分別の仕方を理解していなかったのでもっとわかりやすくしてあげてほしい。

・ペットボトルのラベル、本体、キャップを分別する点
・どのごみ箱に入れたらいいのかわからないものがあった(ソースのペットボトル、油のついたタオル)
・当日になって指示されるまでよくわからなかった。

A－4　全般・その他について何か要望点・改善点などあればお書きください。
・テントの受け渡しに手落ちがあって２回運ばされた。
・トレー洗浄は模擬店で平等に分担しようという趣旨だと思うが、トレーをまったく使用しない店までも洗浄する義務があるかどうか疑問だ。
・流し台をもっと増やしてほしい。
・前年までの意見なども載せたり、または会議で説明してくれたら参考にできたのにと思う。
・トレー洗浄中止の連絡がわからなくて、しかも洗浄場に中止を知らせる役員がいないので戸惑った。

B、環境虎の巻についておたずねします。
B－1　環境虎の巻に目を通しましたか？
ア、すべて目を通した　　イ、ほとんどに目を通した
ウ、ほとんど目を通していない　　エ、まったく目を通していない
ア、６　イ、４　ウ、１　エ、０

B－2　環境虎の巻ｐのデータ集について模擬店運営の際、このページは役に立ちましたか？
ア、役に立った　　イ、ふつう　　ウ、あまり役に立たなかった
ア、９　イ、１　ウ、１

またデータ集に追加してほしいと思う項目があれば、お書きください。
・焼き鳥で１日の売り上げで「食」となっていたので本数で表してほしかった。
・場所別、むしろ地図上で示してほしい。
・販売額、残った量

B－3　環境虎の巻を来年度以降も作ることについてどう思いますか？
ア、必要ないので作らなくてもよい。　　イ、作っても作らなくてもよい。
ウ、改善を加えて作ってほしい。　　エ、今年と同じものを作ってほしい。
ア、０　イ、２　ウ、６　エ、３

B－4　環境虎の巻に関して要望点・改善点などあればお書きください。
・もう少しコンパクトにまとめてほしかった。
・やるべきこととやらなくてもいいことをはっきり明示してほしい。
・会議の始まりと終わりの時間もはっきり決めてほしい。

(６)検討・考察
・ごみ回収、トレー洗浄は大変だったという意見が多かった。また、トレーを使用しない模擬店のトレー洗浄の義務についてはこのような意見も来年度以降の参考としたい。
・分別の仕方がわかりにくいという意見が見られた。来年度以降よりわかりやすい表示を心がけなければならない。
・環境虎の巻については、よく読まれており、データ集も役に立ったようだ。改善を加える必要があるとの意見が多かったことも踏まえ、来年度以降改善していかなければならない。
・中には環境対策委員会ではなく事務局に関するものと思われる意見もあった。やはり模擬店側は両者を混同しているのだろう。

(７)反省・来年度への展望
回収枚数が一昨年の 25 枚、昨年の 19 枚から 11 枚と年々減少している。やはり後日回収となると忘れてしまうのだろうが回収率が 10%を切っているのは問題だ。アンケートの配布、回収システムの見直

しが必要である。来年度以降、よく検討してより高い回収率を見込める方法を考案していくべきだろう。

６．メニュー･売上及び容器･食材購入量調査

(１)目的
　模擬店のメニュー･売上及び容器･食材購入量を調査し、来年度以降模擬店を開く団体が適切な容器・食材購入量を把握し、買いすぎによる廃棄を減らすための資料とする。

(２)実施日時(３)実施場所(４)実施方法
　これらは「模擬店企画担当者アンケート(ＮＦ後)」に準ずる。

(５)調査結果・考察
　これらのデータは本報告書に直接関係してこないので、掲載を割愛する。データは来年度、資料として模擬店側に配布する予定である。

(６)反省・来年度への展望
　模擬店企画担当者アンケート(ＮＦ後)と同様回収枚数は少なく、19 枚であった。回答内容については模擬店全体を把握していなければ答えられないので、回答が難しいということも回収枚数が少ない要因のひとつだろう。この調査内容は年度によらないものなので毎年調査を行ってデータを蓄積していけばよいのだが、やはり回収枚数を増やし、より有用なデータにすることが重要である。模擬店企画担当者アンケート(ＮＦ後)と同様、回収システムの見直しを図り、来年度以降、よく検討してより高い回収率を見込める方法を考案していくべきだろう。
また、さまざまなアンケートからも、模擬店側は価格のデータを求めているということがわかっており、価格は同じメニューでも一様に扱えないという難しさはあるが、今年度調査した価格を来年度以降のデータに生かしたい。

C. 広報担当

文責：南 昌宏

・目的
　各模擬店、来場者にごみの分別方法や各環境企画など、ＮＦ当日の環境対策と環境対策委員会の活動を知ってもらい、ＮＦにおけるごみの発生抑制、リサイクルの徹底だけではなく、日常生活のごみ問題についても考えてもらう。

１．環境虎の巻について

(１)環境虎の巻とは
　環境虎の巻とは模擬店に当日の作業を説明し、11 月祭においてのごみ分別の必要性を理解してもらうために作られた冊子で、当日の作業以外にも様々な情報を載せてある。環境虎の巻は２年前から作られている。これが作られたのは３年前までのばらばらのレジュメを企画担当者会議(以下、企担)のたびに配っていたが、「紛失しやすい」「当日になって何をしたらいいか分からない模擬店がよく出た。」という問題の解決のためである。この冊子は模擬店側が保管しやすいこと、当日の諸作業を簡単に示すことを念頭において作られた。

(２)製作にあたっての留意点
①表紙は去年と同じく青を使用した。これは環対のイメージカラーであり、かつ事務局が配る模擬店「虎の巻」の表紙と一緒にならないようにとの配慮からである。

②重要なものを前の方におき、参考程度のものは後の方においた。また、アンケートなど後に虎の巻から切り離すものは一番後ろにおいた。アンケートによると前の頁よく読まれているが、これはおそらく内容によるものと推測される。つまり、環境対策委員会が企担の度に開けて下さいと

いっている頁（それだけ重要と思われる頁）が前の方に集まっているためと思われる。ページ配置に関しては今のままでいいと考える。重要なものを後ろにしては企担の時に開けにくく、当日の作業などの説明の時に見ない模擬店が出るかもしれないからである。また、啓発も確かに重要であるが、啓発を前のほうにもってくると、諸作業の項目をあまり見ないことによって当日の運営に差し障りが出る可能性が否定できない。

③洗い皿アンケートを昨年度付したがあまりにも回収率が低かったので、環境虎の巻に付することをやめた。そこで、洗い皿アンケートはＮＦ最終日に企画参加者が最後に洗い皿を持ってきた時に、そこでアンケートを書いてもらった。

(３)スケジュール

７月　中旬	環境虎の巻の製作決定、原稿担当者決定
７月２９日	第一回環境虎の巻原稿提出
９月２３日	原稿最終締切り
９月２７日	事務局に原稿提出
９月３０日	事務局から原稿回収 即日、印刷（190 部）、完成
１０月２日	第一回模擬店企画担当者会議にて配布

(４)概要（カッコ内は使ったページ数）

・表紙（１）

・模擬店の皆さんへ（１）
環境対策委員会代表から模擬店へのメッセージ。これによって、ＮＦにおけるごみ分別の重要性をまず認識してもらう。

・ごみの分別と諸注意（２）
ＮＦ当日におけるごみ分別の説明と分別における諸注意。

・各模擬店が行う作業（２）
ＮＦ当日に各模擬店が行う作業。具体的にはごみ箱点検とトレー洗浄。

・各作業の時間帯（２）
模擬店のする各作業の時間帯をかいたもの。

・ごみ箱地図（３）
各模擬店の担当ごみ箱がどこにあるか記したもの。

・スプレー缶とごみ袋について（１）
スプレー缶の使用禁止の呼びかけとＮＦ当日に使ってもらうごみ袋の説明

・ごみのリサイクルフローチャート（２）
ＮＦで分別回収されたごみが最終的にどのように処理されるかを記した。分別の意義を模擬店に感じてもらうことを狙った。

・４Ｒの重要性（２）
ＮＦだけではなく、生活全体の中でごみ問題が重要な社会問題であり、そのごみ問題を少しでも解決の方向にもっていくための４Ｒの重要性を説いた。

・過去の模擬店データ集（４）
過去の模擬店が何を売って、どれくらい仕入れて、どれくらい売れて、どのくらいのあまりが出たかを集計したもの。模擬店が必要以上に食材を買って、ごみを増やさないようにするため。

・生ごみ堆肥化への道（１）
生ごみ堆肥化の紹介とその作業工程の説明。そして、参加の申込み用紙を載せたもの。

・模擬店企画担当者アンケート（NF後）（２）
模擬店に対する色々なアンケート。（P19参照）

・売上げチェック表（１）
来年度以降の資料にするため。（P21参照）

・裏表紙（１）
各模擬店の作業の時間帯を書いたもの。一番見やすい位置に配置した。
＊ただし、模擬店企画担当者のアンケートの裏は白紙である。

(５)反省
環境虎の巻が今年度、どれくらい模擬店の役に立ったのか、またどのくらいの方々が読んだのか。当日、巡回指導などをしながら、「環境虎の巻は知っていますか？」とたずねたところ、責任者以外は環境虎の巻が何かすらわかっていない場合が多いことが判明した。しかし、祭りを通じて知名度は多少あがっていくものと思われる。今年は、第一回模擬店企画担当者会議の時期が早くなったこと、また模擬店配置がなかなか決まらなかったこともあったが、私の不明により、模擬店配置が決まる前に書ける部分についても後回しにしてしまった。仕方のない部分はおくとしても、他の部分を事前にもっと把握しておくべきであった。そのために印刷、製作が非常に差し迫ったものとなってしまった。来年度はこのようなことがないように、担当者には気をつけてもらいたいところである。

(６)今後にむけて
環境虎の巻の知名度を当日までにもっとあげておく必要がある。やはり、当日の作業を滞りなくするには環境虎の巻の内容をよく読んでおく必要がある。そのための広報がもっと必要になってくるのではないだろうか。

２．今年の本祭中における広報活動について

(１)立看板を中心とした広報
立て看が多くなったのは去年までに作成した立て看も多く、また、広報活動として次の2点で非常に有用であると思われたからである。まず、大きいので人目に付きやすく、環境対策委員会の活動やＮＦですべきことを来場者に伝えられる。また、当日は他の作業に多くの人員を必要とする。立看板ならば設置さえすれば、後の人員はかけなくて済むので、当日の運営に負担をかけることはない。

(２)各看板の概要と寸評(カッコ内の㎝×㎝は全て縦、横の順に並んでいる。)
①生ごみ堆肥化参加模擬店ＰＲ(180㎝×270㎝)
生ごみのごみ袋が３つ並んだ絵の看板。生ごみの堆肥化をしていることを来場者にＰＲするためのもの。これは総人構内の東門近くに置いた。人通りも多く、また大きいのでかなりの宣伝効果があったように思える。

②来場者向け洗い皿宣伝（180㎝×180㎝）
擬人化された大きな皿がコメントしている看板。洗い皿を使って使い捨ての容器の節約に努めている模擬店があることをＰＲするためのもの。これは洗い皿を多く使用している吉田グランドの南東角東においた。多少倉庫の影になってしまったが、人通りは多かったと思われる。

③来場者向けごみの分別説明（180㎝×270㎝）
11月祭のごみの７分別に協力をお願いしますという内容の看板である。会場のごみ分別を来場者に説明するためのもの。誰もが通るであろう総人仮門前に設置した。分別率が高かったので、宣伝効果も十分にあったと思われる。

④環境企画参加模擬店ＰＯＰ説明、模擬店配置図

生ごみ堆肥化、洗い皿、非木材紙。この３つの参加模擬店の店頭ＰＯＰを説明するとともに、その模擬店の位置を記した地図を書いてある看板。これはＡ号館Ｔ字路近く、東一条、レストスペースの３箇所に設置した(レストスペースについては企画担当参照)。比較的目立つ場所に配置した。

⑤巨大環対ＰＲ看(270 ㎝×180 ㎝)
環対の様々活動を書いたＰＲ用の看板。来場者に環境対策委員会の活動を知ってもらうためのもの。本部構内時計台工事中のところに設置。設置する際、立てかける以外出来なかったので工夫しておいた。しかし、設置のためにガムテープを直接壁に張ったために撤去後もガムテープが壁に残ってしまった。もう少し考えるべきであった。

⑥洗い皿選挙看板(90 ㎝×270 ㎝)
⑦リサイクルマーク看板(90 ㎝×270 ㎝)
⑧最終処分場(90 ㎝×270 ㎝)
⑨横大路学園(90 ㎝×270 ㎝)
⑩生ごみＰＲ立て看(90 ㎝×270 ㎝)
⑪環対全体立て看(90 ㎝×270 ㎝)

＊⑥～⑪はレストスペースに設置した。（Ｐ27 参照）

(３)立看板の製作について
今年は例年になく芸術的な出来映えを重視した。しかし、綺麗さを追求したあまりに他の作業を圧迫するほどに時間を費やしてしまったと思う。作成スケジュールの前倒しと参加人員の強化である程度はカバーできるだろうが、しかし、それにしても問題が残る。(詳しくは後述)この点は反省しなければならない。広報は重要であるが、スタッフに過度な負担をかけてはいけない。個人的な意見であるが、ある程度の綺麗さは要求されるがそれ以上は求めてはいけない。8 割方の綺麗さを実現するのは比較的簡単であるが、完璧に綺麗なものにするのには非常に疲れるものである。意外と適当でいいのではないのだろうか。今年は一部の人間にレタリングをしてもらって、残りの人間が丁寧に色を塗るというものであったが、これは非常に手間がかかり、レタリングをする人に過度の負担がかかるものである。字として認識できれば、目的は達成できるので、負担軽減のために多少雑になってもよいと考える。広報効果について、立て看板は遠めに見るものなので、多少雑でもそれなりの後方効果をあげることが出来ると目される。
また、今年の立て看板の製作決定については広報が他の担当の希望を聞いて、そしてそれを元にするというものであった。しかし、あまりに、希望が遅いと原案の提出期間もあり手が回らなくなる可能性がある。そのため、締切日を設けることも来年度は考えたほうがいいと思われる。（各委員も分かっているが、10 月半ばでも厳しくなる時がある。これも私の不明によるところである。）ただし、厳密にしすぎると、途中でいい考えが出てきたときに（担当の事を深く知ることによって何か新しい考えが浮かぶというのは多々あるものである。）きってしまうので、バランスが重要である。
また、今年度の広報物作成の方針は前述の通りであるが、他の担当は実務に追われて広報まで頭が回らない可能性があるので、広報からの提案があっても良いと思われる。

(４)今後に向けて
今年の広報はほぼ立て看のみとなってしまった。この点は反省しなければならないと思っている。立て看のみでは来場者がどれほど理解してくれているのかが分からないからである。他の手段として、人員に余裕があれば、お祭広場などでアンケートを実施してもよかったとも思う。反省点はこれだけにとどまらない。立て看は使い回し出来るところが大きな利点であるが、今回は紙で作った部分が多くあり、来年に回せるかが非常に難しいところである。特に各環境企画参加模擬店配置図は綺麗に作ったものの来年は絶対に使えない。また、立て看は設置場所の確保が難しく、製作にも多くの人手と時間がかかる。製作の決定は迅速に行わなければならないが、今年はこれが遂行出来たかどうかが疑問の残るところである。((３)を参照）また、環境企画に参加してくれている模擬店を宣伝するような看板を今年は設置できたが、11 月祭において模擬店間の公平さを重んじる事務局の理解があって始めて出来ることである。今年は事務局側の理解によってそれほど食い違いは起きなかったが、事務局と協力することは必要不可欠なので今後もよい関係を築いていきたいと思っている。

３．その他の広報物

(１)その他広報物
11月祭パンフレット(見開き２ページ＋1ページ＋0.5ページ)
パンフレットがどれだけ出回っているか分からないが、それぞれの企画を説明できたこととごみの分別の説明が出来たことは非常に有益だったと思っている。

・目的
ＮＦ当日の各環境企画、ごみ分別の仕方を知ってもらう。

・内容
環境企画の説明とごみ分別の説明。それから、環境対策委員会の代表の言葉を入れた。

・スケジュール
７月８日・・・・担当決め
７月１５日・・・第一稿提出
７月２９日・・・第二稿提出
９月１６日・・・最終稿提出。
９月中旬・・・・事務局に提出。

・今後に向けて
パンフレットは締め切りが早いので、少し急ぐ必要がある。また、間に夏休みが入ることも考慮に入れなければならない。私の不明のせいであるが、今回は最終稿の校正が少なかったように思える。

４．洗い皿、非木材紙、生ごみ堆肥化、それぞれの参加企画広報について

洗い皿、生ごみ堆肥化については目的・意義を重視して、それを理解してくれない模擬店には参加してもらうこともないというスタンスで広報を行った。これは去年洗い皿においてキャンセル模擬店が出て、また、模擬店もコスト面しか考えていない模擬店が存在したため環境を考える人に使ってもらうというスタンスになったからである。一方、非木材紙については生協がからんでくるため、使ってもらうことを第一に考えて、広報をした。

５．集積所広報について

(１)ごみ速報
ＮＦ期間中に、昨日までに出たＮＦのごみ集計を記したもの。これによって、どれくらいのごみがＮＦで出ているのかが各模擬店企画にも分かり、啓発効果が期待された。

(２)ごみのリサイクルチャート
ごみが分別されてどこにいくのかを記したもの。ごみ分別の意義を感じてもらうためにした。

(３)結果
様々な効果が期待された集積所広報だったが、前日に集積所に置き忘れた結果、ごみと間違われて全てをもっていかれてしまった。やはり、集積所に置き忘れたのはまずかったのであろう。来年度は、物品は吉田食堂内で保管しなければならない。

６．広報を担当としておくことの意義

広報は非常に重要なものであることには疑いはない。前述したが、他の担当は実務に追われて、広報まで気が回らないことがある。また、各担当でそれぞれの広報を管理する場合、どうしても煩雑になる可能性が否定できない。とすると、どこかで一括して広報物について管理する必要がある。

他にも、生ごみ堆肥化参加模擬店ＰＲ立て看などのように、どの担当か分かりやすい広報物は各担当でも管理できないことはないかもしれないが、ＮＦ公式パンフレットや環境虎の巻のように、どこの管理下におくかハッキリしない広報物もある。このような煩雑な広報物を管理することだけでも広

報を担当としておく意味があるのだと信じたい。

７．総括

今年度の広報は一方的なものに終わってしまったかもしれない。広報はもともとそのような部署であるかもしれないが、やはり、来場者がこちらの広報を見てどのように思ったぐらいのことは知るべきであったかもしれない。来場者への今回の広報は基本的に環境企画の宣伝が主だったように思える。スタンスとしては目的･意義を来場者に伝えるよりも使ってもらうことを重視した。一方で、洗い皿、生ごみ堆肥化参加企画に対しては参加者獲得よりは目的などを重視した。そして、その二つに関しては企画参加者に対してはトラブルが起きないようにメリット、デメリットを併記した。しかし、非木材紙皿参加企画（P35 参照）の場合は参加してもらうことを重視した。これは非木材紙皿の場合は生協の利益が絡んでくるためである。来年も非木材紙皿を入れてくるように生協にお願いすることになると思うので、この問題は考えなければならない。広報はどうしても、他の関わりをもたなければならないので、この点を考えつつ広報しなければならない。

８．巡回

(１)目的

模擬店のごみ箱管理及び、ごみ回収作業の周知と徹底

(２)内容

・本祭期間中、模擬店配置図と一覧を持参し、毎朝９：３０より営業開始前の模擬店を巡回し、担当ごみ箱の設置を呼びかける。その際にトランジッションメガホンを使用して一斉に呼びかける。また、昨年度の反省から、呼びかけ後、帰りには設置をしていない模擬店には注意を呼びかける。
・毎日昼から夕方にかけて以下のごみ箱点検回収時刻前後に模擬店を巡回し、担当ごみ箱の点検回収を呼びかけるとともに、作業が行われているかをチェックする。また、最終巡回時にはテント内へのごみ箱の保管も呼びかける。朝と同様、出来ていない模擬店には注意を促す。

＜実施時刻＞

１４：００～　１５：３０～　１７：００～

原則として１４：００～と１７：００～は模擬店を個別に回り１５：３０～はトランジッションメガホンを使い、一斉に呼びかけた。

(３)当日の報告

・２日目の朝はまだ模擬店ごみ箱管理システムが行き渡っていないこともあり、時間が非常にかかった。これはおそらく毎年のことであるので、来年度はシフトの時間を長くするなり、新しくシフトを作成するなり、対応する必要がある。今年度は、巡回とは別に急遽補修班を作って、回らせたが、これはあまり好ましくないと思われる。
・ごみ箱が風で倒れたため、その補修などに時間がとられた。ごみ箱の補修はごみ箱を六つ連ねてガムテープで結合させた。
・今年は、模擬店チェックリストと模擬店配置図(この二つはセットになっている)を複数部用意したので、巡回自体は滞りなく出来たと思われる。ただし、地図にはごみステーションの位置や担当ごみ箱の番号を書いていなかったので途中で書き加えた。事務局からもらった地図は環境対策委員会用にカスタマイズされていないので少し修正を加えないといけない。チェックリストには日付がなかったため、何日目のどの巡回かの情報か分からず、多少の混乱があった。また、チェックリストと配置図は一人一部あった方がいいという意見もあり、来年は 5 部以上用意しておくのが望ましいと思われる。さらに、チェックリストは毎日更新したものをさらにコピーして使用。しかし、これは意外と大変な作業なので、更新担当者が必要である。
・来年度以降、ごみ箱についての巡回の報告を効率的に管理するために、各ごみステーションごとの記入用紙を用意するといいと思われる。
・３日目、４日目ともなってくると模擬店ごみ箱管理システムを模擬店側が理解してくるので、巡回をする必要がなくなってくる。きちんとしてくれる模擬店はきちんとしてくれる。こうした模擬店に何度も行くのは無駄というものであろう。巡回指導をする必要があるのはごく一部の模擬店に限られてくるので、3 日目、4 日目はチェックリストに書いてある模擬店のみを回るなどの効率化が

求められる。

(４)今年度、巡回を広報の下においたことについての意義
今年度、巡回指導は広報の下におかれた。半分、分リサの担当者が急に倒れたため、おはちが回ってきた形であるが、いいことではないかと思う。立て看やパンフだけでは、模擬店側にどれほどの広報効果があったのかが分かりにくい。しかし、巡回することによって、模擬店の人たちの反応もみる事が出来、広報効果も知ることが出来る。また、巡回途中に模擬店の方々に対して、新たな広報をすることも不可能ではない。(ただ、今は案が出てこない。) 今年度は本当に巡回だけに終わってしまったが、来年度からはもう少し違ったアプローチも出来ると考える。

D. 企画担当

文責：三木 悠平

今年度の企画担当は 11 月祭環境対策委員会の企画として「レストスペース」を行った.

１．目的

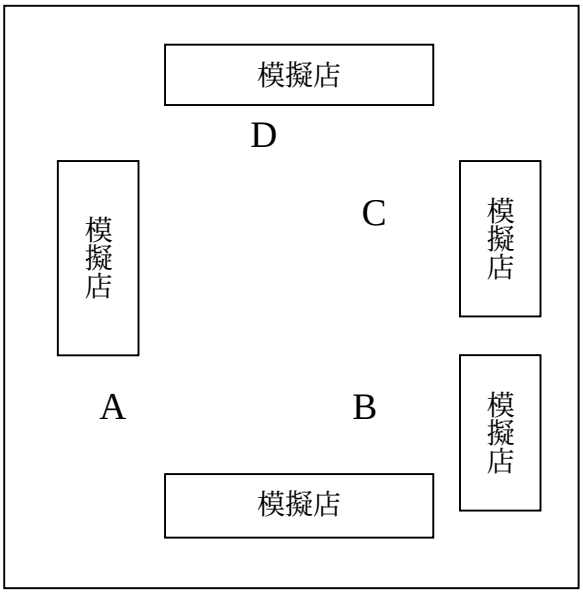
来場者の方に「環境負荷の少ない学園祭を目指している学園祭」を認識してもらう．その手段として立て看板による広報を行う．また NF 本祭中，吉田グラウンドにはゆっくり座ってくつろぐための場所がなく店で商品を買った来場者に飲食する場所を提供することは高い広報効果が生まれると考えられることから，広報と同時に飲食場所の設置，運営をする.

具体的に言えば，模擬店が立ち並ぶけれども座る場所のない吉田グラウンドにいすをおき，模擬店の食べ物を食べながら，立て看板も見てもらおうという企画です.

２．実施日時，場所（下は吉田グランド地図．上が北.）

2002 年 11 月 21 日（木）～24 日（日）　　10：00～17：00

次頁上図の A,B,C,D 地点に展開した.
各ポイントに立て看板といすを設置した立て看板，いすの配置は



A：地図+POP 立て看板，パイプいす 10
B：洗い皿選挙看板，生ごみ堆肥化立て看
　パイプいす 10
C：環対全体立て看板，リサイクル立て看板
　　長いす 2，ビール箱 6
D：最終処分場立て看板，横大路学園立て看板
　　長いす 2，ビール箱 6
※ただし各ポイントに立て看板固定のためのビール箱 2 個を含む.
各立て看板の説明は５．参照.

３．実施内容

☆事前準備
必要物品を準備し，盗難の恐れのあるもの（長

いす，ビール箱，パイプいす，ブルーシート）には持ち出し禁止と書いた環対ビラをはりつけた．必要物品を前日に吉田食堂に移動した．

☆レスト準備　8：00～9：00（初日のみ 10：00 まで）
　各ポイントにいす，立て看板を設置した．（初日は吉田食堂からリアカーで運び出した．さらにビール箱，パイプいすに関しては盗難防止のため数個をひもでつないだ．）

☆レスト撤収　17：00～18：00（最終日のみ 19：00 まで）
　ブルーシートをかぶせて，夜に物品がなくならないようにした．
　最終日は全物品を吉田食堂内に撤収した．

☆物品返却　11 月 25 日（月）（後片付け日），午前中
　借用物品（長いす，ビール箱，パイプいす）を返却した．

４．物品確保について

レストスペースに必要な主な物品について次のように確保した．

ア）長いす
　11 月祭事務局のグラウンド企画に対する物品援助を利用して 4 個借用した．

イ）ビール箱
　中谷酒店より 20 個借用した．

ウ）パイプいす
　工学部 8 号館より 20 脚借用した．

エ）立て看板
　５．参照．

５．各立て看板について

２．で触れたようにレストスペースでは立て看板を 7 つ設置した．
立て看板については基本的に，
　原案作成→原案チェック→その内容を模造紙に描く→模造紙を立て看板本体に貼り付ける
　→立て看板をビニールでコーティング
といった方法で作成した．

(１)地図＋POP 立て看板
・目的：洗い皿，生ごみ堆肥化，非木材紙皿に参加している模擬店の広報．
・内容：洗い皿，生ごみ堆肥化，非木材紙皿の説明と参加している模擬店の地図．（白地図の上に色を塗ったもの．）

(２)洗い皿選挙看板
・目的：洗い皿の広報．
・内容：マスコットキャラ「みっちゃん」をモチーフにした選挙看板．

(３)生ごみ堆肥化看板
・目的：生ごみ堆肥化の広報．
・内容：生ごみ堆肥化とはどのようなものか？その説明．マスコットキャラ「なっちゃん」も描かれている．

(４)環対全体立て看板
・目的：11 月祭環境対策委員会の広報．
・内容：11 月祭環境対策委員会の活動内容についての説明．（昨年度のものを中心に，写真をまじえて）

(５)リサイクル立て看板
・目的：環境分野の啓発.
・内容：環境に関するマークについての説明.

(６)最終処分場立て看板
・目的：環境分野の啓発.
・内容：以前，環境対策委員会が見学を行った最終処分地についての記述.

(７)横大路学園立て看板
・目的：環境分野の啓発.
・内容：以前，環境対策委員会が見学を行った横大路学園（缶・びん・ペットボトルを主に手作業で分別する施設）についての記述.

レストスペースの立て看板も含めた環対のすべての立て看板について，広報担当の項に記述がある．立て看板広報を体系的にとらえるのに非常に有用だと思う．ぜひ参照されたい．（p23～）

６．主な時系列

6 月中旬	今年度企画基本方針を提出
8 月下旬	11 月祭事務局にグラウンド企画「レストスペース」を申請
9 月下旬	立て看板原案作成
10 月 4 日	グラウンド企画担当者会議＃1(配置が決定)
10 月 10 日	中谷酒店にビール箱借用の依頼
10 月 17，25 日	ビール箱回収＃1，2
10 月 25 日	グラウンド企画担当者会議＃2（長いす借用を申請）
11 月 7，14 日	ビール箱回収＃3，4
11 月 20 日	パイプいす借用，借用物品に環対環対ビラを貼り付ける.

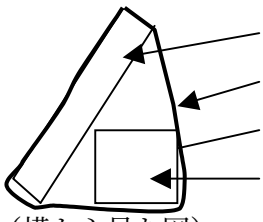
７．反省点および来年度以降への展望

(１)借用物品について
借用物品は盗難を確実に防止しなければならない．今回は結びつけ，環対ビラ貼りという方法をとったがとった．結びつけについては，効果はあったと思われるが，環対ビラ貼りに関しては作成した環対ビラが目立ちにくく，弱いものだったため，あまり効果を発揮できなかった．環対ビラは目立つもので，雨風や時間の経過にある程度耐えられるものを作るべきだったと思う．もしくはもっと根本的な問題としてビラ貼り以外にも有効な手段がないか検討が必要である．
また今回，長いすには環対ビラ貼りしかおこなわなかったが，長いすは模擬店企画も大量に借用しているため，グラウンド内に溶け込み，もっとも盗難に注意が必要なものであることもわかった.

(２)立て看板設置について
立て看板は以下の要領で設置した.

立て看板設置マニュアルより
1)，2）は 21 日（NF1 日目）の設置のみ
それ以外の日は 1)，2）ができていることを確認して 3）に進んでください.

1）ビール箱 2 箱を用意し，片方に水入りペットボトル 5 本を入れます.
2）ペットボトル入りビール箱が下になるようにビール箱を縦に 2 つ重ねてひもで結びます.
3）ビール箱を支えとして立て看板を置き，立て看板とビール箱を縦回りに縛ってください.
4）さらにもう 1 枚の立て看板を 2 枚が逆向きになるように設置してください.
5）最後に建てつけを確認して完了です.



（横から見た図）

この設置方法ではペットボトルの重量と初回の組み方が大変重要である．ペットボトルに関してはいくらでも手に入ると思って特に準備していなかった．が，実際はペットボトルの確保はできたものの水を入れる作業が以外に面倒であった．もっとよいおもしを十分に確保していればよかったとおもう．また初回，組むときもきつく縛る必要があり，難易度は高い．実際，うまく結べずに，ゆるくなってしまい，結果立て看板が崩壊するということが初日には見られた．（2 日目以降は改善した．）

結局 2 日目以降はこの方法で特に問題点は発生せず，来場者の使用状況もたいへんよかった．だがしかし，たとえ上の反省点をすべて克服したとしてもこの設置方法の安全性に関して疑問点が残るということは真実だと思う．いかに安全でそして広報効果の高い設置方法を考え出すが課題であろう．

(３)まわりとの調和について

立て看板は 1.5 枚看（90×270）[一部 1 枚看(90×180)]を用いたので少し大きすぎるかと思ったが周囲の邪魔になるというほどの大きさではないと思われる．ただ立て看板の大きさと比較するといすの数が少ないのではないかという印象を覚えた．実際，もうすこしいすの数をふやせないかとの声が事務局との反省会で上がっていた．いすの確保が今のところ抱えている課題だろうか．

さらにいすの置き方であるが，少し立て看板に接近しすぎているときが何度かあった．接近しすぎると，立て看板に背を向けて座るという結果を生み出すことになるので注意が必要である．

(４)レストスペースの位置取りについて

グラウンドはたいへん広いため，ある程度，配置場所に自由が生まれる．今回は次を満たすように設置した．

・ごみステーションに比較的近いこと.（レストスペースがごみ捨て場となるのを防ぐため. ただし，飲食場所として常識程度の距離は置いた.）
・他企画，ごみステーションとかぶらないこと.（レストスペースのほうがはるかに少し動かしたときのデメリットが少ないため.）

その他事務局の要請により位置変更した．そして最終的に事務局に確認をとった.（初日はいなくても，3 日目，4 日目だけ行う企画などもあるそうです.）

(５)援助物品受け渡しについて

事務局から借用した長いすは初日（21 日）の午前中，受け渡しが行われたのだが朝から長蛇の列ができていた．今回は無理を言って先にもらえたが，来年度以降は事務局に事前に要請する必要があると思われる．

(６)雨対策について

雨が降ったときの対策として，

少雨：パイプいすのみ撤収.（パイプいすは撤収しやすい A，B ポイントに設置.）

大雨：レストスペース撤収.

今年度の場合は幸運にも大雨が降ることはなかったが 4 日目の朝（レスト設置の時間），雲行きが怪しく，天気予報も雨だったため，パイプいすのみを撤去した．それに伴う措置として，B ポイントが A ポイントを，C ポイントが D ポイントを吸収した.（立て看板をこのように移動，C，D ポイントの長いすを新 B ポイントに移動させた.）来年度以降も雨対策は必要であると思われる．

(７)紙ガムテープについて

おそらく他の担当からも出ていると思うが，パイプいすの背に環対ビラを紙ガムテープで貼ったため，

はがすのがたいへんだった．透明梱包用テープを使うべきであった．

(８)事務局関係について
（３），（４），（５)で述べたようにレストスペースには事務局との連携が必要である．事務局との反省会で，いすを増やすということが提案されたが，レストスペースの目的を逸脱しないように検討することが必要だと思う．

８．これからの企画

NF 最終日の撤収の時間などはレストスペースの場が家族連れなどでかなりなごんだ状態になっていて，「今から撤収しますのでそこをどいてください．」とはとてもではないが言い出せなかった．今年度のレストスペースは，目的のうち「飲食場所の設置，運営」の部分ではある程度は達成されたと考えている．しかしそれだけでは足りないと思う．「広報」という目的を達成してはじめてレストスペースとしての価値があると思う．そう考え，今年度は広報を重点化した．結果としては，レストスペース利用者が多く，看板も広報効果を得たのではないかと感じている．来年度以降であるが，レストスペース（に相当するもの）を行うとすれば，課題はいかに問題をおこさず（他人に迷惑をかけず），自分（あるいは環対全体）の目的を達成するかを自分自身で考え出すことであろう．（すなわち今年の場合，どのようにすれば安全でかつ広報効果の大きいものを作り出せるかを考えること．）

E. 分別･リサイクル担当

分別・リサイクル担当　古賀・早川・増田・小林・原・元水

１．担当の目的および紹介

文責：古賀啓一・早川智恵

分別・リサイクル担当では、１１月祭におけるごみの排出から適切な業者（リサイクル業者・処理業者）に渡るまでの一連の流れを扱った。担当の目的は以下の２点である。

・ごみの再資源化・適正処理ができるように、分別・リサイクルのシステムを考案・運営すること
・１１月祭に参加する多くの人にごみ分別作業に関わってもらうことによって、その意義を納得してもらい、日常生活でもごみ問題に対する意識を持ってもらえるような相互協力体制を作ること

具体的に行ったことは、

・１１月祭事務局（以下、事務局）と協力できるよう、適宜連絡を取ったこと
・再資源化・回収に関して各業者と交渉し、処理ルートを明確にしたこと
・再資源化・適正処理のため、ごみ分別の計画・実施、ごみ箱の計画・作成・設置、ごみ回収システムの考案（前夜祭と本祭で異なる)、発泡スチロールトレーのリサイクル処理、POP の作成・設置、集積場の管理・運営、後片付け日のごみ回収、大清掃に対する提案（大清掃は事務局主催）

である。まず、ごみ分別の計画・実施、ごみ回収システムについて述べた後、以下、諸所の担当者から報告する。

２．ごみの分別

今年度分別は以下の通りである。

会場：紙ごみ、ビニール・プラスチック類、発泡スチロールトレー、割箸、ペットボトル、缶・びん、生ごみ
模擬店企画：紙ごみ、ビニール・プラスチック類、発泡スチロールトレー、割箸、ペットボトル、缶・びん、生ごみ、段ボール、廃食油、卵パック、牛乳パック、乾電池
屋内・グラウンド企画：紙ごみ、ビニール・プラスチック類、発泡スチロールトレー、割箸、ペットボトル、缶・びん

上記分別は、各業者と連絡を取りながら決定した。時系列を以下に示す。

６月下旬　分別案（仮）決定、事務局に提案
京都大学生協中央購買部に発泡トレー処理業者選定時期の確認
アップル（段ボール回収業者）・王子製紙・レボインターナショナル（廃食油回収業者、以下レボ）に回収・費用・回収基準について確認
※段ボール回収は学生部選定業者が行うため、この確認はより安価な回収業者を推薦するための調査である。

７月初旬　ごみ収集・中間処理業者「ホーム・ケルン㈱」（以下、ケルン）を見学

７月中旬　口頭で、学生部と今年度分別案について話し合い
ごみ回収システムの仮立案、事務局に文書提出
生協中央購買部に発泡トレー処理業者に関する要望書提出。および「非木材紙トレー」と「緑太郎」推薦
※レボは諸般の事情で、無償回収が不可能となったため、ロンフォードに変更した。

８月初旬　トレー回収業者は「トカイ・トータルパッケージ」（以下、トカイ）に決定
ごみ分別案・回収システムについて、事務局に再度文書提出

９月中旬　「環境虎の巻」作成

９月下旬　事務局を通じて、学生部に対し回収業者選定に関する要望書を提出
※要望書は本来９月初旬に提出の予定であったが、今年度は１１月祭開催日程の決定・通達が遅滞したため、また、要望書に記した日程に予定という注釈を入れなかったため、提出が遅れた。

１０月初旬　学生部選定業者、ケルンに決定（段ボール回収もケルンが行うこととなった）

１０月中旬　学生部・ケルンと事務局の立会いのもとで話し合い

１０月下旬　ロンフォード(廃食油回収業者)、王子製紙、トカイに回収の状態等について確認

１１月祭翌週以降　ロンフォード、廃食油回収。トカイ、洗浄済トレー回収。割箸整理、王子製紙春日井工場へ送付。乾電池、区役所へ持ち込み。牛乳パック、中央食堂の回収ボックスへ持ち込み。

＜各分別に関する詳細事項＞

●紙ごみ、ビニール・プラスチック類、缶・びん、ペットボトル、段ボール

学生部に業者選定をお願いした結果、ケルンに決定。事前にケルンを見学させていただいた。各分別の処理フローは以下の通り。

・紙ごみ、ビニール・プラスチック類
紙ごみ（一般廃棄物）は焼却処理、ビニール・プラスチック類はサーマルリサイクル

・缶・びん
手選別の後、アルミ缶とスチール缶を磁石で分ける。この手選別の作業負担軽減のため、集積場において、缶とびんを分別した。

・段ボール
再生紙工場へ輸送

・ペットボトル（透明・緑）
手選別された後、キャップ・ラベルと一緒に粉砕。その後、水に浮かせてペットとそれ以外に分離し、減容処理後、中国の工場へ輸送。

この結果から、
・ペットボトルのキャップ・ラベルは取る必要があるか
・紙ごみとビニール・プラスチック類は分別するのか
という二つの論点が挙がったが、
・キャップとラベルは事前に外してあれば処理の際のエネルギー消費を少なくできること、分別の作業をすることで問題意識や分別の意義を感じてもらえること
・上記工程と、紙ごみは一般廃棄物扱いであること
から、分別することに決定した。

回収の詳細は、時系列の通り、学生部とケルンとともに話し合った。内容は、

・各ごみの回収頻度

紙ごみ、ビニール・プラスチック類・・・本祭中毎朝、片付け日は朝と午後の２回

缶・びん・・・・・・・・・・・・・・・・３日目と片付け日の朝

ペットボトル・・・・・・・・・・・・・・ペットボトルコンテナを前夜祭の日の午後に設置、片付け日回収

段ボール・・・・・・・・・・・・・・・・本祭１日目と片付け日の回収

・ペットボトルコンテナの借用について・・前夜祭に日の午後設置。片付け日の午後回収。

・集積場扉の鍵の管理について・・・・・・合鍵を環対代表が管理する。(夜の戸締と休日の開閉に使用)

・各ごみの分別基準

紙ごみ・・・・・・・・・・・・不燃物混入を避けること

ビニール・プラスチック類・・生ごみの混入を避けること（生ごみがあるとサーマルリサイクルできない）

ペットボトル・・・・・・・・緑色のものは別袋にすること

段ボール・・・・・・・・・・油・汚れ・コーティングのあるものは避けること

缶・びん・・・・・・・・・・飲み残しがないようにすること。小型金属類もこの分別で回収（危険物は紙等で包む）

・集積場内の分別による配置

である。また、１１月祭本祭中に、分別に困るごみが排出された場合は、そのつど連絡を取った。

●発泡スチロールトレー（PSP 容器）

（業者）・・・トカイ・トータル・パッケージ㈱

生協の発泡スチロール容器の卸業者選定について、「回収業者が１１月祭で排出された発泡スチロールトレーを無償で引き取り、環境負荷のより少ないリサイクルルートに乗せることができる業者」ということで要望書を提出したところ、トカイに決定した。

（回収条件）・・・「一般にスーパーで回収している程度まで汚れを落とすこと」

「できるだけかさを減らすこと」（袋詰の際、最密に詰めた）

「別メーカーのものでも『発泡』であれば回収していただけること」

これについては昨年度と同様である。11 月祭後の翌々週に引き取っていただいた。

（反省・展望）

例年、ほとんどの模擬店が生協を通じて容器を購入していること（今年度、生協から卸したトレーは 20200 枚）を鑑みるに、トレーの卸業者を決定する段階から環境負荷を考慮することができるよう、生協と協力体制を取れることは非常に有意義である。回収されたトレーはリサイクル業者に回され、新しいトレーとなるが、リサイクルできるからといってトレー使用を推奨することにはならない。重要なことはやはり、使い捨て容器の減量であることは言うまでもない。今年度は特に、諸般の事情が重なり、リサイクル処理できたトレーは少ないが（詳細はｐ　参照)、来年度以降、トレーのリサイクル処理量の増産を図るとともに、減量そのものにも積極的に取り組んでいけたらよいのではないかと思う。

●割箸

（業者）・・・王子製紙春日井工場

（回収条件）・・・「不純物の混入を避けること」

「送料は送る側の負担になること」

（報告）

大量の割箸（約 40000 膳）は、片づけ日に集積場から安全センター裏の旧テント倉庫へ運ばれ、翌週の土曜日に不純物を除いて段ボール箱へ詰める作業を行い、翌々週に日本通運のアローボックスにて運ばれた。(送料は 8000 円) これらの割箸は製紙原料となる。

●廃食油

（業者）・・・ロンフォード

（報告・反省）

・前期に確認した時点ではポリタンクを貸していただけるということであったが、直前に先方の都合で借用不可になり、急遽、えこみっと所有のタンクを集めて洗浄し、廃食油を回収した。
・回収場所は集積場と留学生センター前の 2 箇所。不純物が混入しないように、まず、一斗缶の上にざるを置いた状態で、模擬店企画の方に濾し入れてもらった。そして、油が冷めてから、環対スタッフがポリタンクに移した。(この際、一斗缶の底に溜まった不純物が流れ込まないように注意した)
・ 廃食油の回収に要したポリタンクは 7 個。ロンフォードにはこのポリタンクごと引き取られ、代わりに新しい青いポリタンクを 5 個頂いた。
・廃食油はバイオディーゼルとしてリサイクルされ、バスの燃料などに使われる。

●牛乳パック・卵パック・乾電池
今年度、新たな試みとして集積場で回収した。今年度の調査で、来年度以降、回収することが現実的かどうか検討する際の参考にするためである。各総量は調査担当（ｐ11）を参照していただきたい。

・牛乳パック・・・水ですすいでから、一般にスーパー等で回収されているように切り開いた状態で、回収。集積場には切り開いた状態で持参されることを事前にお願いした。他方、集積場でも作業ができるように、バケツ・はさみ等を用意した。
分別を設けた時点では、模擬店内で発生したごみに限るという設定であったが、集積場での会場ごみの再分別において出た紙パック一般(５００㎖ のサイズ～)も回収した。これは、再分別エリアのスタッフに連絡が浸透していなかったこととが原因である。しかし、引き取り先である生協がリサイクル可能な紙パックは全て引き取っていただけることと、今年度は調査目的があることから、会場ごみ中の紙パックも分別・回収した（ただし、牛乳パックと同様の形態で、リサイクル可能なものに限る）。その結果、予想以上に多くの紙パックを回収・リサイクルすることができた。また、生協と話し合ってもっと組織的に行うことも可能と思われる。今年度は、片づけ日に安全センター裏の旧テント倉庫に運び、11 月祭後の翌々週に生協の回収ボックスにまで持っていったのだが、その保管期間中にあまり汚れが落ちきっていなかったものは飲料が腐敗し、悲惨な状態になっていた（しかも、かなりの数にのぼった）。したがって、来年度以降、回収を検討する場合は、汚れを完全に落とすことを徹底した方がよいと思われる。
・卵パック・・・・今年度は、どのくらいの量が排出されているのか調査する目的で回収を行った。（結果はｐ11 参照）調査後、卵パックはビニール・プラスチック類として分別した。予想以上に大量の卵パックが集まったが、その内容は一様ではなく、11 月祭において卵パックをリサイクルルートに乗せることは難しいと思われる。卵パックには、紙、PET、塩化ビニル製とあり、原料が業界で一致しておらず、それぞれ処理方法が異なる。したがって、回収後、こちらのスタッフで仕分けするか、あるいは、種類別にごみ袋を用意し、企画に分別して持ってきてもらうことも考えられるが、時間的、人数的、回収場所の明るさ等、種々の要素を考慮すると、およそ現実的とはいえないと思われる。しかし、広報は可能である。企画担当者会議等で、卵パックについては、ごみとして捨てるのではなく、イズミヤ等の回収を行っている地域のスーパーや中央食堂等を紹介し、持込を推奨することができると思う。来年度以降の検討課題としたい。
・乾電池・・・・・回収した総数は約 10 本(乾電池 9～10 本・ボタン電池１つ)。事前に、左京区役所に引取りが可能であるかどうかうかがい、了承を頂いた。11 月祭後、翌週にスタッフが区役所へ持っていった。
乾電池は、会場ごみ箱に混入していた場合のみ分別・回収とし、企画が排出したとわかるものは、左京区役所や生協等、回収を行っているところを紹介し、企画自身で処理してもらえるようにお願いした。これは、手間のかからないことであるし、無償回収している場所に持参すればごみ処理費用を多少でも安くすることができるので、（ごみ箱を設ける必要はないが）集積場の１分別として設けてもよいのではと思う。加えて、日常で電池回収を行っている場所を知らない人が多いようで、企画に紹介した折も、「知らなかった」という人もいたので、できれば何らかの形で広報する手段があるとよいと思う。

＜非木材紙トレーについて＞

●背景

今年度、例年通り、環境負荷のより少ない容器を卸してくれるよう、また、そのような容器を推奨する文書を生協に提出したところ、生協と協力してその容器の購入・使用を模擬店に呼びかけることになった。それで、選ばれたのが非木材紙容器である。しかし、価格が他の容器に比べて高く、模擬店企画があえて購入することを期待するのは難しいことから、以下の特典を付すこととした。

・購入した模擬店は、トレー洗浄作業を１日だけにすること
・購入した模擬店には環対と生協で作成した POP を店頭に吊るして広報効果を高めること
・環対の立て看で購入した模擬店の所在と名前を当日広報すること

しかし、それでも購入した模擬店は５店舗にとどまり、購入枚数は約 7000 枚であった。

●時系列

７月	生協に文書提出
９月	価格の調整、販売方法検討
１０月	宣伝方法具体案の検討、ほかのメリットの提供を考慮
１１月	POP 原案作成、生協に POP を加工してもらう

●反省点

・もっと非木材紙の良さを模擬店のアピールしたかった。
・今年度の実績などの資料が集まってくれば将来的に使用模擬店は増えるかもしれない。
・今年度は特別に安い価格で提供できた（卸業者が特別に措置を取ってくれたおかげである）が来年度もできるとは限らない。販売方法に工夫の必要がある。

３．ごみ回収システムについて

＜会場編＞

●システムの目的

11 月祭で排出される大量のごみを実際に回収・分別するという作業を通じて、模擬店に排出されるごみの多くが模擬店由来のものであることと、ごみの大量廃棄の現実を知ってもらい、ごみの減量・分別・リサイクルを行う意義を実感してもらえること。および、11 月祭の参加者として会場整備に務める必要があること。以上、二点から、下記のシステムを採用した。

●ごみ箱回収システム概要

本祭中４日間、１つのごみ箱ステーションに設置されている 6 分別を 6 模擬店で下記のように担当した。

	A	B	C	D	E	F
21 日	プラ	缶・びん	紙ごみ	割箸	トレー	ペット
22 日	プラ	缶・びん	紙ごみ	割箸	トレー	ペット
23 日	割箸	トレー	ペット	プラ	缶・びん	紙ごみ
24 日	割箸	トレー	ペット	プラ	缶・びん	紙ごみ

各模擬店が行う作業は、担当のごみ箱を一定時間にチェック・回収すること、夜間テントにごみ箱を保管・翌朝設置することである。

※生ごみバケツについてはスタッフが回収を行った。
※ごみ袋は今年度も模擬店側が購入することとなった。事務局には 1 模擬店当たり最低必要枚数（30 枚）を提案し、模擬店側に購入をお願いする文書を提出した。また、企画担当者会議において、当委員会からも説明を行った。
※回収責任の自覚を促すよう、今年度は相互責任制を取った。もし、回収作業に協力しない模擬店が出た場合は、同一ステーション内の他の模擬店が負担するというものである（例：Ａが回収しない場合はＢが行う）。しかし、当日、互いに離れた場所にある模擬店が同じごみステーションを担当する場合、上記システムでは模擬店にわかりにくく、納得しづらいことから、同一テント内（１テントを 2 模擬店が共有している）で補完するシステム（片方の模擬店が回収しない場合は隣の模擬店が回収する）に変更し、巡回で説明した。

●関係者への対応

〔事務局〕

6 月下旬	回収システム案（仮）作成
7 月中旬	文書提出
9 月中旬	回収システム決定
9 月下旬	文書提出
10 月下旬	事務局と最終確認

今年度は、大学構内で工事されている場所が多く、模擬店配置がなかなか決定されなかったこともあり、準備を早めた割には調整に時間がかかった。また、今年度もごみが勝手に捨てられていないか等、事務局が行うごみ集(事務局員による企画終了後の見回り)を 19：00 頃（集積場のピークの時間が過ぎた頃）行ってもらえるよう、事前・当日に担当間で確認した。そのおかげで、スムーズに行うことができた。

〔模擬店〕

各模擬店に対して、「環境虎の巻」（当委員会作成資料）に模擬店作業割り当て一覧とごみ箱配置図を掲載し、模擬店企画担当者会議の場においてわかりやすい説明を心がけた。特に、第一回と第五回の会議で詳細を説明した。今年度は、ごみ箱作成案も紹介し、設置の実演も行った。この試みは環対と模擬店企画との交流を図る上で、非常に良かったと思う。将来的には、企画からごみ箱に対する意見を募ることも可能であろう。しかし、当然ながら、会議の説明では不足であること、当日も説明が必要であることから、今年度もＰＯＰの貼り付け（ｐ50 参照）と巡回（ｐ26 参照）を行い、説明と呼びかけを行った。また、集積場には諸注意を書いた立て看や模造紙を設置した。だが、こちらのミスで広報物が紛失し、充実した広報が行えなかった（ｐ25 参照）。来年度以降、そのようなことがないように注意してほしい。

●報告・反省

・ごみ袋について、今年度は事務局側の手違いで、途中から青いごみ袋が販売されてしまい、当日、多少の混乱をきたした(このごみ袋は使ってよいのか等)。事務局も透明ごみ袋を新たに購入するなど努力をしてくれたおかげもあり、全て青いごみ袋が使用されるという惨事は避けられた。しかし、青いごみ袋は、中が見えず、分別の視覚的効果が望めないことや、集積場の分別チェックにおいて時間・手間がかかることもあり、非常に使い勝手が悪いので、来年度以降、このようなことがないように、入念な話し合いが必要である。

・相互責任制システムの変更の原因は、模擬店地図作成の遅れもさることながら、担当の話し合いの不足によるところが大きい。また、当日、実際に補完システムを適用する場面において、抗議する模擬店があった。逃げた模擬店(初日キャンセルの模擬店)の労働をただ肩代わりするのは理不尽であるということであった。よって、当日、さらにシステムを変更し、ごみ回収作業を肩代わりする模擬店はトレー洗浄をしなくても良いということにして、作業負担の均等を図った。作業を肩代わりする模擬店に対して代替案を用意しておかなかったのは、ごみの回収はたいした作業ではないというこちらの認識の押し付けになってしまった結果である。模擬店と環対との認識の差を常に自覚しておかなければならない。また、作業の平等化をはかるということも困難である。例えば、単純であまり良い例ではないが、ごみ回収を肩代わりする模擬店がトレー容器で販売していてもトレー洗浄をしなくてもよく、かたや、非木材紙容器で販売している模擬店がトレー洗浄をするとしたら、それは平等であろうか。見た目の労働量だけでは計れないものもあるので、来年度以降の検討課題としてほしい。
ただし、相互責任制システム自体はほぼうまくいっていたと思う。分かりやすさを重視して改良すれば来年度も使えるだろう。

・生ごみバケツは回収担当ではないにもかかわらず、集積場まで運んでくれる模擬店が続出した。事前に、回収の必要がないことは説明済みである。ごみは自分達で処理をするという自覚の表れであろうか。そうであれば喜ばしいことだが、担当外の作業で負担をかけるのも悪いので、翌日の巡回で、生ごみバケツは回収する必要がないことを説明した。が、4 日間、バケツを運んでくれる模擬店は絶えなかった。

・本部構内(法経館北側)で、初日、模擬店企画が独自に設置したごみ箱が発見された。が、分別の種類が異なり、分別状態も悪く、ごみが溢れて会場の美観を損ねていることから撤収を要請

した。即日、それは片付いたが、翌日、同じ場所に、不法投棄されたごみ袋が 5 個ほど見つかり、来場者がそこにまたごみを捨てていたため悲惨な状態になっていた。このごみ袋については巡回時に回収し、スタッフが処理した。例年のことながら、不法投棄ごみ対策が必要である。不法投棄禁止の広報にも力を入れるべきかもしれない。

・事務局との相互連絡は頻繁に行っていたが、それでも、双方に時間や手順について勘違い等があった。人間は忘れる生き物なので、事前に連絡したことは直前にまた確認するべきである。

・例年通り日程が進んでから分別率が良くなってきたので、最初からもっと分別率を良くする方法をこれからも考えていくべきである。

＜屋内企画編＞

●目的

排出者責任の精神に従い、屋内・グラウンド企画の方にも積極的にごみの分別に参加してもらうことによって、11 月祭の環境負荷を軽減すると同時に、ごみ問題について考えるきっかけを提供する。

●実施期間

本祭 1～4 日目

●実施場所

総人構内　A 号館；西側１・２階、地下
　　D 号館；１・２・３階
　　E 号館；１・２・３階
　　１号館；地階、１階
吉田グラウンドにおいて開催される企画
本部構内　法経館；１・２階
　　教育学部；１・２階
　　文学部新館；１・２階　講義室・演習室周辺
　　文学部東館；１・２階　講義室・演習室周辺
※１１月祭事務局主催の企画だけでなく、各学部の自治会主催の企画も含む。
※１１月祭事務局・各学部自治会に協力をお願いした。

●時系列

６月　屋内に設置するごみ箱の形態、回収形式について環対内で話し合い
７月　11 月祭事務局と企画に関する話し合い、書類提出
９月　ごみ回収システムの決定
１０月　各学部自治会へ協力の申請
　　企画担当者会議での説明
　　生協・各事務へ書類提出（既設ごみ箱の撤収に関する協力申請）
１１月　11 月祭事務局と作業について再度確認
１１月祭　実施

●実施概要

・企画担当者は分別の数だけごみ袋（透明・90 リットル）を用意する。ただし、びん等、排出しないと判断した分別については準備しなくても良いとした。
　※このごみ袋は企画担当者が使用するもので、来場者の方には屋外のごみ箱の利用を勧めるようお願いした。また、来場者用のごみ袋を企画独自の判断で用意した場合は、企画のごみとして扱うこととした。

・企画担当者は原則毎日、企画終了後、集積場に分別したごみ袋を持ってくることとした。
　集積場での受付時間　13：00～集積場終了時刻まで
　※分別状態が悪い場合は、集積場で再分別をお願いした。
　※ただし、ごみが少量しかない場合は 2, 3 日分まとめて持ってきても良いとした。その際、ごみ袋の保管は企画担当者が責任を持って行い、放置することがないよう、注意を呼びかけた。

・屋内企画担当者会議において、ごみの分別、その意義等について、11 月祭事務局配布の「一般企画虎の巻」に説明要項の掲載をお願いしたりビラを配布したりして説明を行い、理解が得られるよう努めた。
・屋内の企画が使用する教室およびそのフロアのごみ箱を全て、前夜祭の日に撤収または封鎖する。（原状復帰は後片付け日に行った。）
　※原状復帰時の反省等については後片付け日の報告を参照（ｐ52）
・企画終了後、ごみが廊下等に放置されていないかどうか 11 月祭事務局に事前に確認をお願いした。

●分別について
屋内の企画に、原則として次の分別の準備をお願いした。

紙ごみ　　ビニール・プラスチック類　　ペットボトル　　発泡スチロールトレー
缶・びん　　割箸
　※生ごみについては、屋外に設置してある生ごみバケツの使用をお願いした。
　※分別基準については、屋外設置のごみ箱と同様である。（ｐ47 参照）

●既設ごみ箱の撤去について

Ａ．作業概要
○総合人間学部構内（２人）
・1 号館・Ａ号館・Ｄ号館・Ｅ号館のごみ箱のうち、関係各所にあるものは全て、別の場所に移動するか使用禁止ビラおよび趣意書を貼ることによって使えないようにした。
・生協吉田ショップが管理しているごみ箱については、夜間の不法投棄を避けるため、ショップ内での保管をお願いした。
○本部構内（２人）
・各学部屋内・付属図書館屋外・総務部が管理している屋外のごみ箱は、ごみ箱の大きさ等の理由から移動が不可能であったので、全て、使用禁止ビラと趣意書を張ることにより、ごみ箱の口をふさぐ方式にした。
・生協が管理しているごみ箱については、生協の店舗休業日に限り、使用禁止のビラを貼り、使えないようにした。

※各学部・付属図書館・総務部の事務と生協に事前に書類を提出して既設ごみ箱の封鎖を了承していただいた。

Ｂ．報告と反省
・おおむね、問題はなかったが、ごみ箱の配置図と実際の置き場所が違っていたり、建物の鍵が既に締まっていたりして、作業が翌日に持ち越されたりした。事前の確認が足りなかったと思われる。戸締りの時間は学部によって異なるので、事務に要確認である。
・本部構内については、シフトは２人で十分である。予定時間よりも多少早く終了した。ただ、一部懐中電灯が必要と思われる場所もあったので、準備してあると便利だろう。
・総合人間学部構内の原状復帰については（ｐ52 参照）
・Ａ号館の撤去作業では、ごみ箱を運ぶ距離が長く、疲れるという意見があった。２組作って作業範囲を２分するなど、撤去する際の作業効率をもっと考慮すべきであった。

●反省
・分別数について、生ごみはごみ袋を用意するほど出ないであろうという見込みから用意しなくてよいとしたが、独自の判断で用意していた企画もあり、紙ごみに入れていた企画もあり、利便性の面・分別を質の向上の面から鑑みるに、適切であったかどうか疑問である。その疑問を解消できる手段として 11 月祭終了後のアンケート実施ということが考えられるが、回収が困難であることから今年度は実施しなかった。しかし、11 月祭開催中の企画終了時に巡回するなど、何らかの方法で企画側の意見を聞く機会を設けた方がよい。こちらの一方的な判断だけでは単なる憶測になりかねず、企画の実情に即した分別はできないと考えられるからである。

・集積場では模擬店企画が持参したごみと屋内企画が持参したごみは区別が難しく、分別状態がどの程度昨年度より向上したか、集積場での比較は難しい。分別状態の把握については、今年度の企画側にごみ袋を用意してもらうことが適切かどうか判断するための材料となるので、すべての企画を巡回せずともサンプルを選んで巡回する程度のことはしてもよいかもしれない。ただし、企画側に積極的に参加意識をもってもらうためには、完全な管理下に置くような態勢は望ましくないし、環対はそのような団体ではない。個人的に、一部企画を回った限りでは、昨年度の廊下に設置したごみ箱より分別状態が良かった。
・11 月祭事務局や各学部自治会との連絡について、もっと協力体制を組めるよう、事前に密な話し合いの場を設けるべきであった。環対の方針とごみの分別の意義について説明し、ごみ箱が撤収されることと企画担当者がごみ袋を用意することについて了解を得たが、こちらの意図が本当に伝わっていたか、疑問が残る。これは事務局や自治会に限った話ではなく、活動の理解を求める努力は怠るべきではない。
・11 月祭事務局内で、屋内企画のうち、講演企画とそれ以外で「一般企画虎の巻」の配布の有無（講演企画には配布しない）があること、本部構内担当と総人構内担当と劇団・軽音企画の担当(自主制作演劇局)が異なること、本部構内の企画は最終日に現状復帰することなど、重要事項にもかかわらず、こちらで検討できるほど時間的余裕を持った確認が行き届かない点があった。来年度以降は同じ轍を踏まないように気をつけてほしい。
・集積場での受付時刻を 13:00～としたが、昼の時刻にごみを持参した屋内企画はなかったので、来年度以降、もし実施するなら、受付時刻は 16：00 以降でよいと考えられる。ただし、最終日に限っては、早く終了する企画もあるので、考慮する必要がある。
・昨年度の屋内設置のごみ箱の状況から、改善と意識啓発を図ってこの企画を行ったが、どの程度達成されたか計る材料を収集しなかったことが悔やまれる。達成度は数値で表されるわけではないが、少なくとも、参考資料は必要である。したがって、この企画に対する適切な意見ではないかもしれないが、排出者責任という意識を持ってもらうことやごみ問題を考えるきっかけを提供するという点で、やはり実際にごみの分別に携わるということは効果的な経験であるという観点から、企画は有効であったと考える。しかし、前述のようにシステム上の問題も残っているし、さらに効果的な意識啓発につながる企画も考えられる。今年度のこの形式にとらわれずに、来年度以降、更なる向上を目指してほしい。
・屋内のトイレ内に、多量のごみが不法投棄されているのが見つかり、スタッフで処理を行った。企画が捨てたものか、夜間に飲み会をしていた人が捨てたものか定かでないので、何とも言えないが、不法投棄ごみ対策を懸案する際は、考慮に入れてほしい。

４．前夜祭報告

文責：古賀 啓一

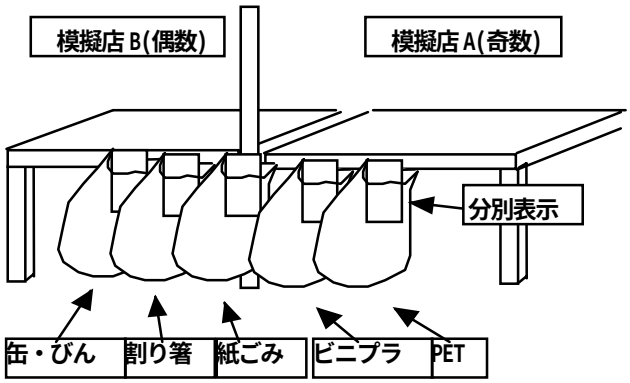
(１)目的および企画説明

前夜祭とはいっても出るごみについては 11 月祭のごみとして処理される。その量は本祭と比べて少なく、応援団が前夜祭の運営を行うことから、応援団と協力して行った。

(２)分別・回収方法

店内(7 分別) →「紙ごみ」「ビニール・プラスチック類」「缶・びん」「PET ボトル」「割り箸」「段ボール」「廃食油」「生ごみ」
店外(5 分別) →「紙ごみ」「ビニール・プラスチック類」「缶・びん」「PET ボトル」「割り箸」

前夜祭の行われる時間帯は外が暗いことから会場のごみは店頭につるしたごみ袋で回収することにした。これは、このごみ袋をつるしている模擬店が再分別することになるので、分別率の向上という効果も狙ったものである。以下がその設置方法。



隣り合う模擬店の真ん中に来るようにごみ袋を設置。前回、表示が見にくい、机のスペースを圧迫するという欠点がわかった為、今回は分別表示を机の上に立てるのではなく、表示をごみ袋の中に垂らすような形で表示した。

・回収は店内・店外ともに模擬店が行った
・店外ごみ袋は応援団が用意(11 月祭事務局より購入)
・模擬店のごみ袋が足りなくなったら店外については応援団からごみ袋を支給してもらい、店内については応援団から購入ということにした。

(３)当日までの流れ

前期

・分別数、分別形態の仮案作成

9 月下旬～10 月上旬

・環境対策委員会内での仮案検討
・応援団と連絡をとり今年の方針を伝える
・前夜祭出店模擬店数は未定

10 月中旬～11 月中旬

・前夜祭説明会で模擬店に対して分別
・回収の説明
・出店模擬店数が確定→必要なごみ袋数を通達
・応援団向け・模擬店向け当日資料を作成

(４)当日の流れ

16:30　応援団と合流。3 つの班に分かれて当日資料を模擬店に配付するとともに、ごみ袋を店頭に設置。
19:00　集積場を設営。
20:00　ごみの本格受け入れ。巡回で告知。
21:00　終了確認ぐるぐる。業務終了→片づけ、反省会。

(５)反省点

・模擬店の設置した会場内ごみ箱
→キャンプファイヤー周辺に勝手に作られたらしい。１１月祭の初日に事務局が処理。前夜祭模擬店説明会での周知徹底しかないか？
・当日の集積場周辺交通整理
→今年は応援団も人員不足であり予定より人手が足りなくなった。前夜祭は通常授業の日でもあり車や自転車の出入りが激しい。今回吉田食堂側に自転車等が止まらないようにあらかじめ当日朝にトラロープで場所を確保してもらったが、集積場南側からテニスコートに続く道路を確保することも重要だろう。集積場設置の時間に自転車移動の人員を最低３人×１時間用意するべき。当然それとは別にトラメガをもった交通整理要員が一人必要。
・店内ごみを店頭ごみ袋に入れている
→これも周知徹底しかない。
・机を使用しない模擬店もあった
→今回は柱にごみ袋を貼るという対応をとったがどうであったか？ビニールテープで柱と柱を結び、そこに袋を吊るしたほうが見やすく、分別もしやすかったと思う。次年度以降の必要物品に

加えておけばいいだろう。
・キャンプファイヤーの処理について
→例年応援団に一任しており、応援団は 11 月祭事務局と相談して処理方法を決めているらしい。今年は業者を探そうとしてくれていたがうまく見つからなかったそうで、キャンプファイヤーも、実際には出すべきごみではないが、11 月祭期間中のごみであることを考慮すれば具体的に処理方法を考え、必要なら処理業者の提示等ができた方がよい。これは新しく業者を探す必要があるかもしれない。

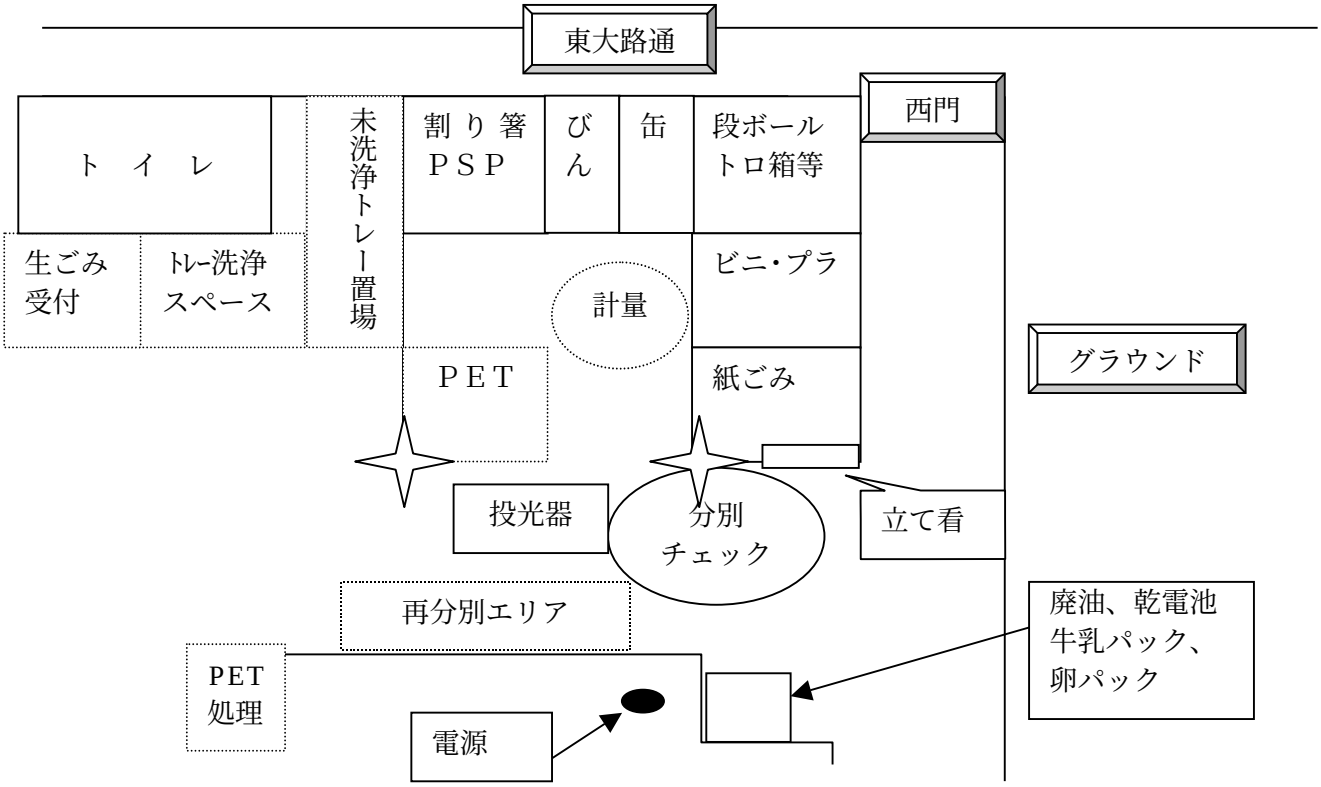
(６)次年度への展望
19:00 頃の交通整理等を楽にこなす工夫さえすれば前夜祭の活動は成功すると思う。欲を言えば発泡トレーの回収・洗浄にいたる有効な方策を練りたかった。次年度からは更なる運営の円滑化と確実さを期待したい。

５．本祭中の集積場運営に関する報告

文責：早川 智恵

(１). 集積場運営の目的
11 月祭のごみが集まる集積場を円滑に運営することで、資源ごみの回収や適正処理等の活動を容易にする。また、集積場における活動を各企画者と共同して行うことで、ごみ問題への意識を啓発する。

(２)集積場配置図



(３)作業時間
●本祭
昼の部　13：00～16：00
夜の部（1～３日目）　16：00～20：00（終了）
夜の部（４日目）　16：00～21：30（終了）

●後片付け日
ごみ受け入れ　9：00～12：00

※後片付け日に関する詳細な報告は、後片付け日ごみ回収報告の項目を参照。

(４)作業概要

（必要物品一覧）

全般	計量	ストックヤード	トレー洗浄
円錐コーン（２）	秤（２）	投光機脚有（２）	バケツ（１０）
ビニール紐（１）	ペン（２）	投光機脚無（１）	スポンジ（１０）
トラメガ（１）	バインダー（１）	電気ドラム（１）	手袋（１０）
立看板（１）	カウンター（２）	延長コード（２）	ざる（１）
蛇口（１）	記録用紙（適量）	分別表示（１セット）	ごみ袋（適量）
再分別エリア		廃油	PET 処理
ごみ袋（適量）	軍手（５）	一斗缶（２）	カッター（３）
ガムテープ（３）	火バサミ（３）	ざる（２）	バケツ（１）
再分別表示(3 セット)		廃油タンク（１）	ごみ袋（適量
再分別基準表（２）		廃油表示（１）	
処理フロー（１）		灯油ポンプ（１）	

生ごみ受付	その他
米ぬか（２）	電池表示（１）
火ばさみ（２）	牛乳パック入れ（１）
ごみ袋（適量）	電池入れ（１）
	卵パック入れ（１）

昼の部（13：00～16：00）

・吉田食堂の壁に、再分別表示と再分別用ごみ袋を 7 分別×3 セット、ガムテープで設置する。その上に再分別基準表と処理フローを取り付ける。
・ペットボトル処理エリア（配置図参照）にすすぎ用バケツ（水有り 2、空 1）とキャップ・ラベル用ごみ袋と処理済ペット用ごみ袋を用意する。
・発泡トレー洗浄エリアの設置。（設置の仕方は午前の発泡トレー洗浄と同様なので詳細は譲る。）
・廃食油用一斗缶と表示を設置する。（留学生センターの入り口にも設置。昼の巡回シフトに設置をお願いした。）
・電池、卵パック、牛乳パック回収用のごみ袋を設置する。牛乳パックすすぎ用のバケツとはさみも用意する。
・模擬店がごみを持ってきたら、分別チェックをし、必要に応じて再分別をしてもらう。
・分別が十分なごみはストックヤードの外に一時的に置き、時間のあるときに計量を行う。

夜の部（16：00～終了時）

A. ストックヤードの設営
・投光機を設置する。（設置場所は配置図参照）
・生ごみ受付の準備をする。

B. 交通整理（1 人）
・円錐コーン、紐を用いて模擬店が並ぶ順路を確保する。
・ごみを持参する人が 2 列に並ぶように指示する。

・車やバイクの出入りについて全体に注意する。
・トラメガを用いて注意を行う。

C. 分別チェック（2～3 人）
・模擬店が持ってきたごみ袋をチェックして合格・不合格を判定し、合格のものはストックヤードへ、不合格のものは再分別エリアに誘導する。
・缶・びんは再分別エリアで缶とびんに分けてもらう。
・会場ごみ箱からのトレーは未洗浄トレー置き場に誘導する。
・模擬店店内および店頭のごみ袋からのトレーは洗浄エリアで洗浄してもらう。
・トロ箱は再分別エリアで潰して袋に入れてもらう。
※ごみ袋は受け取らずにチェックする。（ごみ袋をスタッフに渡して作業終了であると誤解して帰ってしまう人がいるため）
※段ボールについては後片付け日で回収する旨を伝え、帰ってもらう。

D. ストックヤード整理（1 人）
・分別が十分なごみ袋を持ってきた人に各ストックヤードの位置とごみ袋の置き場所を指示する。
・既に計量されたごみをストックヤードの中に入れる。
・計量を補助する。

E. 計量（1 人）
・秤を用いて分別ごとに計量し、記録用紙に記入していく。
・集積場の作業が終わりかけたら、手のあいている人と協力し、ペットボトルのカウント、発泡トレーの計量、ストックヤードの整理を行う。

F. 再分別補助（3～5 人）
・再分別の仕方を説明する。必要に応じて、火バサミ、軍手等を貸す。再分別が終わった人に、ごみ袋をストックヤードへ持っていくように指示する。
・再分別の袋がいっぱいになったら、ストックヤードへ持っていき、袋を交換する。
・ペットボトルはペットボトル処理エリアでキャップ・ラベルを取って、すすいで潰してもらう。中にタバコが入っていたり、汚れがひどかったり、状態の悪いものはビニール・プラスチック類に入れてもらう。
・缶・びんは缶とびんに分けてもらう。

G. トレー洗浄（1～4 人）
・店内から出されたトレーを模擬店の人に洗ってもらうように説明する。
・必要に応じてバケツの水を変える。
・あまりに汚れのひどい物は紙ごみに入れてもらうように指示する。
・適宜、ゴム手袋とスポンジを貸す。

H. 生ごみ受付（1～2 人）
※詳細は生ごみ堆肥化担当参照。

Ｉ. 総指揮（1 人）
・各人員に適宜指示を出す。
・他のスタッフでは対応できないこと（研究室のごみや事務室のごみ等に関する質問）に対応する。
・暇なときはストックヤード整理を手伝う。

(５)シフト

・21～23 日（１～３日目）

13：00～16：00　２人
ただし、休日はごみが多いため、14：00 以降は３～４人必要。

16：00～終了時　12～15 人
模擬店の営業終了時刻付近（17：00～18：00 くらいまで）が最も忙しい。
営業終了後、事務局が行うごみ回収は 19：00 前後。

・24 日（最終日）

13：00～16：00　２人
ただし、14：00 以降は３～４人必要。

16：00～終了時　13～15 人

(６)反省

ここでは、集積場運営全体の反省と、各担当別の反省点について記載したい。

＜分別チェックについて＞

・合格基準に個人差が出ることを踏まえ、資源ごみ（ペットボトル、割箸、缶・びん、発泡トレー、生ごみ）に関しては、「１００％の分別」とし、紙ごみ、ビニール・プラスチック類については「一見して異物が見えない程度」としたが、やはり個人差が生じ、人によっては厳しかったり、甘かったりということがあった。なぜ分別をするのか、どこまで分別するのか、分別が意識啓発につながるにはどうしたらよいかということに関してスタッフ内での事前の協議が不足していたと思う。基準のゆれはごみを持ってくる模擬店にとっても、意識啓発よりは釈然としない印象を与えると思われ、効果的な意識啓発につながらないので、各自個人の感情ではなく、理論・意義に基づいた判断が望ましい。根拠ある判断をするためには、分別・リサイクル担当内（上回生）だけではなく、コアスタッフ全員で事前に分別の意義に関して話し合いをした方が良いと思われる。

・シフトについては、忙しい時間帯のみ３人とした。

＜ストックヤード整理について＞

・整理は順調に行われていた。また、最終日にはごみをスタッフで協力してストックヤード内のごみ袋を押しつぶすなどの努力の甲斐もあり、ストックヤードからごみ袋が溢れることはなかった。

・ペットボトルは潰してからコンテナに入れることを徹底した。さらに、毎日上から踏み潰したため、溢れることはなかった。

・ストックヤード整理の仕事は計量、整理など多岐にわたるため、臨機応変にこなしていくことが求められるが、大きな問題はなく、当日スタッフ中心に行った。

＜再分別エリアについて＞

・牛乳パック回収は、洗って開いていない場合が多いことから、すすぎの作業がしやすいように、ペットボトル処理エリアと同じ場所で処理・回収を行った。

・卵パック回収作業は分別チェック横（配置図参照）で行ったが、時々袋を取り替える程度で問題はなかった。しかし、スタッフの死角であり、場所についてスタッフ間で連絡が足りない部分があった。

・前夜祭時に缶とびんの表示を準備していなかったことがわかり、当日は既存の表示を加工してしのぎ、翌日から新たにつけた。

・再分別用生ごみ袋を必要と判断して設置した。しかし、一番端に１つだけしかなかったため、使い勝手が悪かった。また、スタッフの目が届きにくいことから紙ごみ等が混入し、後で、スタッフが再々分別することになった。３セット設置する必要はないが、２セットは必要と思われる。また、紙ごみ、ビニール・プラスチック類のごみ袋の近くに置くと、それらのごみが混入しやすいので避けたほうが良い。

・再分別補助には、コアスタッフと当日スタッフの双方に入ってもらっていたが、再分別の作業や意義に関する説明、再分別作業終了の判断という点で意思疎通が足りない場面もあった。当日スタッフの人も模擬店から見れば同じスタッフ。しかし、実際、当日スタッフではわからないところも多いはずなので、コアスタッフが最初の暇な時間等を利用して説明するなどして当日スタッフをリードすることも必要かと思われる。当日スタッフの人も、環境対策ということに興味を抱いて参加し

てくれており、どうしたら意識啓発につながることができるかということも踏まえておくべきと思われる。
・再分別をしてもらう模擬店の人に、分別の意義を理解してもらい、ごみ問題に関心を持ってもらえるように、処理フローや意義に関する説明を模造紙で作成したが、こちらのミスにより業者にごみと間違えられて回収されてしまった（本祭 1 日目の朝）。分別基準表のみ、当日、急遽作成して 4 日間しのいだ。来年度は、集積場に忘れ物がないかしっかり確認するようにしてほしい。

＜計量について＞
・概ね、作業概要どおりであった。特に問題はなく、当日スタッフ中心で行った。

＜店内トレー洗浄について＞
・すすぎが忙しく、一時的に担当者を最大４人に増やした。
・洗浄スペースが若干狭いように思われたが、よく機能していたと思う。

＜交通整理について＞
・模擬店終了時刻（17：00～18：00、最終日は 18：00 頃と 20：00 頃）は特に混雑が激しく、通行人や自転車、車の接近を呼びかけたり、分別チェックに並ぶ人の列を誘導したり、再分別エリアの人に警告をしたりする役目は重要である。また、ごみ袋を持っていく先について質問されることも多いので、把握しておく必要がある。

＜総指揮について＞
・他のスタッフが対応に困ったときに、「あの人に聞いてください」と回せるよう、わかりやすい所に固定しているべきである。
・当日スタッフの人はなるべくいろいろな作業が体験できるように配置することを心がけるのが望ましい。したがって、コアスタッフにしかできない作業と当日スタッフでも十分できる作業を区別して把握しておくと良い。

＜全体について＞
・昼の部では、不法投棄ごみ（集積場外に勝手に捨てられたごみ）の処理に時間をとられた。集積場の扉に投棄禁止ビラを貼っておくなど努力する必要があるかもしれない。また、再分別エリアの表示は全て撤収しておかないと、ごみ置き場と思われ、投棄が増えると考えられる。
・研究室および事務のごみは原則、事前に通達が行っているものとして断った。しかし、これについては本当に通達が行われているのか、代替措置はないか等、事務と交渉する余地はあると思う。
・概ね、作業概要通りに機能していたと思われるが、前記の様に変更点もあった。マニュアルは最善と考えられるシステムを想定して作成されているが、それに固執せず、必要に応じて改良を加えていくこともまた重要であると思う。
・ガス缶等の危険物が今年も出された。例年、事務局と協力して対応しているが、不法投棄ごみとして出されるので当日ではどうにもならない。危険であるという認識を模擬店の人に持ってもらえるよう、事前の段階での広報が重要と思われる。
・前夜祭の日に電気ドラムが発火した。原因はおそらくコードを巻いたまま使っていたためと思われる。翌日から工学部で電気ドラムを借り、コードは全てほどいて使用した。
・今年度は、マニュアル作成時点では運営時間について、1～3 日目は 20：30 まで、4 日目は 22：30 までとしたが、実際にはそれぞれほぼ１時間早く終了した。ごみの持ち込み時間について企画担当者会議等で連絡を徹底させれば、来年度は終了時刻を１時間早めても良いと思う。
・毎年、ごみの総量は増加傾向にあるが、なぜ増えるのか（来場者数が年々再々増えているのか、ごみの単位量当たりの質量が増えているのか、模擬店の売上が伸びているのか等）、どうしたら減少効果が見込めるかという議論を事前に行った上でシステム作りに取り掛かることもまた重要かと思われる。
・昨年度と比較すると、分別状態が驚くほどよかった。不法投棄ごみの一部ですら、再分別する必要がないほどであった。環境問題に関する意識が一般にも浸透している証拠であろうか、環対の広報が効果を発揮してきているのか、定かではないが喜ばしいことである。来年度以降もさらに分別率の上昇が見込めるような、意識啓発に頑張ってほしい。

６．ごみ箱の作成について

文責：小林 洋介

(１)目的

ごみ箱の形状や表示について工夫を凝らし、少しでも分別率が上がるように考えている。また、来場者や模擬店の人々などの１１月祭参加者に分別を促すことで環境意識の向上を図る。

(２)必要物品

段ボール、製作工具、色紙（表示・サンプル用)、糊、ペットボトル（竹串入れ）ガムテープ、透明梱包用テープなど

(３)作業概要

①作業の時期

１０月上旬　　ごみ箱課動き出す
１０月中旬　　ごみ箱作成の概要が決まり、必要物品（ペットボトル、発泡トレー）を集める。
１０月下旬　　段ボールが集まってくる。
～１１月第２周　ごみ箱（２日間)、サンプル（空き時間を利用)、表示（印刷のみ）の作成

反省点

・１０月中旬の案で、ごみ箱の数の把握がなされていなかったのでダンボールの数をはっきり特定できなかった。数の把握をすると作業全体の見通しがよくなるので早めにしたほうがよい。また、ごみ箱作成に関する書類を作るのが遅れると、設置関係の仕事と同時に進めなければならなくなり、かえって大変なのでできるだけ１０月中旬までにしっかりとまとめたほうがよいだろう。

②ごみ箱本体について

ｉ）段ボール製ごみ箱（１５３個）

メインとなるごみ箱であるが、作成の手間と使い終わった後のことを考え、他のごみ箱でできるだけ代用した。作成は、６０～８０ｃｍの高さごとに仕分けして周径を９０Ｌごみ袋が入れやすいように１７０ｃｍにそろえた。また、切り開いたときに裏返して元の表面が見えないようにする。

ii）鉄製ごみ箱（３０個）

総合人間学部内の鉄製ごみ箱を移動させて用いた。一つのごみステーションに３個だけ組み入れるときには、缶・びん、ＰＥＴボトル、発泡トレーの３分別に使用した。近くに６個あれば１つのステーションをすべてこれでまかなった。

iii）木製ごみ箱（８個）

以前作成した、折りたためる簡単なごみ箱。本部構内の発泡トレー用に用いた。

iv）生ごみバケツ

生ごみには量と水分のことを考慮して、バケツを使用している。また、中にはビニール袋を入れた。表示として、下に段ボールをひいてそこに表示をはった。

ｖ）竹串入れ

割り箸に竹串が混入しないように、割り箸ごみ箱には、ペットボトルを半分に切った入れ物を竹串入れとして付ける。

反省点

・生ごみバケツに使ったごみ袋が小さかったという指摘があった。しっかりと覆えるものを用意するとよいだろう。

③ごみの分別表示について

分別表示は、ごみ箱の中央上部に貼り付けた。紙の色を分別ごとに決めた。紙はＢ４サイズ。各５０枚印刷した。

分別表示に書かれた文字は次の通り

表示の種類	それ以外の表示内容
紙ごみ	紙トレー・串・竹箸など　割り箸はこのごみ箱ではなく専用ごみ箱へ
ビニール・プラスチック類	透明パック・ストロー・PETボトルのふた・ラベルなど
空き缶・空き瓶	ふたは外してビニール・プラスチック類へ
生ごみ	食べ物だけ　食べ物以外の物を入れると堆肥になりません
PETボトル	ふた・ラベルは外してビニール・プラスチック類へ
割り箸専用	串・竹ばしは紙ごみへ
発泡スチロールトレー専用	トレー内の食べ物は「生ごみ」のバケツへ 手作業での選別後、リサイクルに廻しています 異物は入れないで下さい

発泡スチロールトレーと生ごみには後半部の注意書きを小さな字で入れた。
また、見やすさを重視するため昨年より図を用いた。

反省点
・b地区では通路の端や壁際において、片面しか見えなかったので両面分印刷したのは無駄だった。ごみ箱の置き場所との兼ね合いで検討が必要だろう。
・こちらでは、表示の図使用を増やしたつもりだったがあまり用いていないと指摘があった。もっと、使ってもよいのではないかと思う。

④ごみサンプル
今年も、分別をわかりやすくするためにサンプルを用いた。位置は表示を貼った真下である。
ビニール・プラスチック類　→フードパック、ペットボトルのふた及びラベル
発泡スチロールトレー　→発泡スチロールトレー（白）

反省点
・今年はサンプルを透明梱包用テープでとめたため、途中ではがれることはなかった。
・今年は、何をサンプルにしたら有効かということがあまり議論されなかったので、少し考えてみるとよいだろう。

⑤雨対策
・雨が降りそうなときには、段ボールごみ箱については外からビニール袋をかぶせることでごみ箱自体が使えなくなるのを防ぐ。
・中に水がたまるような強さの雨になったらごみ箱はしまう。
と考えていた。

(４)その他反省点
今年は、風が強かったためごみのあまり入っていない朝方を中心にごみ箱が飛んでしまうという事態が起こった。そのため、風対策を含めた強度の問題については再考が必要だろう。サンプルについては梱包用テープを使って固定したため、ほとんどトラブルはなかった。また、例年問題となるようにごみ箱作成に必要な段ボールがかなりの数になるため（今年は生ごみ標識のこともあり 250 個請求)、段ボールを集めてくれている事務局側が来年も集めてもらえるようにがんばるべし。また、今年はごみ袋が外れないように段ボールに袋をかけるようにして固定したため、表示等をはるスペースが小さくなってしまった。

７．ごみ箱の設置について

文責：小林 洋介

(１)ごみ箱の数と位置
ｉ）ごみ箱ステーションの構成
◎ごみ箱
・紙ごみ用　段ボール製ごみ箱×２または鉄製ごみ箱×１
サンプルはなし　表示×２
・ビニ・プラ用　段ボール製ごみ箱×２または鉄製ごみ箱×１　表示×２

サンプル（ＰＥＴボトルのふた、ラベル、フードパック）
・割り箸　段ボール製ごみ箱×１または鉄製ごみ箱×１　表示×２
サンプルはなし　竹串入れ×１　竹串入れ表示×１
・発泡トレー　段ボール製ごみ箱×１または鉄製ごみ箱×１
（ｃ地区では木製ごみ箱×１）表示×２　サンプル（白色の発泡トレー）
・ＰＥＴボトル　段ボール製ごみ箱×１または鉄製ごみ箱×１　表示×２
サンプルはなし
・缶びん　段ボール製ごみ箱×１または鉄製ごみ箱×１　表示×２
サンプルはなし
・生ごみバケツ　バケツ×１　生ごみ標識マット×２

◎その他備品
・標識マット×１　ガムテープ×１

ii）各地区のごみ箱ステーション
ａ地区‐１０ヶ所
・紙ごみ、ビニ･プラ　各段ボール製×１８、鉄製×１
・割り箸　段ボール製×９、鉄製×１
・トレー、缶びん、PET　各段ボール製×７、鉄製×３
・生ごみバケツ　バケツ×１０
ｂ地区‐７ヵ所
・紙ごみ、ビニ･プラ　各段ボール製×１０、鉄製×２
・割り箸　段ボール製×５、鉄製×２
・トレー、缶びん、PET　各段ボール製×３、鉄製×４
・生ごみバケツ　バケツ×７
ｃ地区
・紙ごみ、ビニ･プラ　各段ボール製×１６
・缶びん、PET、割り箸　各段ボール製×８
・トレー　木製×８
・生ごみバケツ　バケツ×８

・大きさとごみの量の関係から鉄製ごみ箱の使用は缶びん、ＰＥＴボトル、トレーを優先した。
・校舎内には設置しなかった。（詳細は P35 参照）
・設置数は、各模擬店に１分別のごみ箱（生ごみを除く）を担当してもらうため、６模擬店につき１つのごみステーションを置いた。

＜反省点＞
・今年も、環境虎の巻にはごみ箱配置地図を載せたが、事務局側の模擬店位置の決定が遅くなり、ぎりぎりになってしまった。
・配置地図はごみ箱設置や封鎖のときに正確な位置が分かりにくいと不評だったので、場所を特定するのに必要となる目印を入れるなど改善が望まれる。
・ｂ１～３、ｃ24～27 の模擬店が担当したごみ箱は、店の場所から離れてしまい、ごみ箱管理の連帯責任が分かりにくくなってしまった。（詳細はＰ35）
・⑤のごみ箱ステーションは、企画と場所がかぶってしまい、当日にステーションの位置を変更し、吉田グラウンド南のフェンス側に設けた。

(２)ごみ箱設置作業

ｉ）作業の流れ

前夜祭の日　午後　　ａ、ｂ地区の必要物品を吉田食堂へ運んだ

　　夕方～　　使用しないごみ箱の封鎖、撤去

　　ｂ地区の鉄製ごみ箱を移動

　　ｂ、ｃ地区の各ごみステーションを置くポイントにごみ箱を撤いた

本祭初日　　朝　　a 地区では、ごみ箱を撤きながらごみ箱を組み立て、袋、サンプルを取り付けた。

　　ｂ、ｃ地区では、撤いてあるごみ箱を組み立て、袋、サンプルを取り付けた。

ⅱ）留意点

・Ａ号館と１号館のごみ箱については、適当な場所を見つけて隠した。Ｄ号館とＥ号館のごみ箱、屋外ごみ箱については使用禁止と趣意を書いた紙を貼った。

・前夜祭中は、封鎖していないごみ箱にごみが入れられてしまわないように各地区の鉄製ごみ箱をひっくり返しておいた。

・生協管轄のごみ箱については、生協に封鎖協力のお願いをした。

＜反省点＞

①物品移動

・吉田食堂に物品を運ぶときにあらかじめ分けられていた段ボールごみ箱が混ざってしまい、仕分けに時間がかかった。倉庫の中のことを把握している人の指示が必要。

②封鎖について

・紙で入口をふさいだごみ箱の中で、紙を破ってごみが入れられているものがあった。ガムテープを使うなど、若干の強度は必要だろう。

・鉄製ごみ箱のふたにもごみが入れられていたので注意が必要である。

・ごみ箱を元に戻す際に、どこに隠したのか分からなくなった場所もあったので報告を忘れずに。

・ｂ地区の校舎内の封鎖は数が多いので２組でまわったほうがよい。

・Ａ１０１周辺は教室不使用のため、封鎖しなかったがドアが開放されていたので分別されずにごみが捨てられていた。事務局だけでなく、施設管理課にも建物の開放状態について連絡をとるべし。

③ａ地区箱撤き・設置

・今年から当日朝に箱撤きを行ったが、時間的には十分間に合った。ただ、用意されていた鉄製表示が誤っていたので間違って貼られたのを直すのに時間をとられた。それでも、時間ちょうどに終えられた。

・この地区は、特に風の影響を受けやすいので二日目朝にたくさんのごみ箱が飛ばされた。

・設置作業は、ガムテープが余分にあれば２人ずつ２組よりも３人で１組でまわったほうが早い。

④ｂ地区箱撤き・設置

・この地区ではごみ箱の片面しか見えないのでサンプルを両面に貼ったのはむだだったかもしれない。（模擬店がサンプルの面を前にするとは限らないので）

・鉄製移動の人たちが、ごみ箱撤きの人たちより早く進むので、その人たちに場所と順番を教えておくとよい。

(３)標識マットについて

各模擬店がごみ箱を回収して、翌朝出すための場所を示すため、各ステーションに標識となる段ボール製のプレートをおいた。書かれた内容は、ごみ箱番号、各ごみ箱の担当模擬店、ごみ箱の並べる順番である。標識マットは、ごみ箱を撤く際に地面に貼るか、生ごみ標識にくくりつけるかして固定した。補強のため、ビニールでコーティングした。ごみ箱設置のときに、あらかじめ取り付けておいた紐にガムテープをくくりつける。

＜反省点＞

・標識マットは、目立たせにくいものなので模擬店側に存在をしっかりと理解してもらう必要がある。標識マットの役割の説明をよく行うべし。（初日の巡回１など）

・括り付けるガムテープは取られやすいので、ガムテープに環境対策委員会と書いておく。

８．店内 POP

報告者：元水 剛

≪目的≫
店内 POP は模擬店の中に設置する表示物です。学園祭において模擬店の人達が行うごみ処理（ごみの分別・担当ごみ箱の管理・発泡トレーの洗浄など）の手順を、各模擬店の人が一目で確認するために設置する。２模擬店につき One POP（ダンボール１枚）。ダンボールの片面が一模擬店分で、そこに説明用紙（A4 用紙２枚）を貼り、ダンボールにひもをつけてテントの梁にくくり付けた。

≪実施内容≫

〈学園祭まで〉
10 月　店内 POP の企画書を作成した。（今年度どのように進めるか、ということ）
11 月　店内 POP そのものを作成した。（表示文書と、それを貼り付け吊るすダンボールの作成）前年度のものも有効に利用した。
11 月　店内 POP 設置マニュアル文章を作成した。（当日マニュアルに載せる具体的な作業内容を含む文章のこと）

〈学園祭中〉
学園祭初日朝、模擬店の営業が始まる前（9：30～）に各模擬店を回り、ごみ処理方法や POP についての簡単な説明をした後、作成した POP を模擬店のテントの梁に吊るしていった。

〈学園祭後〉
できる限り POP を回収して来年のために倉庫に保管した。

≪反省と検討≫
（POP の設置）
１．今年度は、「模擬店にきちんと説明してから POP を設置する」ということを強調した。理解すれば効果が上がると思う。ただし、その後に行う巡回一の説明とかぶらないように調整が必要。
２．ごみステーション地図などを用意して、説明する際にその模擬店が管理するごみ箱の位置を分かりやすく伝えればよかった。
（位置の説明は、その場で指し示すのが分かりやすいし手間もかからない。）
３．背丈のある人がいたらテントに POP を取り付けやすい。

（POP の作成）
４．POP の文書は一模擬店につき A4 二枚であるが、図が載っている右側の文書を今年はカラーにした。そのほうが見やすかったからだ。また左側の文書について、担当ごみ箱などの日によって変化する作業についてはそれらを表にして見やすくした。

≪その他≫
①店内 POP 関連文書を以下にあげる。
１．店内 POP の企画書
２．当日マニュアル（店内 POP に関する項目参照。設置・回収作業がよくわかる）
３．活動報告書（この文書のことだが、以前の年度の物もある。店内 POP に関する項目参照）
４．店内 POP 記載文章（実物に貼った文書）
＊POP は Point Of Purchase の省略形で、これはスーパーマーケットなどで見かける「ご奉仕品！　寒ブリ 389 円」のような表示物のこと。

９．発泡トレー洗浄

文責：原 康祐

(１)目的
11 月祭で大量に廃棄される発泡トレーをリサイクルできる状態にすること。また、模擬店に参加してもらうことにより、リサイクルの意義を知ってもらい、少しでもトレー削減の努力をしてもらうこと。

※発泡トレーリサイクルの意義
リサイクルされ再び発泡トレーに戻ることで、ごみの減量化、省エネルギー、省資源に貢献する。

(２)当日までの準備
＜10 月第４週＞リサイクル処理（発泡トレー洗浄）企画書を提出
＜11 月第４週＞必要物品の購入・保管、バケツ・ブルーシートの洗浄、出席確認表・スタッフ用マニュアルの作成

(３)実施日時と場所
・実施日　11 月 22、23、24、25 日（ただし 22、24 日は未洗浄トレーが誤ってごみ回収業者に回収されてしまったため中止。25 日は雨のため中止。）
・実施時間　１．ａ地区 10:00～10:25
２．ａ地区 10:40～11:05
３．ｂ地区 11:20～11:45
４．ｃ地区 12:00～12:25
注：ａ地区は模擬店数の関係から２つに分けた
・場所　集積場南トイレ前

(４)当日の作業概要および手順
①洗浄場所の準備
・手袋とスポンジ、消毒液を受付場所に用意する。
・リサイクル処理の意義と作業手順の説明書は集積場の入り口に貼る。
・水を入れた洗浄用バケツとブルーシートとすすぎ用水槽を適当に配置する。ざるは排水溝の上に置く。
・汚れがひどくて落ちそうにないものと汚れが落とせるものとを仕分け、バケツの横に一定量ずつ置く。汚れがひどいものはサーマルリサイクルもできないので、紙ごみとする。
・洗浄開始 10 分前に模擬店に１つずつ呼びかけに行く。

②洗浄
・地区ごと（ａ地区はさらに 2 つに分けた）の担当時間に各模擬店から１人以上来てもらう。11 月祭で出るごみは、祭りを形成している模擬店が共同で管理する、という考え方からトレー非使用模擬店にも共同で作業に当たってもらう。
・受付後、手袋とスポンジを渡し、リサイクル処理の意義と作業手順の説明書を見てもらったあと、トレーを洗浄してもらう。バケツが足りない場合や、模擬店が大幅に遅刻した場合はすすぎをしてもらう。
・一定量が終わったら作業終了。最後にバケツの水はざるでこして捨ててもらう。時間内に終わらなかった場合でも、終了時刻になったら、そこで終了とする。洗浄時間は、最大で 25 分。終了後、洗浄されたトレーをスタッフがすすぐ。
・スタッフの作業割り振り
責任者兼すすぎ（1)、受付（1)、未洗浄トレー仕分け（1)、バケツの水交換（1)

③洗浄場所の片付け
・洗浄済みトレーは袋にできる限り多く入るよう整理して詰めて集積場内の扉の中に保管する。
・未洗浄のトレーをまとめ、元の置き場（集積場南）に片付ける。

(５)反省・報告
・ブルーシートは１枚で足りた（大きさは中)。
・リサイクル処理の意義と作業手順の説明書は当初トイレの壁に貼る予定だったが、集積場の入り口に貼り、洗浄前に見てもらうようにした。
・集積場南側の水道のホースがなくなっており、作業が困難であった。代替ホースもサイズが合わず使えなかった。
・模擬店への呼びかけはトラメガを使って行う予定だったが、当日は模擬店を１つずつ回った。そのせいか、a、b 地区の出席率は非常によく、ともに約 8 割出席していた。一方、c 地区は呼びかけを

しなかったためか、出席率は約 3 割と低かった。
※出席率の詳細（小数点以下四捨五入）
a 地区 10：00～：85%　　a 地区 10：40～：79%
b 地区 11：20～：83%　　c 地区 12：00～：33%

・今年は未洗浄トレーがごみ回収業者に回収されて 2 回トレー洗浄が中止になり、後片付け日も雨のため中止になった。22 日に未洗浄トレーが誤って回収されたあと、未洗浄トレーにブルーシートをかぶせて、さらに回収しないでほしいことを書いた紙を用意したが、24 日に再び回収されてしまった。模擬店には中止になったことを知らせたが、トレー洗浄場に来る模擬店は多かった。
・リサイクルにまわせたトレーは約 3600 枚で、11 月祭中にごみになったトレーの約 12%だった。これは 3 回も中止したためである。

(６)次年度への展望
・リサイクル処理の意義と作業手順の説明書を貼る位置に関しては、集積場の入り口の場合、洗浄前に確実に読んでもらえたのでよかったのではないかと思う。
・今年は模擬店の作業環境の改善のため、いす（バケツ）を用意した。多くの人が座っていたので来年度以降も用意したほうがいいと思う。
・模擬店の出席率は去年よりよかった。模擬店をひとつずつ回って呼びかけた結果だと思う。ただ、呼びかけに時間がかかるので、比較的時間がある人が行かなくてはならない。または、巡回として独立させたほうがよい。
・未洗浄トレーが回収されることを防ぐために、来年度は事前の業者との打ち合わせの際に確認しておいたほうがよい。
・スタッフの作業割り振りは、
すすぎ、未洗浄トレー仕分け、バケツの水交換 → 専業
受付、すすぎ済みトレー袋詰め → 兼業
とすれば、もっと作業効率が上がるかもしれない。
・ 今年度のトレー洗浄は当日余裕がなかった。集積場南の水道のホースがなかったことと、責任者（原）の力不足が大きいと思うが、シフトの人数が１人増えると楽になると思う。来年度以降、もっと余裕があり、模擬店と話ができれば、環境意識の啓発にもつながり、トレー洗浄がもっと有意義なものになるのではないかと思う。

１０．後片付け日ごみ回収

文責：増田 大美

(１)実施内容
11 月祭翌日の後片付け日は、特に多くのごみの排出が予想される。また同時に、当日中に業者によるごみ回収が行われる。混乱が予想される最終日だが、11 月祭から最終的に排出されたあらゆるごみに対して本祭同様のごみ分別活動を行う事を目的に、事前準備を行った。具体的には、本祭期間と異なる場所・時間でごみ回収を行う。また、11 月祭事務局主催の大清掃実施に関わった。

(２)詳細と反省点
当日は 1 日中雨が降ったため、特に回収場所での再分別が困難になった。時間の面だけみると企画のごみ回収・再分別は予定通り 12 時までに終了したが、これはひとえにスタッフと、企画の早期持込のおかげだ。午後からは待機し、17 時半に処理業者によるごみ回収が終了した。以下、反省点を含め時系列順に詳細を述べる。

①ごみ回収（9：00～12：00 予定）
回収場所は、昨年度同様に分別によって二箇所（下記）に分け、再分別も行った。
・吉田グラウンド南西角…紙ごみ、ビニール・プラスチック類、段ボール
・集積場…缶・ビン、PET ボトル、割り箸、発泡トレー、生ごみ、廃食油、乾電池、牛乳パック、卵パック
模擬店企画はグラウンドに前日の担当ごみ箱を段ボールごみとして運び、店内 POP も運んでもらい別回収することとした。回収など全般の事前連絡は、模擬店企画に対しては担当者会議にて説明・環境虎の巻に掲載し、当日店内 POP にも記載した。また一般企画に対しては、担当者会議でプリントを配布、説明した。

当日作業について、おおむね予定時間通りに回収が終了したが、雨天での再分別は決して楽なことではなかった。午前中、集積場・グラウンド・巡回（ごみ回収内容を伝える）シフトに入ったスタッフ数はそれぞれ約 6,7,3 人。巡回の予定を立てていなかったことを含めると、事前に考えていた人数の 2 倍以上のスタッフ数だった（輸送・食堂清掃が効率よく終わったこと、トレー洗浄がなくなったことによる）。

グラウンドでの反省点は、

・設営：初期に表示の作成が遅れた。再分別に生ごみの分別がなかった。段ボールは縦に並べる予定だったが、下から積んでいく方法が置きやすい。
・企画への事前説明：担当ごみ箱の中でも特別な鉄製、木製ごみ箱の扱いを事前に連絡するべきだった。鉄製ごみ箱をグラウンドに運んだり、木製ごみ箱を角材として捨てた模擬店も見られた。
・ごみの受入：大清掃説明のため責任者がいなくなり、企画への対応が難しかった。
・雨による弊害：ごみ袋が泥まみれになる。作成した再分別用の生ごみの袋に水が入る（→結局は堆肥化できないと判断された）

集積場での反省点は、

・放置ごみ：研究室からのごみ。前日の打ち上げらしき大量の缶・ビン
・予想外に多かったごみ：生ごみ（堆肥化担当が必要）。立て看等の大型ごみ（→角材としてグラウンドに急遽回収場所を設定したが、スタッフ間の意志疎通が上手くいかず 2 ヶ所に分かれてしまった）
・予定外だったごみ：落ち葉を大清掃（②に詳細）の際に持ってこられた（→乾燥していれば生ごみ堆肥化に使用）。説明時に回収しなくてもよいことを言うべき。

巡回の反省点は、

・今年度初めて当日になって行った（トランジットメガホン使用）。呼びかけることによってごみ回収を急ぐ模擬店もあったため、事前に呼びかける内容を用意する。
・上記のグラウンド、集積場での反省点から、呼びかける項目を確認するべき。

②大清掃（11：00～11：30 予定）

大清掃とは、11 月祭事務局が後片付け日朝に企画に呼びかけて行う大掃除のことである。昨年度は当委員会との話し合いがないまま当日を迎え、大清掃のごみ分別数が「可燃、不燃、段ボール」だった。そのためグラウンドでのごみ受入（分別数は本祭中と同様）に混乱が生じた。そこで今年度は事前に話し合いを行った。実施内容や場所は事務局側が既に企画に連絡していたが、回収内容（ごみの分別数や受入場所など）は環境対策委員会が準備し、当日に説明プリントを配布した。またスタッフ数の不足から、事務局と当委員会とで企画に対する説明を分担した（当委員会は abc 各地区とグラウンド企画担当者への説明を担当）。

大清掃の分別は基本的に 2 分別で、紙ごみ、ビニール・プラスチック類を分けて回収する（場所はグラウンド）。もし缶、ビン、ＰＥＴボトルを拾った場合は手で持ってきてもらう事とした。模擬店企画の場合は模擬店番号の偶･奇で担当分別を分け、使用ごみ袋数を減らした。

当日の参加率は、模擬店に関しては半分以下だった。いったん説明場所で企画を集めてから説明するとわかりやすかったようだ。今年度初めて、大清掃の説明を当委員会が分担したが、事務局・当委員会が共に大清掃の内容を確認することができた事は評価できると思う。もちろん回収内容だけ当委員会で作ったとしても事前確認にはなる。しかし、当日配布物を渡すまでの過程で両者の話し合いを持ち、確実性が増したように思う。

また、模擬店の作業を分別によって分担させた試みも成功した。分別数を単純化かつ担当化したのは、実際に拾うごみが多くないからである。小さな工夫ではあるが、無駄に使用されるごみ袋を増やすよりは、分別数によって分けたほうがよいといえるだろう。

③最終受け入れと業者対応（12：00～16：00 予定）

午後からは約 2 名のスタッフが集積場・グラウンドに残って待機し、同時にごみの計量を行った。段ボールが吸水していた事や計測器・準備が不十分だった事から、データはあまり正確ではない。概算して、段ボールは 2100 kg、紙ごみは 315 kg、ビニール・プラスチックは 448 kg 回収された。

処理業者による回収は 14：00～17：30 まで、トラック 3 台で行われた。

(３)次年度に向けて

●雨の割に回収がスムーズに行われたが、これは事前連絡や当日朝の巡回説明の効果でもあるだろう。しかし、分別についてはいくつか改善点があるように思う。
- 最終日のみ角材という分別を作る（当日、現場のスタッフ間での認識だけでもよい）。
- 雨の場合、分別数を変更することも検討する。例えば、生ごみ分別を作らずに紙ごみとする（水が大量に入ると堆肥化しにくい）など。

●大清掃については、事前連絡の必要性の一言に尽きる。今回は話し合いを始めた時、大清掃の清掃区域が既に事務局側によって決められており、それに合わせる形で分別担当を決めた。例えば模擬店企画の場合は「清掃場所は各模擬店の周囲」としか担当者会議で指定されていなかった。２分別をそれぞれ担当してもらったため、当日、例えばｂ地区では自分の模擬店および両隣の模擬店の前後」と呼びかけた。来年度はもっと早い段階で（一般企画虎の巻、模擬店企画虎の巻の作成以前）事前に 11 月祭事務局と話し合いを持ち、企画の周囲以外の清掃区域を指定してもよいかもしれない。例えばグラウンド企画であれば少し広範囲に設定して、各模擬店の存在する位置によって東西南北の清掃区域に分けることも考えられる。

●事前に抜け落ちていた点に、事務局の「ごみ集（ごみつど）」がある。ごみ集とは、企画終了後に事務局が例年行っている投棄ごみ・放置ごみの撤去作業をいう。今年度は本祭中に関してのみ、時間を明記したごみ集の確認レジュメを事務局に提出していた。しかし、実際は全てのごみ集が予定通り行われたわけではなく、直前にも時間の確認が必要だといえる。また、本祭のみならず片付け日のごみ集の確認が必要だった。というのも、片付け日、全てのごみを回収後ごみ箱復旧作業の最終確認で各地区・校舎内を巡回した。その際多くの投棄ごみが見つかり、当委員会が回収した。片付け日には全てを最終復旧する必要があり、そのごみ集は 11 月祭を締めくくるものだ。今年度は偶然巡回したものの、来年度からは事務局とごみ集に関する事前確認を取り、双方気持ちよく祭を終わらせるべきだ。

F. 洗い皿企画

文責：中村光男

１．目的、意義

洗って何度も繰り返し使える皿と箸、洗い皿と洗い箸を模擬店に貸し出し、使い捨て容器の使用量の削減を目指す。また、それを使うことで模擬店の人や来場者にごみの減量、環境負荷の軽減という意識を持ってもらう。

２．企画内容

・１１月祭環境対策委員会から洗い皿を「洗い皿参加模擬店」に貸し出す。
・洗い皿参加模擬店で食べ物を買った客は、食べ終わったら、皿をその店に返却する。
・吉田食堂の洗浄機を使って皿の洗浄を行う。店の中で使用済みの皿がある程度たまってきたら、吉田食堂に運んできてもらい、きれいな皿と交換する。
・皿の洗浄は食堂の方の指導の下、洗い皿参加模擬店でシフトを組んで行う。
・洗い皿参加模擬店の広報を、１１月祭環境対策委員会から洗い皿ＰＯＰ、洗い皿選挙看板、環境企画参加模擬店配置図（＊）を用いて行う。

＊洗い皿ＰＯＰ…洗い皿模擬店の店頭に飾る、「この店は洗い皿を使っています。」という内容をのせた広告。お客さんに一目でわかってもらえる。
＊洗い皿選挙看板…洗い皿参加模擬店に自分の店の広告をＢ４用紙１枚で作ってもらい、それらを集めて選挙看板風に広告看板として仕上げたもの。
＊環境企画参加模擬店配置図…模擬店配置地図にマーカーで色をつけ、お客さんが洗い皿参加模擬店がどこにあるのかが分かるようにした。

(洗い皿選挙看板、環境企画参加模擬店配置図の設置場所については広報担当を参照)

３．当日までの時系列

６月　　ＮＦ企画説明会　洗い皿の紹介・アピール
７月　　皿の枚数、種類の確認
　　企画申請開始、洗い皿の申し込み（一次募集）、皿サンプル展示
１０月２日　第１回企画担当者会議
　　洗い皿企画説明、二次募集説明、皿希望調査票配布
１０月１５日　第２回企画担当者会議
　　皿希望調査票回収、皿決定及び発表、預かり金領収
１０月２２日　第３回企画担当者会議
　　選挙看板用の広告作成を各模擬店に依頼、最終募集説明
１１月５日　第４回企画担当者会議
１１月８日　最終募集締め切り
１１月１４日　第５回企画担当者会議
　　洗浄シフト発表、当日の作業の説明
　　選挙看板用の広告を各模擬店から回収

４．当日の詳細な内容

（ａ）当日のタイムテーブル

○１１月２０日（水）前夜祭
　１３：００～　皿の運搬（工学部１号館地下１階→吉田食堂）
　１４：００～　皿の事前洗浄、皿並べ（模擬店ごとに並べる）
　２０：００　終了予定時刻

○１１月２１日（木）～２３日（土）本祭１～３日目
　９：００～　受付（皿の貸し出し、交換、受け取り）、皿運び
　１８：３０　受付業務終了

○１１月２４日（日）本祭最終日
　９：００～　受付、（皿の貸し出し、交換、受け取り）、皿運び
　　皿の片づけ（終了間際）
　２１：３０　作業終了時刻、枚数確認、梱包

○１１月２５日（月）後片付け日
　９：００～　皿の運搬（吉田食堂→工学部１号館地下１階）
　１０：３０　作業終了時刻

（ｂ）実際の作業

前日（１１月２０日）の作業

工学部１号館地下１階から皿を運び出して吉田食堂まで運ぶ。皿を洗浄した後、皿の保管場に、模擬店ごとに皿を並べておき、最初に渡す皿（３０枚）をパン箱に入れて準備しておく。

１１月２１日からの作業

受付の人

模擬店開店時刻前（９～１０時）

模擬店の人が皿を受け取りに来るので、用意しておいた皿を皿運びの人に持ってきてもらい貸し出す。貸し出した枚数を洗い皿台帳に記入する。

模擬店営業時間（１０～１７時；最終日ａ地区は２０時）

模擬店の人が使用して汚れた皿を持ってくるので、同数の新しい皿と交換する。貸し出した枚数と受け取った枚数を洗い皿台帳に記入し、環対スタッフが汚れた皿を洗浄場へ持っていく。この際も受付を無人にすることがないようにする。

１３時以降、模擬店皿洗浄シフトの人が来るので、皿の洗浄と乾燥のやり方を説明し

て作業をさせる。交代時間になったら、終わった皿洗浄シフトの人に終了したこととお礼を言う。皿洗浄シフトの人が定刻になっても来ない場合は、電話で呼び出す。

＜実際の洗浄作業＞

洗浄は、残飯をのぞいた後、下洗いしてから洗浄機にかける（生協の青柳さんの指示に従う）。乾燥は、自然乾燥または布巾で拭く方法で行う。

模擬店閉店時刻（１７時；最終日ａ地区は２０時）

模擬店が皿を返却するので、紛失がある場合、店に皿を探させる。見つからなかった場合は預かり金から一枚あたり１００円頂くことを連絡する。受け取った枚数を洗い皿台帳に記入する。返却された皿に未使用皿が含まれていた場合、洗浄にはまわすが洗い皿台帳の洗浄枚数には加えない。

次の日の最初に模擬店に渡す皿（３０枚）を準備しておく。

５．参加模擬店数、皿使用枚数等の報告

企画申請時での申込み模擬店が８店。うち２模擬店が預かり金領収前にキャンセル。その後、新たに２模擬店が申し込み、当日は８模擬店となった。当日はあまり使用していない模擬店が１つあったが、それ以外は概ね普通に使用しているようであった。
洗浄シフトにもすべての模擬店が好意的に参加してくれた。
皿の使用枚数はのべ２８１１枚。紛失は皿１２枚、箸１７膳であった。

６．反省

○募集、広報について

(ア)今年度は企画申請だけでなく、第１回企画担当者会議の場においても洗い皿を広告し、申し込み用紙を企画担当者会議に来たすべての模擬店に配布した。これは企画申請で洗い皿を申し込まなかった模擬店にじっくり考慮する時間を与え、洗い皿に振り向かせるのと、企画申請で安易に申し込むことを防ぐためであった。が、新たに申し込んでくれた模擬店があった反面、キャンセルした模擬店もあったことを考えると、大きな進歩であったとは言い難い。しかし、一つの方法として来年度以降、工夫次第で飛躍するかもしれない。

(イ)最終募集で申し込んだ模擬店と、申し込みを考えたが結局しなかった模擬店があったことを考えると、申込期間の延長は有効そうである。また、何年か前はしていたようだが、洗い皿サンプルを生協購買前などに展開して、多くの人に知ってもらう努力もしたほうがいいと思う。なお、今年は６月のＮＦ企画説明会において１１月祭事務局から時間をもらって洗い皿の説明をさせてもらった。早くから洗い皿の存在を知ってもらうには、これも有効な方法であろう。

(ウ)キャンセルを防ぐために、申し込みの開始時期を遅らせるのはどうだろうか？（キャンセルした模擬店は２つとも企画申請申し込みの模擬店であった。）企画申請時期での申し込みは早すぎるような気がする。また、企画申請で洗い皿を希望すれば模擬店出店抽選に有利だという誤った考えが未だあるのも事実である。企画申請での申し込みをやめれば、上記の理由によるキャンセルはある程度防げるだろうが、模擬店配置についての問題がある。

(エ)洗い皿説明ビラはコスト面をあまり強調せず、環境面、安全面、そして、当日に模擬店が何をすればよいかを分かり易く書いたつもりだったが、今年洗い皿企画に参加してくれた模擬店の中でも理解の不足した模擬店が散見された。当企画は模擬店との協力が不可欠なだけに、念入りな説明と同意が求められる。

(オ)今年度はキャンセルできないことを強調して、キャンセルの罰則を厳しくし、預かり金領収後のキャンセルについては、いかなる場合も￥2,500 の没収とした。私個人は妥当と考えたが、このことも申し込みを渋らせた原因の一つとするなら再考すべきかも知れない。

○当日について

(カ)工学部１号館地下から皿を運び出すのに手間取った。皿箱の山から目的の箱を引っ張り出す手間を省くため、前日までに運び出す皿をピックアップしてまとめておくのがよいであろう。吉田食堂の営業時間が 13：30 までなので、その時には運び終わって食堂入口に固めてあるのが望ましい。

(キ)洗浄機に投入する前、乾燥して机に並べた時に皿、箸をきちんとカウントするべきであった。皿については私個人がカウントしたものの、箸については箱に書いてあった数を信用してしまった。各日の模擬店への皿の出入りを記録する洗い皿台帳はあるが、本祭後に全体の皿の紛失などをチェックする意味でも、全体の皿の数を把握しておくのは大事である。

(ク)当日、一部の模擬店に急に予定外の皿や箸を貸し出すことになった。機をみて皿を倉庫に取りにいって対処したが、予防のためにスペア用をあらかじめ持ってきておいてもよかった。３、４日目は休日で売り上げが伸びることを考慮に入れて、予想することが大事である。

(ケ)数え間違いが多い。途中から受付だけでなく、模擬店の人にも数えてもらう二重チェック法を採用した。

(コ)箸入れ容器が足りない。箸入れ容器は汚れた箸を入れるためのものなので、洗浄機に入れることを考えると、２Ｌペットボトル容器を半分に切ったものを、模擬店数×３ほど用意する必要があるだろう。

(サ)パン箱、箸入れ容器を渡しても返ってこない場合がある。店内で保管用の箱、容器を用意していない模擬店もあるからである。パン箱をたくさん確保できるなら、店内保管用のパン箱、箸入れ容器を渡してあげてもいいかも知れない。

(シ)クイックや皿置き場が思いのほか汚れることに気がついた。クイックのラップは毎日でなくとも二日おきには取り替えるとか、皿置き場の机は毎日拭くとか、ラップをかぶせるとかの衛生管理策をすべきである。

(ス)受付はとにかく暇になりがちであるが、談笑にふけっていては模擬店の人に大変失礼である。暇なときは模擬店シフトの人を手伝って皿を拭くとか、整理するとかすべきである。

(セ)洗浄シフトについて

今年度は以下のシフトで行った。

（注）（　）内の数字はシフトに入ってもらう人数

	２１日（木）	２２日（金）	２３日（土）	２４日（日）
13：00 ～14：30	資源生物科学科１回生（2）	医短看護 1 回生 1 組（2）	京大手話サークル（2）	工学部 1 回生 9 組（2）
14：45 ～16：15	ギターを志す会（3）	工学部 1 回生 9 組（3）	劇団スギ（3）	資源生物科学科１回生（3）
16：30 ～18：00	法学部 1 回生 1 組（3）	京大ハンドボール部（3）	ギターを志す会（2） 法学部 1 回生 1 組（2）	京大ハンドボール部（2） 劇団スギ（2）
18：15 ～20：15				医短看護 1 回生 1 組（2） 京大手話サークル（2）

参加模擬店が８店と、昨年度と比べて大幅に少なかったので１つの模擬店に２回シフトに入ってもらわざるを得なかった。このままではかなり忙しくなるので、環対の洗い皿シフトの人数を１人増やして、洗浄は模擬店の人に主にやってもらい、乾燥は１人ないし２人の環対洗い皿スタッフが状況に応じて手伝った。そのため、皿の回転はなんとかうまくいった。しかし、環対スタッフに余裕がなければ苦しいので、洗浄シフトを余裕をもって動かすためにも、洗い皿参加模擬店をある程度の数は獲得することが大切である。

７．将来への展望

今年度は昨年度に比べ規模は小さかったものの、模擬店との関係はほぼ良好で、参加してくれた模擬店は各種説明に耳を傾け、また、広告やアンケートなども快く協力してくれた。その意味では、洗い皿企画の理想に一歩近づけたように思う。やはり、この洗い皿企画は模擬店あっての企画であるので、決して環対が高圧的になることなく、模擬店に協力を求める形でなければならない。たんに洗い皿参加模擬店を増やし、ごみをもっと減量することも大切であるが、それよりもなお、コスト面だけでなく、環境面での広報に努め、企画の趣旨に賛同してくれる模擬店を増やしていくことが大事である。

８．洗い皿模擬店アンケート

文責：福井くにこ

(１)目的

洗い皿企画が参加模擬店の理解を得て、円滑に運営されたかを調査する。また、模擬店側からのこの企画に対する意見を求め、次年度以降の参考資料とする。

(２)実施方法

最終日、最後の皿返却時にアンケート用紙を渡し、その場で記入してもらった。

(３)結果

８模擬店全店より回答を得られた。○内の数字は、複数店が同様の回答をした場合の店の数。

〔1.〕洗い皿を希望した理由　(複数回答可)

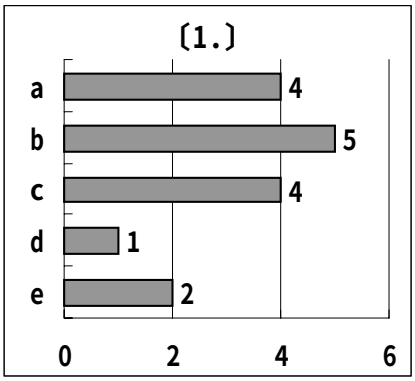
a) ごみを減らせるから　　b) コストが低いから

c) 見栄えが良いから　　d) 来場者受けが良さそうだから

e) その他

・模擬店の抽選に選ばれやすそうだったから

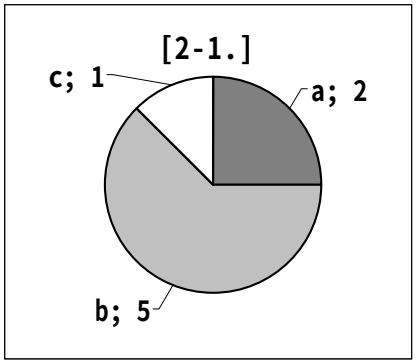
・環境に良いから



〔2.〕募集の仕方について

〔2-1.〕募集の仕組みや流れ

a) 良い　　b) 普通　　c) 悪い



〔2-2.〕2-1 で c と答えた理由、またそれ以外に感じたこと

・メリット、デメリットをもっと一般に知らせ、
強調しても良かった　(b と答えた模擬店の意見)

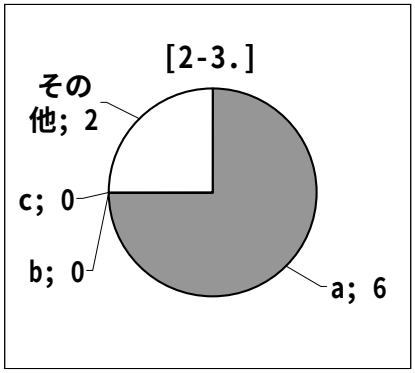
〔2-3.〕企画担当者会議　(以下、企担と略す)　での説明について

a) 分かりやすい　　b) 普通　　c) 分かりにくい

※その他　：　会議に出席していない　②

〔2-4.〕2-3 で c と答えた理由、またそれ以外に感じたこと

※回答なし



〔3.〕洗い皿を使用して感じたメリット、デメリットなど

〔3-1.〕お客さんの反応について

・きちんと返却してくれた　②

・b 地区だったので、おまつり広場で食べたい客を逃すことがあった

・少し面倒臭そう

〔3-2.〕皿の管理・洗浄・運搬について

・良いシステムだと思う　③

・30 枚は少ない

・気づいたら未使用皿がなくなり焦ることが多々あり、取り替える間

販売できず困った
・管理は大変だが環境に良いので良い

〔3-3.〕洗浄シフトについて
・良いと思う　②
・人はもっと少なくて良い
・ラストはきつい。どうやってシフトを決めているのか
・時間が長い
〔4.〕その他の御意見、アドバイスなど
・洗浄費を考えると本当に安く済んだのかとても疑問だ
・何個売れたのか確認できて良かった
・数を正確に数えて欲しい

(４)考察
前年は保証金返還時に持ってきてもらう方法で回収率が低かったことを踏まえ、今年はアンケート方法を変えた。その結果、全模 aa 擬店からアンケートを回収できて良かった。しかし[2-3.]でみるように、企担に参加した責任者が皿を返しに来るとは限らない。最終日の朝にでも、最後は責任者が返しに来てくれるように、一言声を掛けた方が良いだろう。

〔1.〕で参加模擬店の半数が a を選択しており、比較的に環境意識の高い模擬店が集まったと言えるのではないか。e の「抽選に選ばれやすそう」というのは店側の勘違いであろう。〔2.〕より、参加模擬店募集システムは、模擬店側から見れば概ね順調に機能していたと言える。しかし、企担での説明が好評だったにも関わらず、[3-2.]では、一日当たり 30 枚未満しか使用しなかった模擬店が「30 枚は少ない」と書いており、洗い皿のシステムについて十分に理解してもらえなかったようだ。一日に使用できる枚数が 30 枚だけだと思ったのだろうか。上記〔1.〕の勘違いや、〔4.〕でコスト面について疑問が出ていることも考えると、さらに分かりやすい説明が必要である。[2-2.]の意見を尊重した丁寧な説明と、もっと多くの模擬店に参加してもらえるようなアピールの両立を目指したい。事前説明では洗い皿使用コストは、使い捨ての皿に比べて「高いものではない」という表現をとっていたが、このアンケート〔1.〕の「コストが低いから」という表現は断定的で配慮が足りなかったと思う。

[3-1.]は、お客さんの環境意識に期待する、としか言いようがない。店内のみの使用や使い捨て皿の併用があったのはそのためか。[3-3.]の洗浄シフトについては、忙しい時間帯が予測しにくいので、模擬店間の作業量の不公平は仕方のない面もある。二回以上シフトに入るときは同じ時間帯にならないようにする、四日目は閉店時間の遅い a 地区の店をラストに持ってくる、といった配慮を続けていくしかないだろう。

〔4.〕でも指摘されるように、今年は皿・箸の数え間違いで模擬店に迷惑をかけた。詳細は前述の通りだが、これは来年度以降気をつけなければならない点だ。洗い皿は、正確さを要求される企画だということを肝に銘じておく必要があるだろう。

G. 生ごみ堆肥化

生ごみ堆肥化担当：柳泉亮太

１．目的

この生ごみ堆肥化は、毎年、NF の模擬店から排出される大量の生ごみを少しでも再利用できるように、１９９６年度から始められたものである。

本来は土に還る生ごみを焼却処分すると、非循環の問題があるだけでなく、生ごみの水分によって焼却炉の温度が下がることで、ダイオキシンなどの有害物質が発生するという問題も起こりうる。また、「食べ物を粗末にしない」という観点から考えても、単純に廃棄するのでなく、最大限に利用することが大切なのではないであろうか。そのために、この企画では NF で出た全ての生ごみを堆肥化することを今年も目指した。

しかし、せっかく生ごみを堆肥にしても使われなければ意味がない。そこで、今年は京都大学有機農

業研究会(以下、有機農研と略)に完成した全ての堆肥を畑で使ってもらうことになっている。

２．実施内容

(１)活動の大まかな流れ

①米ぬか集め・・・１０月の初め頃から、堆肥化に用いる米ぬかを複数の米屋から、リヤカーを用いて、数回に分けて集めた。

②有機農研との打ち合わせ(６月頃から)・・・毎年、生ごみの堆肥化作業に協力してもらっている有機農研の人達に、堆肥化の知識を教えてもらったり、NF 当日の作業の協力をお願いしたりした。

③堆肥の引き取り先探し・・・毎年、生ごみ堆肥化における課題の一つである。今年度の堆肥は、全て有機農研に引き取ってもらうことになった。また、堆肥化のスペースは京都大学大学院農学研究科植物栄養学研究室の間藤徹先生の農場を貸していただくことになった。

④生ごみ堆肥化参加模擬店の募集・・・NF 中、堆肥化の作業に協力してくれる「生ごみ堆肥化参加模擬店」を昨年度と同様に模擬店企画担当者会議で募集した。計１４模擬店が参加してくれた。

⑤必要物品の準備・・・米ぬかを始め、生ごみ堆肥化参加模擬店に配るＰＯＰ(堆肥化に協力していることを示す表示)や米ぬかすくい用のカップなど、堆肥化に用いる物品を NF 当日までに用意した。

⑥NF 期間中の作業(集積場での堆肥化作業は B の２)に詳細を記載)

１）NF 初日の朝１０時頃から堆肥化参加模擬店に米ぬか、ＰＯＰなどの必要物品を配り、簡単な説明を行った。

２）NF 中は集積場で有機農研の人と共に会場から出た生ごみ回収＆分別チェックし、米ぬかを混ぜ、EM をかけた。

３）NF４日目に生ごみ堆肥化参加模擬店に対して、生ごみ堆肥化に関するアンケート調査を行った。

(２)活動内容の詳細

①の「米ぬか集め」とは？

生ごみは水分含有率が高く(８０％以上)、堆肥にするには扱いにくいので、水分含有率の低い米ぬか(１０％程度)を混ぜることで、水分をうまく調節している。また、生ごみ：米ぬか＝１：１の割合で混ぜるとよいとされているが、水分が多そうなものには多めに加えるようにする。

今年度の米ぬかの集め方

・米ぬかは、昨年度と同様に、近衛通りを東に行った付近にある米屋を中心に行った(詳しくは、生ごみファイルを参照)。この付近の３軒と中谷酒店は全て無料でくれた。ただし、１回につきもらえる量が不定なのと集める量がとても多いので、１０月の第２週目から集め始めた。この４店から１週間に１回米ぬかをもらう作業を５週間続けた結果、計４４袋の米ぬかを集めることができた。

・回収の事前に、それぞれのお米屋さんに堆肥化のために米ぬかが必要であることを伝え、無料で米ぬかを譲ってもらえるように頼んだところ、昨年度からの流れで話はスムーズに進み、今年も分けてもらえることになった。ただ、店によっては、あげるのは構わないが、集めに来る日は事前に連絡して欲しいという店もあった。

・米ぬかは学生部厚生課から借りたリヤカーで集めた。この際、大き目のリヤカーを借りると操作が大変なので、軽量型のリヤカーを借りたほうがよい。

※集めた米ぬかの分量について

昨年度は NF 前までに米ぬかを計３１袋集めたが、生ごみ堆肥化参加模擬店が２１店舗あったためと比較的、水分の多い生ごみが出たために(有機農研談)、米ぬかが足りなくなってしまい、本祭中、臨時に米ぬか集めをすることになってしまった。結局、もう８袋集めることができたが、今年度は昨年度の反省を踏まえ、NF 前までに４０袋以上の米ぬかを集めておくことにした。その結果、今年は米ぬかが不足するような事態は避けられた。米ぬかは多いぐらいがちょうどよいと

のことなので、次年度も生ごみを全量堆肥化するなら、４０袋くらいは集める必要があると思う。

②の「京都大学有機農業研究会との打ち合わせ」とは？
今年度は有機農研とより連携して活動できるように、６月ぐらいから NF での堆肥化作業の協力と堆肥の引き取りをお願いした。NF 前には、有機農研主催で堆肥についての勉強会を開いてもらった。また NF 直前には、有機農研に本祭中の堆肥化作業のシフトを組んでもらい当日の手伝いをお願いした。

③の「堆肥の引き取り先探し」とは？
B の②に書いたように有機農研から、今年は現在、堆肥の在庫がないため去年と違って、完成した堆肥の全量を引き取ることができると言われた。ただし、有機農研には堆肥化を行うスペースがないのでその場所を確保して欲しいとも言われた。そこで、京大北部キャンパスにある農場の一部を貸してもらえないかと考え、交渉してみたところ、農学部の間藤先生が先生の農場の一部を貸してくださることになった。

④の「生ごみ堆肥化参加模擬店の募集」とは？
生ごみ堆肥化のアピールと模擬店にも作業の一部を手伝ってもらうことを目的として、NF 期間中に自店舗から出た生ごみを集積場にもってくる前に、予め米ぬかを混ぜてもらう、生ごみ堆肥化参加模擬店を今年度も募集した。
まず、始めに第２回模擬店企画担当者会議(以下、企担と略)で模擬店担当者たちに、堆肥化参加模擬店の説明をし、次の第３回企担で参加希望調査票を提出してもらうことを伝えた。その結果、A 地区５模擬店、B 地区３模擬店、C 地区６模擬店の計１４模擬店がこの企画に参加してくれることになった。
第４回企担では、生ごみ堆肥化に協力してくれることになった模擬店に対し、堆肥化作業について書いたレジュメを配り、実際に米ぬかを見せながら、当日作業の簡単な説明をした。またこの際、有機農研の人にも来てもらい補足説明などをしてもらった。この日は全部の堆肥化参加模擬店が来てくれたので、１４店舗全てに説明できた。
また、アンケートの結果から生ごみ堆肥化募集があまり知られていないことが判明した。改善策としては企担での募集を呼びかける回数を増やすことなどが考えられるが、参加模擬店があまり多くなりすぎると、NF 中に模擬店に渡す米ぬかが増え、そのため米ぬかを多めに集めても昨年度のように集積場で米ぬかが足りなくなるといったことが、起こる可能性がある。その点からも堆肥化参加模擬店自体は、１５から２０店舗ぐらいが適当なのではないだろうか。

堆肥化参加模擬店に配るもの(NF 初日の１０時頃から配布)
・米ぬか　１袋
・米ぬかすくい用のカップ　１つ(牛乳パックの底で製作)
・生ごみ堆肥化のＰＯＰ　１つ

⑤の「必要物品の準備」とは？
ＮＦ中に生ごみ堆肥化参加模擬店に取り付けてもらうＰＯＰや生ごみ堆肥化立て看板の作製は、物品製作時に行った。また、堆肥化参加模擬店に配る米ぬかすくい用のカップは、環境対策委員会のメンバーが持ってきた牛乳パックで、参加模擬店数分＋２個作った。堆肥化参加模擬店へのアンケートは原案に例会時、チェックを入れてもらった。

ＥＭについて
今年は有機農研に準備してもらうことになったのだが、堆肥化に関する知識として参考のために載せておく。
・ＥＭ＝Effective　Micro-organisms の略で、生ごみの発酵を助けてくれる菌である。
・ＥＭは、ＮＦが開催される２～３週間くらい前から培養し始めるとよい。必要物はＥＭの素(昨年度は、有機農研から分けてもらった)、ＰＥＴボトル(１．５Ｌか２Ｌ)、砂糖、汲み置きしておいた水である。培養法はまず１．５ＬのＰＥＴボトルに２０分の１程度のＥＭの素を入れ、汲み置きしておいた水(EM は生物なので、水道水を直接、使わない方がよい)で希釈し、そこに砂糖を大量に入れる。その後、暖かいところに置いておき培養した(最高４０℃ぐらいまで。

あまり、温度が高すぎるとＥＭが死んでしまうので注意する)。
・正常に培養が出来ていればＥＭが呼吸して二酸化炭素を発生するので、ふたを開けたときに炭酸飲料のように「プシュー」という音がする。また、においの方も、少し柑橘系のにおいになるそうだが素人にはわかりにくいそうだ。

⑥の「ＮＦ期間中の作業」とは？
１)ＮＦ初日は、朝の１０時頃から(本来の予定は９時だがリヤカー等の都合により変更)リヤカーを使って、各堆肥化参加模擬店に米ぬかなどの必要物品(Ｂの④参照)を、予め作っておいた参加模擬店の所在地を示した会場地図を見ながら配り歩き、同時に簡単な説明も行った。全ての模擬店がすでに来ていたために、予定時間内に全１４模擬店に配ることが出来た。また、非木材紙皿を使用する模擬店への POP も同時に配った。
２)ＮＦ期間中は毎日、有機農研の人と共に集積場で生ごみの回収と分別を行った。割り箸などの異物や水分や塩分の含有率が高いものなど、堆肥化に不適当な物を取り除いた後、米ぬかを混ぜ、均一にかかるようにスプレーを用いてＥＭをかけた。特に、堆肥化を成功させるには水分調節が非常に重要なので、水気の多いものは無理して堆肥化にまわさないほうがよい。今年から、前夜祭で出る生ごみも堆肥化することにしたが、前夜祭では思ったほど生ごみはでなかった(米ぬかを１袋使用したのみ)。前夜祭の生ごみが運ばれてくる時間帯は２０：００～２１：３０くらいだった。一方、本祭中の１～３日目は１７時～１８時くらいがピークで１９時に会場の生ごみバケツが運ばれてくるのを最後にほぼ終わりになった。４日目は A 地区が２０時まで営業されるが、２０時以降の生ごみはそんなに多くはなかった(やはり、１７時～１８時くらいがピーク)。生ごみの量は平日と休日で倍近くの差が出た。また、片付け日にも９０L ごみ袋で２０袋くらいの生ごみが持ってこられたのは予想外だったがこの２０袋は堆肥化することができた。

注）集積場での生ごみ堆肥化エリアのシフトについて
生ごみが集積場に持ち込まれる時間帯はほぼ限定していたので、堆肥化エリアに専任のシフトが必要だったその時間帯を以下に示す(他の時間帯は専任の人がいなくても対応できた)。

前夜祭
２０：００～２１：３０・・・２～３人ほど(前夜祭では本祭中ほどは出なかった)
本祭中(１～３日目)
１７：００～１８：００・・・３人
１９：００頃(会場の生ごみバケツが運ばれてくる時間)・・・３人
本祭４日目
１７：００～１８：００・・・３人
２０：００(A 地区の営業が終了する時間)以降・・・１人
片付け日
午後(片付け日の午前中に生ごみを持ってくる模擬店があった)・・・１～２人

３)NF４日目の午前中に、生ごみ堆肥化参加模擬店１４店舗を一つずつまわって、この企画に対する感想や意見などを聞くためのアンケート調査を行った。大体の模擬店ではすぐに書いてくれたが、２模擬店ほど責任者がいなかったためにその模擬店は時間をずらして訪れた。

３．反省点＆次年度への展望

①の「米ぬか集め」について
・B の①で書いたように昨年度の反省から、今年度は、米ぬか４０袋以上を集めるのを目標にして活動し始めた。第１回目の回収で一気に１０袋も集まった。昨年度も始めのうちはたくさん集まっていたが、回数をへるごとに集まる個数が減っていって、計３１袋だったので今年もそれを心配していたのだが、今年は集まりがよかったために結局、昨年度と同じ５週間で４４袋も集めることができた。ただ、来年度以降も今年のようにいくとは限らないので、やはり早めの回収を心がけるべきだろう。
・今年は B の①に書いてあるように、４４袋集めることができたために本祭中に不足するという事

態はなかったが、米ぬかは堆肥化にとって不可欠な物品であるために、来年度以降も多めに集めていく必要がある。

②の「京都大学有機農業研究会との打ち合わせ」について

・今年度も有機農研には知識面や技術面でとてもお世話になった。昨年度は１０月になって初めて打ち合わせをしたので、あまり双方が話すことができないまま NF を迎えることになってしまったが、、今年は前期からコンタクトを取り始めたので、去年のように直前期になって話が変わるというようなことは特にはなかった。有機農研との協力関係は生ごみ堆肥化を行う上で非常に重要なので、来年度以降もより良い関係を築いていくべきである。

③の「堆肥の引き取り先探し」について

・昨年度は有機農研だけでなく、学外にも堆肥を引き取ってもらったが、堆肥の扱いはとても難しいため、できる限り、堆肥化の知識を持っているところに任せたほうが良いと思う。また、有機農研の方でも今年は堆肥を全て引き取ることができるといってきたために今回の堆肥は全て有機農研に引き取ってもらうことになった。

・京大農場の借用については、当初は農学部の矢澤先生の所にお願いに行ったのだが、堆肥化の話をすると「土壌などの研究もしている間藤先生の方がふさわしいだろう。」と言われ、間藤先生を紹介してもらった。その後、間藤先生と連絡をとり、農場の使用をお願いすると、完成した堆肥はこちら側できちんと処理するという条件で間藤先生は快く承諾してくださった。

④の「生ごみ堆肥化参加模擬店」について

・去年と同じように、堆肥化参加模擬店を模擬店企画担当者会議で募集したが、A,B,C 地区それぞれから模擬店が参加してくれた。今年度は第４回企担に全参加模擬店が来て説明済みだったために、NF 初日はスムーズに参加模擬店に必要物品を配布できた。

・各参加模擬店にはそれぞれ米ぬかを１袋ずつ渡し、余った場合はＮＦの最終日に集積場に返してもらうことにしていたが、実際使い切れずに米ぬかが余った模擬店も多かったので、来年度以降は、予めどれくらい生ごみが出そうか尋ねておいて、それに応じた量の米ぬかを配るようにしたほうがいいかもしれない。

・今年は生ごみ堆肥化参加模擬店に対してアンケートを行うことができた。これは数年前からの課題だったために実施できてよかった(アンケートの内容及び結果は別項目にあり)。ただ、アンケート調査に行った際に、責任者(もしくは生ごみ堆肥化に参加していることについて知っている人)がいない模擬店もあり、なかなかアンケートを実施することができなかったところもあったので、アンケート方法はもう少し変えたほうがいいのかもしれない。また、参加模擬店からもっと参加模擬店のアピールをしてほしいという要望があった。今年度の方法は参加模擬店につるす POP と立て看(こちらは広報担当を参照)によるものであったが、来年度以降は立て看の位置をもっと工夫したり、別の宣伝方法を試したほうがいいのかもしれない。

⑤の「必要物品の準備」について

・今年の生ごみ堆肥化参加模擬店の POP は従来のものから新デザインへと変更された。
新しい POP の作製というのも、以前からの課題であったので実行できてよかった。

⑥の「ＮＦ期間中の仕事」について

・模擬店企画担当者会議の際に、初日の午前中に必要物品を配り始めることを伝えておいたために、米ぬかなどの必要物品を配りに行っても、誰もいなかったり参加しているのを知らない人しかいなかったという事態は避けることが出来た。今年は１４店舗だったので、リヤカーに１４店全部必要物品を乗せて A,B,C 地区をいっきにまわったので、予定時間よりも早く終わることができた。

・生ごみの分別(特にピーク時)は環対や有機農研だけではとても手におえないので、他のところと同じく模擬店側に分別してもらう必要がある。ただ、生ごみの場合、火ばさみではとりにくい場合がかなりあるので、模擬店のためにゴム手袋などを用意する必要があるかもしれない。

４．生ごみ堆肥化アンケート

文責：河村 有介

《目的》

生ごみ堆肥化企画の当事者たる、参加模擬店の感想・意見を聞くことにより、以て次年度以降のこの企画の円滑な実施に資すること。

《実施日時・場所》

ＮＦ本祭最終日（11 月 24 日）の朝 10 時に、担当者が生ごみ堆肥化参加模擬店 14 店舗を回り、アンケートへの協力をお願いした。その日の正午に再度模擬店を回り、アンケートを回収した。回収率は 100%である。

《集計結果》

今回のアンケートでの質問内容及び集計結果は以下の通りである。

１）【参加理由】なぜ、この企画に参加しようと思ったのですか？（１件のみ複数回答）

① ごみ減量のため　② 面白そうだから　③ なんとなく　④ その他

①	②	③	④
5	4	1	5

「その他」の回答

・チームワークを高めるため　・生ごみが異臭を放つのを防ぐため

・金をかけずに環境に役立つから　・環対・有機農研に知り合いがいるから。

・洗い皿にも参加しており、環境対策路線で行こうと思ったから。

２）【環境虎の巻・企画担当者会議における説明】

環境虎の巻及び企画担当者会議における、この企画の説明はいかがでしたか？

① 分かりやすかった　② 分かりにくかった　③ どちらでもない　④ その他

①	②	③	④	無回答
11	0	1	1	1

３）【米ぬかを混ぜる作業】生ごみに米ぬかを混ぜる過程について、どのようにお考えですか？

① 面倒だった　② それほどではなかった

①	②
2	12

４）【メンバーの協力度】この企画への参加に対する、他のメンバーの態度はいかがでしたか？

① とても協力的であった　② 概ね協力的であった

③ あまり協力的でない　④ 全く協力的でない

①	②	③	④
6	6	1	1

５）【参加の意思】来年度もこの企画に参加したいと思いますか？

① 思う　② 思わない　③どちらでもよい

①	②	③
8	0	6

5-1)【「思う」の理由】「思う」と答えた方にお尋ねします。なぜ、そのように思うのですか？ご自由にお書きください。

・楽しいし、盛り上がるから　・環境にやさしいから

・特に面倒でないから／単純作業だから

5-2)【「思わない」の理由】「思わない」と答えた方にお尋ねします。なぜ、そのように思うのですか？ご自由にお書きください。

０件

６）【自由回答】その他、この企画についてのご意見がございましたら、お書きください。（２件）

・もっとアピールしてほしい。　・他にも米ぬかを集める場所を作ってほしい。

《考察》

「参加理由」について

・参加理由として「お金をかけずに環境に役立つ」という意見があった。それゆえ、来年度は模擬店にとって経済的にも、作業的にも負担が少ないということをより強調してもよいのではなかろうか。

・「その他」の回答の中に、「生ごみが異臭を放つのを防ぐため」という回答があったが、米ぬかに異臭を防ぐ効果はないので、参加模擬店の方の勘違いであろう。

「環境虎の巻・企画担当者会議における説明」について

・環境虎の巻及び企画担当者会議における担当者による説明において「分かりやすかった」が大半を占め、「分かりにくかった」が０件であったことから、説明の内容等に関しては、来年度もこのような形で実施することが好ましいと考える。

「米ぬかを混ぜる作業」について

・米ぬかを混ぜる作業について、我々の認識としては面倒なものと捉えていたので「面倒だった」が２件だけであったのは意外であった。

「自由回答」について

・参加模擬店の存在をもっとアピールしてほしいとの意見があった。こちらとしても立て看板を利用して、生ごみ堆肥化参加模擬店の場所を示しているのだが、広報の方法が不十分であった、もしくは、その存在を模擬店側が知らなかったと考えられる。広報の方法の改善を検討しても良いのではなかろうか。たとえば、洗い皿企画のように模擬店側にポスターを書いてもらうなど、模擬店関係者が直接関与するほうが、模擬店側に当委員会が広報していることを実感してもらえるのではないか。

・米ぬかの回収場所について、吉田集積場以外にも回収場所を設置してほしいとの要望があった。c 地区（本部構内）から吉田集積場まで余った米ぬかを持ってくるのはかなりの負担であり、留学生センター前などに、もう１箇所回収場所を設置してもよいのではなかろうか。

５．生ごみ堆肥化企画についての所感

文責：阿部 翔太

今年度は有機農業研究会（以下、有機農研）にすべての堆肥を引き取ってもらうことができた。堆肥化のスペースも農場の一画を利用させていただいた。しかし堆肥の引き取り先の確保、及び堆肥化スペースの確保は来年度も問題になると思われる。

私個人は、結局十一月祭が終わると、生ごみはどうなったのかということには気が回らず堆肥化のスペースを見に行くこともしなかった。後片付けが終わるとともに、堆肥化企画の活動が終わってしまったのである。堆肥をどうするかは有機農研の守備範囲なのでこれは仕方のないことかもしれないが、来年度に堆肥化のスペースを探す上で、果たして堆肥化に伴う悪臭がどの程度であるか、などについて知っておくべきであったかもしれない。

それから、今年度は EM の培養を行わず、EM は有機農研がすべて用意した。有機農研との間では、水と砂糖だけで本当に有用な菌が培養されるのか、という疑問も出された。しかし、堆肥化の過程に少しとはいえ関わることで理解できることもあるかと思うので、来年度に生ごみ堆肥化企画で EM の培養が行われることを期待する。

環境虎の巻における生ごみ堆肥化企画の説明を強化することについてはどうだろうか。EM=Effective Micro-organisms がどういうものか、などの説明が十一月祭においてはあまり意味を成さないとしても、より詳しい説明をつけてみたいと思うのは私だけだろうか。

H. スタッフに関わる事項の報告

１．スタッフ募集・シフト管理等に関する報告

文責：松山 直樹

(１)はじめに

11 月祭環境対策委員会の 11 月祭における活動は多岐にわたるため、多くのスタッフを効率的に運用していくことが、スムーズな進行を行なう上で重要である。また、単に人数を確保するという観点以外に、スタッフが 11 月祭環境対策を通して環境問題・ごみ問題を考えるきっかけをもてもらいたいという目的ももつ。したがって、当日スタッフに配慮したスタッフ募集・シフト管理もまた求められる。

今年度は「スタッフ管理」の役職を設け、これらの実施にあたった。昨年度は代表が兼任していたが、今年度はそれを分離し、代表の負担を軽減するとともに新たなる取り組みを実施した。ここでは、それらについて報告する。

(２)概要

スタッフ管理は、11 月祭環境対策委員会の活動に関わるスタッフの確保、当日の運営及びスタッフ活動を通しての啓発活動について提案、実施を行なう。今年度実施したことは次の３つに大別される。

●スタッフ募集
●シフト表の作成
●当日シフト管理

また、今年度は昨年度なかった活動として次のものを実施した。

●６月期におけるスタッフ募集
●責任者シフトの早期決定
●シフト表の充実
●当日シフト管理票の導入

以下これらについて報告する。

(３)スタッフ募集に関する報告

ａ)目的

コアスタッフ、当日スタッフの確保と、スタッフ募集の広報活動を通した 11 月祭環境対策委員会のアピールを行なう。

ｂ)昨年度よりの追加項目

●６月期におけるスタッフ募集

例年１０月期にスタッフ募集を行なっていたが、今年度は６月期にもスタッフ募集を実施した。４，５月期にサークルに入りそびれたもしくは他のサークルも探している新入生を受け入れると同時に、同時期に発足する 11 月祭環境対策委員会のアピールを行なうために実施した。

ｃ)時系列及び内容

9/16	スタッフ募集ビラ、説明用紙担当者決定
9/29	０．５枚看板完成
9/30	スタッフ募集看板（2 枚看）展開
10/1	スタッフ募集ビラ展開
10/4	黒板書き、説明会
10/10	黒板書き、説明会
10/15	スタッフ募集ビラ貼りなおし
10/18	黒板書き、説明会、生協学生員会指導部会へスタッフ募集依頼文書を提出
10/21～24	生協学生委員会各サークルへスタッフ募集のお願い
10/24	黒板書き、説明会

●広報による募集

６月期に貼りビラを展開し、スタッフ募集を行った。

１０月期に、貼りビラ、立看板を展開し、黒板書き、説明会を実施した。説明会は上記日程で 16:30〜17:00 に A141 を利用して実施した。

なお、１０月では既にサークルに入っている人が多く、新たに別のサークルに関わることに負担を感じないよう、当日のみの参加でよいことを強調した広報を行なった。

●生協学生委員会からの協力

以前、生協環境対策委員会が存在していた頃よりのつながりで、また 11 月祭に協力する京大生協との関係から、例年学生委員会にスタッフの協力をお願いしている。ただし、協力はあくまで各個人の自由意志であり、団体による協力ではない。

関係書類を予め提出し、担当者が各サークルのミーティングで時間を頂きスタッフ募集の説明を行った。

●知人からの協力

スタッフの知人や以前協力してくれた人に声をかけ、スタッフを募集した。

以上のスタッフ募集を実施した結果

スタッフの知人及び説明会参加者	9 名
生協学生委員会	19 名
安全センター関係者	６名
コアスタッフ経験者	６名
コアスタッフ	17 名

の合計５７名のスタッフが集まった。

d)反省及び次年度への展望

●広報による募集

６月期貼りビラのみの広報であるため、新規メンバーが来てくれるかどうか不安であったが、この期間に３人のメンバーが加わった。今年度が幸運であっただけかもしれないが、６月期におけるこのような広報を次年度以降も続けていくことはスタッフ確保の点で重要であると考える

１０月期には、４回実施した説明会に３人の人が来てくれた。この数は少ないように感じるかもしれないが、11 月祭環境対策委員会の活動を知ってもらうためにも、この時期の広報を怠ってはならないと考える。

また、別項の「スタッフアンケート」よりスタッフ募集の広報はやや目立たない、という意見が幾つか見られた。

更に 11 月祭環境対策委員会のスタッフの募集及びそれを通した活動のアピールを行なうためには、ホームページや時期、教室を絞った撒きビラといった手段が考えられる。

●生協学生委員会

今年度も多くの学生委員の方の協力をいただくことが出来た。しかし、このように協力していただけることを当然と思わず、参加してくれる方が何らかのものを得ることが出来るか、また動機付けすることができるか、などを配慮したスタッフ募集が必要であると考える。

●知人からの協力

スタッフの知人や昨年度参加してもらった人に協力を要請した。実際、このスタッフ活動を通して 11 月祭環境対策委員会に加わった人もいることから、知人等に積極的に声をかけていきたい。また、スタッフの中に知人がいることで、当日スタッフ自身もスムーズに作業を行なえたり、意見を言えたりすると考える。

今年度は例年に比べ、１回生スタッフの知人の参加が少なかった。一度参加してもらえれば、次年度以降も参加してもらえる可能性もあり、また先に述べた様にスタッフ活動を通して得るものがあることから、次年度はより積極的に知人の協力をお願いして欲しい。

(４)シフト表作成に関する報告

ａ)目的

当日の活動を円滑に行なうために、スタッフの質・量及び負担等のバランスを考慮し、シフト表を作成する。

ｂ)昨年度よりの追加項目

●責任者シフトの早期決定

昨年度はコアスタッフのシフト記入票は、ほぼ各人の都合で提出してもらったが、事前の調整がなかったため「責任者が特定の人に偏る」「人が欲しい時間帯に人がいない」「１回生が責任者となって自覚と責任をもてる場面が乏しい」等の問題があった。

そこで、今年度は事前にトップダウン式に全コアスタッフを責任者及び責任者級として配置することを実施した。これにより、責任者が偏ることを是正し、早い段階からコアスタッフが責任者としての自覚をもつことを目指した。責任者配置は個人により差異があるが、6 日間（前夜祭、本祭、後片付け日）を通して、責任者となったシフト時間は 10～25 時間程度であった。

これをスムーズに実施するため、「コアスタッフ絶対不可日時調査票」を用いて、責任者として入ることが出来ない時間帯（自宅生の場合やサークルの都合等）を把握し、代表、シフト管理、各担当の「三者会談」を実施し、シフト人員の把握に努めると同時に責任者配置を検討した。

●シフト表の充実

昨年度のシフト表は、縦にスタッフ名、横に時間帯をとり、シフト名を枠内に記入されたものであった。これは、同一時間帯に誰が活動しているかを見るのには役に立つが「特定の活動場所（集積場等）に出入りするスタッフの把握」や「個人ごとのシフトの把握」には若干手間が掛かった。そこで、今年度より「シフト全般（昨年度のシフト表)」「個人別シフト」「仕事別シフト」の三部のシフト表を作成し、シフト把握の効率化を図った。

ｃ)時系列及び内容

10/14	コアスタッフ絶対不可日時調査票配布、シフト記入票配布
10/24,25	三者会談
10/28	コアスタッフ責任者配置決定、コアスタッフシフト記入票配布
10/31	シフト記入票提出〆切、各担当必要人員提出〆切
11/4	シフト表第一版完成、調整
11/11	シフト表第二版完成、最終確認
11/15,18	シフト表完成、個人別/仕事別シフト表配布
10/21	コアスタッフ、絶対不可日時調査票回収

●シフト記入票の配布

シフト表作成のため、スタッフにシフト記入票を配布し、シフトに入ることのできる時間帯を調査した。例年人不足となる、前夜祭、後片付け日、17 時以降に特に入ってほしい旨を明記した。なお、コアスタッフは、責任者決定の後に配布したため日程が若干ずれている。

●シフト表の作成

シフト表の完成が遅れる、最後まで人が足りないという昨年度の反省から、今年度は早目（11/4）にシフト表を完成させ、１週間を調整期間として設けた。

ｄ)反省及び次年度への展望

●責任者シフトの早期決定

目指した通り、責任者の偏りを是正することが出来た。同時に、１回生においても責任者として振舞うことが求められたため、各人が自覚をもって当日に臨むことができたと考える。

また、絶対不可日時提出票の提出は 11 月祭の一ヶ月前と予定が決まらない時期であり、上手く機能するか懸念があった。しかし、予定はいつか決まるものであり、どの予定を優先するか、優先順位の問題に過ぎないことから、年に一度の 11 月祭においては、11 月祭環境対策委員会を

優先してもらいたいと考え実施した。

●シフト表の充実
　これは、事務レベルの改善で本質的ではないが、個人別シフトの導入により各個人のシフト把握を容易にし、仕事別シフトは各担当が人員の割り振りを考える際に役に立ったと考える。
　ただし、「シフト全般」「仕事別シフト」「個人別シフト」は連動したシフテムで作成しなかったため、各シフト表の間で齟齬（そご）が生じているところがあった。注意したい。

●シフト表の作成
　今年度は比較的早い時期（11/15）には、ほぼシフト表を完成させることが出来た。しかし、スタッフアンケートの結果から分かるとおり、より早い段階での配布が望まれている。今年度は確定するまで配布はしなかったが、ある程度決まったらその段階で配布し、後に確定版を出すことも考えられる。しかし、混乱することを考えれば、やはり確定の時期を早めるしかない。そのためには、シフト人員の把握とスタッフの十分な確保が必要となると考える。

(５)当日シフト管理に関する報告

ａ)目的
当日のシフト運用をスムーズに行なうこと。

ｂ)昨年度よりの追加項目
●当日シフト管理票の導入
　各シフト後の反省・意見等は翌日及び次年度以降の参考となるため非常に重要である。昨年度までは、シフト後の代表への報告及び各日の反省会で確認していた。しかし、代表が全てのシフトの報告、反省を確認することの煩雑さ（代表自身が確認することは必要だが、それを記録・整理することは煩雑であると考える)、反省会までに幾つか忘れてしまうこと等の問題があった。
　そこで、各シフト終了後に責任者に「所要時間」「反省・報告」を記入してもらう「当日シフト管理票」を作成、導入した。これにより、予定シフトと実際のギャップの確認や整理された反省報告書として活用することを目指した。

ｃ)内容
●事前のシフト人員の確認
●シフト中の随時の確認
●シフト後の意見の回収

ｄ)反省及び次年度への展望
●当日シフト管理票の導入
　一回一回の手間は昨年度までとあまり変わらない。１日が終了した際の反省会で、今日起こったことを把握するのに役に立った。別項の「スタッフアンケート」が当日スタッフの視点ならば、この当日シフト管理票はコアスタッフの視点による反省といえる。
　しかし、この当日シフト管理票に書かれた内容だけが反省・報告として残るのは、報告漏れのことを考えると危険である。よって、当日シフト管理票を記入する際は代表やシフト管理が幾つか質問をしながら、漏れがないか確認し、その場で内容を確認し不足している点がないか確認することが必要であると考える。
　また、単なる運用上の問題であるが、夜遅くや忙しく、記入に手が回らない状態の人もいるため、そういった状況を把握し、後に話を聞いたり書いたりするなどして意見の回収に努めることが必要である。
　他は特に問題なくすすんだ。

(６)総括
　今年度は多くのスタッフが参加してくれ、また今年度実施した「責任者配置の早期決定」「シフト表の拡充」「当日シフト管理票の導入」も成果を挙げることができ、シフト表の作成、当日シフト管理という点ではスムーズにいったと考える。

シフト表の作成に際しては、幾つか専門的な注意事項があるため、次年度の担当者はあらかじめ昨年度担当者から確認することが必要であると考える。
昨年度は、代表がほぼ今年度のスタッフ担当と同じ役割を行なったため、やや煩雑となり、11 月祭直前期はシフトに手が回らないことがあった。しかし、今年度は専任のスタッフを設けたため、代表、シフト管理共に各々の割り当てに集中することが出来、更に新しい取り組みができたと考える。また、昨年度の代表がシフト管理を行なったため、本部が質的・量的に充実したものとなり、今年度の体制は様々な対応に有効だったと考える。
最後に、スタッフ活動を通して、スタッフ自身が環境問題等を考えるきっかけを与えることもまた 11 月祭環境対策委員会の目的であると述べた。そのための努力を怠ってはならない。別項「スタッフアンケート」において、「意義・目的をもっと説明して欲しい」「なぜ～するのか」といった意見が散見された。ともすれば、当日スタッフは言われたことを実行するだけである。勿論そういった活動の中で得るものもあるが、コアスタッフが少しでも説明を加えれば親切であるし、効果もあると考える。具体的には、当日マニュアルの更なる拡充、シフト前に十分な意義・目的の説明、本部（スタッフ休憩所）に 11 月祭環境対策委員会の活動やその他の資料を配置する等の試みが考えられる。

２．スタッフアンケート集計結果報告

文責：松山 直樹

(１)目的
11 月祭環境対策委員会の当日の活動に参加してもらったスタッフの意見を回収し、次年度以降の参考とすること

(２)内容
当日スタッフの最後のシフト終了後にスタッフアンケート用紙を渡し、その場で回答してもらった。なお、今年度はコアスタッフについては、11 月祭終了後の例会や報告書等の作成段階でも確認できること、今年度より導入した「当日シフト管理票（別項参照）」より本アンケートは実施しなかった。

(３)回収枚数
２７枚（全当日スタッフ：４０名）

(４)反省等
今年度作成した「個人別シフト票」により、各人の最終シフト時間が把握しやすくなり、アンケートの配布がスムーズとなった。しかし、後片付け日が最終シフトだった一部の人やシフト管理が失念していた人からはアンケートをとることができなかった。次年度は十分注意したい。。

(５)次年度への展望
目的にも記したとおり、反省点は活用されなければ意味がない。既に報告書の各項目には、これらの反省を踏まえて報告がなされていると思うが、次年度 11 月祭前においても確認したい。特にスタッフアンケートの内容は当日の運営・作業に関するものが多いため、マニュアルを作成する直前等に、「当日シフト管理票」と共に確認するとよいと考える。

(６)アンケート結果
スタッフアンケートの結果を載せる。回答内容は記載されたとおりに転載したため、言い回し・表現等が必ずしも適当でないかもしれないが、ご了承いただきたい。

▼今回入りましたシフトを、下記の群（群は省略）の中から選んで記入し、そのシフト作業の感想・意見・改善を望む点等をご記入ください。また、コアスタッフより適切な説明・指示等があったかもお書きください。

【洗い皿】
・３人（場合によっては２人）でちょうど。４人は多い。
・すごく楽で、もうちょっと仕事があってもよかったかな、と思いました。
・ひまひまでした。あと寒かったです。午前中は２人で十分かな、と思いました。

・コアスタッフからの指示が常にあったため、仕事内容の細かい段取りがわからなくても動くことができてよかった。
・医短一回ノリよすぎた
・音楽をかけたのは英断デス。
・楽だけどきんちょうする。
・去年やったので分かりやすかったです。応対マニュアルがあるとうれしいです。(ex.皿がなくなったときetc)
・今年の洗い皿模擬店数が減ったのは、洗い皿というしくみについて理解し、そのコンセプトに納得したという模擬店だけが申し込んだからかと最初は思った。洗浄に入った模擬店も好意的な気がした。しかしキャンセルがあったのであれ？と思った。やはり説明・連絡がもう少し足りなかったのでは？
・細かい所ではいくつか不具合があったような気もしますが、大筋ではきちんと回っていたと思います。ただ、スタッフ相互の連絡が薄いと思いました。
・皿の数が例年より少ないということでしたが、シフトが時間ちょうどに終わり、ちょうどよかったです。
・受付で台帳に書き込むだけだったので非常に楽だった。
・初日の午前だったためひまでした。
・人手があまっていた。３人Best。
・数を台帳に書くだけだったので楽だった。すべての模擬店が皿を返却したあと、何をしたらよいのかよくわからなかった。
・洗い皿を利用している団体に皿を洗うのをすべて任せるのはいいのか気になりました。
・珍しくまったりとしていて良い雰囲気。模擬店の方も協力的で楽でした。後で考えると、洗い皿受付で朝食をとっているのを模擬店の方にみられたのはまずいかったかと・・・。誤解を招きそうな気もします。

【集積場】
・ごみの量にあせった。気をつければ減らせるものもたくさんあるのに、ごみになってしまうんだなぁと思った。
・ごみ袋の間隔が狭い。もう少し幅をとるべき。
・たのしかったです
・コアスタッフの方の説明はわかりやすかったと思います。もっと各模擬店で分別を徹底してほしいと感じました。
・ゴミ分別がこんなにできていないものか、と正直驚きました。ゴミを置き逃げする人がいたので、それを何とか食い止められるといいですよね・・・。６時間しか入れませんでしたが、お疲れ様でした。
・ダンボールや卵パックや牛乳パックは別にすることを途中まで聞かされていなかったので、他のところにまぜてしまったかもしれません。勝手にごみを計測するほうへ持っていってしまう人や、おきざりにしていく人がいて、どう対応してよいか困りました。
・トレー洗浄は単純作業。照明がもっと増えるといいのかも。
・ハサミが少ないので作業に手間どる。
・一見発泡トレーに見える紙製（？）皿、色付発泡トレー、アルミホイル、卵パックなどなどどれに分別すればいいのか分からないものがそこそこあり、初めて再分別担当になった際にかなりとまどったので特に当日スタッフのビギナーには作業前に注意事項として伝えてくれると動き易くなると思います。
・一升びんは分別できないのか！自分もマニュアルをよく読んでいなかったのもあるけれど分別したゴミ（資源）がどう処理されるのかをスタッフや、分別しにきた人に説明した方がよい。
・一番楽な年だった。
・何をすればよいのかはっきりしているのやりやすかったです（注：計量担当）。コアスタッフの方がいろいろ指示してくれてよかったです。
・寒い中での仕事でしたが、やりがいがあると思いました。
・紙ごみに入ったわりばし、ビニール・プラスチック類に入ったトレーなどをわざわざ取り出させるというのは、あまりに厳密すぎて個人的に納得がいかなかった。実際トレーは毎年洗いきれないし、わりばしもリサイクルするのと、焼却するのでは環境負荷のちがいが微妙なのではないか

と思う。「分別する」ことの「啓発効果」を優先しているのかもしれないが、それならもう少し説明がいるし（パンフ、企担以外で）啓発をとおりこして、環対と模擬店との関係が悪化してしまうのではないかと思う。
・集積していた。思っていたより、模擬店の人が協力的だった。
・分別方法さえきちんと把握すれば再分別はできる。
・模擬店さんが年々協力的になっている。

【ごみ箱設置】
・手際よく進んだと思う。特にきになることはなかった。
・分かりやすい指示で問題なかったです。
・模擬店担当らんをかく紙は後にはったほうがいいのか？

【POP 設置】
・ごみ箱管理の告知がうまくいかなかった（テント内ゴミ箱保管のこと）。これも年月を重ねるしか対策がないのか。
・説明等楽しく出来たと思います。
・（本人の意思により匿名）さんが説明を全てしてくれましたので、あまり役には立たず・・・。テントの梁に POP をつるすのは 160㎝ 程度の身長だと少々苦しいので、できたら大柄目の人の方が楽だと思います。準備で忙しいからなのか、模擬店の人があまり協力的でないという印象がありました。

【トレー洗浄】
・イスがあるのは楽でした。油よごれのひどいものは一度ボロ布でふきとるとよいと思います。
・トレーをもっていかれてしまったために結局行なっていません・・・・。

【屋内ごみ箱復旧】
・不法投棄め！！
・分別の方法を理解していない団体が多いのではないでしょうか。コアスタッフの方の説明はわかりやすかった。

【鉄製ごみ箱復旧】
・なかなか大変でした
・不法投棄がやっかいでした。

【バケツ回収】
・グラウンドのバケツはなぜか全て空でした。わりとバケツ内の生ごみは少なかった（土曜）

【レスト設置】
・予想以上に時間がかかった。当日変更も数点あったので。

【組成調査】
・もうひとつよくわかりませんでした

【食堂清掃】
・動きやすかった。
・遅れました。ごめんなさい。

▼当日マニュアルについて意見、感想、改善を望む点がありましたらご記入ください
・いえいえ、そんなおこがましいこと言えません。読みこみが足りず反省しております。
・どの作業もはじまる前にコアの人がきちんと説明してくれたのでよかったです。
・当日に変更される箇所は当日スタッフによく知らせる必要あり。
・私のシフトはほとんどマニュアルに説明ガなかったが、シフトとして動く分には特に問題がなかった。

・どこでシフト群が分かれているのか、読んでいてちょっと分かりづらかった。
・見やすくよかったと思います。
・（自分が関する部分に関して）どんな感じのことをするのかはおおよそ分かったが、具体性に欠けるため実際は当日やってみて分かった。
・いまいち分かりにくかったですが、当日の説明で理解できた（注：ごみ箱設置のシフト）
・全般に長いかも。まあ自分と関係ない作業内容が多かっただけですが。
・あれを見れば大体わかると思います。
・やや分かりにくい表現があったと思います。
・シフト表の一覧があるとよかったと思います。いろんなマニュアルが煩雑で、自分に関係するマニュアルがわかりにくかったです。「このシフトはこれ」みたいな手引きほしかったかも。
・自分がどこを読めばよいのか分かりにくかったです。
・しいて言えば、（字がつまっていて少し読みにくかった）
・前夜祭のごみ分別、集積場についての説明がほしい
・なぜ缶とびんを分けるのかの説明

▼当日シフトについて（シフト時間、シフト内容、シフト調査の方法、シフトの連絡等）意見、感想、改善を望む点等ありましたらご記入ください
・しっかりしていると思います。
・自分がもっと沢山はいれたらよかったかなと
・やっぱ30時間はきつかった（実働は20時間ちょいなんだが）。シフト決定の連絡はもう少し早く。
・連絡の受付（本部）は３人くらいいればいいかと思う。（代表、シフト管理の２人では大変そう）
・ちょっと入れすぎた・・・・
・特にありません。スタッフ用のジャンパーがあるのは便利でよいと思いました。遅刻してすいませんでした。
・洗い皿はこの模擬店の数なら２人でもいいと思います。
・シフト調査を１週ほど（できれば）遅くしてくれた方が嬉しかった。NF期は予定がなかなか決まらない人が多いと思われます。
・もう少しシフトが早く分かったらよかったです。シフト表が若干見にくかったので、日にち等をかいていただけるとうれしいかもです
・シフトをもう少し早目に決定して連絡もらえるとありがたかった。
・初対面だと誰が、シフト管理者で誰がそのシフトの責任者なのか、というのが判りにくいので、ネームプレートとか腕章とかで区別を。あと、黄色のスタッフジャンパーと青色のそれとは明確な区別をつけた方が良いと思う。
・頂いたシフト表と実際のシフトが異なっていました。もし人数がぎりぎりの仕事だったら、そのような理由での欠席や遅刻は大変なことになると思います。
・シフト表の見方が最初よく分からなかったで、分かりやすくしてほしいです。
・自分に配られたシフト表の「１」がわかりませんでした。ぬりつぶすなどして別に表現してくれたらよかったかと思います。洗い皿はもうちょっと仕事別でもよいかと。
・シフト内容についてもう少し紹介があってもよいかと。

▼その他11月祭環境対策委員会の活動・意見・改善を望む点等ありましたら、ご記入ください。
・内部のことはよくわからないのですが、事務所（注：事務局のことと思われる）ともっと連係して、環対に協力してくれるみせには何か得する点があったりすると（店の場所とか）もっと参加してくれるかもなーと思った。
・アルミ箔をどこに捨てたらよいか明記しておいた方がいいと思う。
・ともすれば当日スタッフは言われたコトをほいほいとやるだけ、の感あり、わざわざ申し込んでいる人なのだから、目的や意義も少し分かるようにすればうれしさ◎？みたいな。
・もう少し企画に力入れたらどうでしょう。
・ごみの上にも３年（by３回生）。いろんな勉強になる。
・当日スタッフの参加人数をもっと増やせないかな・・・と思ったり。この苦労を知る人を増やしたらもうちょっと全体の意識をましにできるような気がします。どやって当日スタッフを集めているのかは知らないので、勝手な意見ではあります。

・活動内容を詳しく知りたいです。NF 期間外は何してるんですか？もっと宣伝してもよいと思います。
・ごみの分別が一般の人にも浸透するといいんですけどねぇ・・・・。
・いい活動なので参加させてもらって有意義でした。ありがとうございます。おつかれさまです。
・一部しか手伝えなくてごめんなさい。がんばって下さい。
・お疲れ様でした。自分は京大生協学生委員会という言わばよそ者で、あまり積極的に関われませんでしたが、そういうヒトでももっと多くのヒトが関われば作業も楽になると思うのでもっと多くの人が集まるといいですね。
・シフトを一度確認する期間が欲しい。シフト調査→シフト決定、の期間が長いので、シフト調査→確認・微調整→シフト決定にしたらいかがでしょうか。
・当日スタッフ募集のこと、あまり知られていないので、もっと大々的に宣伝してみては・・・・？洗い皿の説明用紙にでも書くといいかもしれませんよ。
・もっと、食器使用団体がふえたらよいと思うので、さらなる宣伝（？）をしてみたらよいと思います。来年もできたら手伝います。
・今年の活動に参加して、少しながら自分の中にも意識の変化があったと思います。ありがとうございます。
・シフト調査の時点ではクラスのほうがどうなるか全くわかっていなかったので、当日ちこくしたりしてご迷惑おかけしました。すみません。
・本当にお疲れ様でした。２回生がいきいきしていたのでうれしくなりました。全体を通して一つ言うなら、「分別する」「リサイクルする」ということが、すべての人に共有された、当然の価値観ではないということ。まだその段階には到達してないということを忘れないでやってもらえたら、と思います。

３．当日スタッフの感想

農学部二回　M.T

私は、主に集積場で再分別のお手伝いをしていたので、その感想をお話します。

月並みですが、最初はやはりゴミの量に驚かされました。文字通り、「あふれかえるゴミの山」。たかが学祭ですらあの量ですから、一般のお祭りでは･･･と考えるとぞっとします。

再分別をする場所では、大量の割り箸の中から数本の竹串を探す人、袋いっぱいの紙ごみの中から発泡トレイを取り出す人･･･様々な人が顔を少ししかめながら、でも、それなりに真剣に作業をしていました。正直言ってキレイな作業ではないし、面倒くさいことこの上ありません。その面倒くささに、未分別のままゴミを置き去りにする「不届き者」もいました。手伝いながら、「そんなに嫌なら、初めから分別すればいいのに。」とも感じましたが、よく考えれば、私だって「まぁ、いいか。」って捨ててしまうことあります。でも、この瞬間のちょっとした怠慢のせいで後々何十倍もの手間がかかるんだなぁ、と身にしみました（ちょっと大げさな言い方ですが･･･）。

私の手伝いがどれだけ役に立ったかはわかりませんが、私はなかなか良い経験をさせてもらったなぁ、と思っています。

農学部二回　R.D

今回初めて当日スタッフをやって、とにかくゴミの量に圧倒されました。すごい量だと聞いてはいたけど、実際見てみると思った以上に多くて、みんな捨てすぎだよと言ってまわりたくなりました。普段自分が出すゴミはたいした量じゃないから、気にせずポイポイ捨ててしまいがちです。でもゴミ大集合を見て、みんなが気にせず捨てた結果がこの量なんだと思い、自分のゴミの出し方を反省しました。いろいろ考えさせられた良い経験でした。

農学部三回　A.N

昨年の NF でも当日スタッフとして参加していたんですが、今年は部活を引退して暇なのを幸い、色々な仕事に参加させてもらいました。確か、POP 設置で某 M 田さんのお供と集積場と洗い皿受付だったような……もう記憶が曖昧です。年寄りなので。発泡トレー洗浄にも携わる予定でしたが、毎度ケルンにトレーを奪い去られ出来ずじまいでした。今年も集積場は戦場で、やりがいがありながらも終わるとやたらに気力・体力が消耗しておりました。模擬店の方に再分別をお願いするとえらくきっちり取り出し

てくれる人もいれば、スタッフが必死に選り分けている横でいつのまにかぬぼーっと立っている人もあり、人は見かけによるようで結構よらないもんだと学びました。個人的には一度洗礼を受けた方がその次には同じ模擬店の仲間に「いいか、こっちは紙ごみ。これはだなあ・・・・」とレクチャーをされている姿がナイスでした。ぜひ来年のスタッフにでも加わっていただきたいものです。あとはペットボトルを鬼のように踏みまくって喜んでいたことぐらいですか、覚えてるのは。打って変わって洗い皿受付では終始まったりと世間話をしながら過ごし、たまに吉田食堂のトイレを利用しようとする人を追い返したり、例の大仏の彼の噂をしたり、役に立ってるのか立ってないのか分からない中でずっと思ってたのですが、もうちょっと環対は世間に活動内容をアピールするべきじゃないかなと。そのためにももっと当日スタッフをあちこちから呼びまくって活動を内側から知ってもらったらすごくいいと思うのですが。それにしても今回はお世話＆勉強になりました。ありがとうございました。

I. その他

１．11 月祭事務局との連携に関する報告

文責：田辺 文子

(１)京都大学 11 月祭全学実行委員会本部事務局とは
　11 月祭の実行委員会であり、当委員会が活動するに当たって最も頻繁に連絡を取る委員会である。「11 月祭事務局は京都大学の学園祭である 11 月祭を成功させるために日夜働いている集団です。」（11 月祭事務局公式 HP より抜粋）
　当委員会の円滑な運営は事務局との円滑な連携無くしてあり得ない。

(２)時系列

5/22	昨年度の会計報告、今年度の担当者一覧を事務局へ提出。
5 月下旬	上記の会計報告について数度話し合いを持つ。
6/3	第１回全学実行委員会　←これは書いていいんでしょうか？
7/8	例会で事務局と環対との顔合わせを行う。
7/22～26	企画申請（※模擬店や屋内企画など、11 月祭で行う各企画の申請）
9/9～13	企画申請
9 月下旬	今年度の環境対策費について話し合いを持つ。
10 月～11 月	企画担当者会議や各担当、各局間で様々な連絡を取り合った。 詳細は各担当の項を参照されたい。
11/20～25	前夜祭、本祭、後片付け日
12/9	事務局との、今年度全体を通しての反省会

(３)事務局との連携について
　事務局との連携に関する反省点等を挙げるが、各担当に個別に関わることについてはそれぞれの項に載せ、ここでは主に全体に関わることについてのみ記載する。なお、事務局内には様々な局があり、話の内容によって対応する局が変わるので、注意が必要である。

◆ 全体を通して
　当然のことながら環対の活動は 11 月祭事務局と密接に関係し、事務局の作業にも影響を与える。よって事務局への確認や要請等は時間的余裕を持って連絡する必要がある。今年度は各種の連絡内容についていつ頃までに出すべきなのかを前もって聞き、それに合わせて文書を提出するように努めた。来年度以降、ある程度は今年度の時期を参考に出来るだろうが、事務局内での作業時期の変更等も考えられるため、前もって確認しておくべきだろう。お互いに無用の反感や誤解等を防ぐためにも事務局との適切な意思疎通が求められる。

◆ 会計について
　対応する局：会計局

当委員会の予算は事務局の予算の一部という形になっている。
当委員会の活動の広がりに伴って必要な経費が増してきたため、今年度は予算増額の要請を行った。今年度は承認されなかったが、次年度以降要請が必要ならば、事前に会計局と要請時期についての確認を行った上で、要請する必要がある。

◆ 企画担当者会議について
対応する局：模擬店企画担当者会議、グラウンド企画担当者会議→おまつり広場局
屋内企画担当者会議→本部局（本部構内)、総合企画局（総合人間学部構内）

事前及び会議当日の事務局との連携については問題なかったが、環対の説明にメリハリがない、長すぎるとの指摘があった。事務局が感じたことはおそらく企画の人たちも感じているであろうし、模擬店にとって重要である項目の説明とそうでない説明に強弱を付ける、一回の会議での説明内容を絞る等の対応が必要だろう。

◆ 物品請求について
対応する局：会計局

今年度は本祭中に必要な物品としてガムテープ、透明梱包用テープ、90L ごみ袋を請求した。ところがごみ袋が 90L ではなく 45L で来てしまった。前夜祭中に気づき、事務局に連絡したが在庫が無いので交換できないとのことであった。幸い昨年度の使い古しがあったため初日のごみ箱設置には足りた。物品を受け取ったときは、すぐに請求した物と合っているか確認が必要である。
また、ごみ袋の仕入れ枚数のミスで一時模擬店に不透明なごみ袋が配布された。これについては事務局本部を訪れて話し合った結果、透明のごみ袋を再度仕入れていただけた。

◆ 自転車整理について
対応する局：総合情宣局（※この局はパンフ局と渉外情宣局からなる当日のみの局）

本祭中、トレー洗浄場や再分別エリアにバイク等が停められていることがあったため、事前に環対の使用するスペースを事務局に知らせておくべきである。ただ、特に最終日のフィナーレ中は人手不足で事務局の方から人を出せないようなので、そういった場合はこちらで対応する方が良いかもしれない。

◆ 企画終了後のごみ集め（通称：ごみ集）について
対応する局：本部局（本部構内)、総合企画局（総合人間学部校舎内)、総合情宣局（総合人間学部構内（校舎内を除く))

今年度、本部構内と総合人間学部構内（屋内）のごみ集が行われなかったが（本部構内についてはこちらから連絡を取り、本祭３，４日目については行っていただいた。)、NF 後の対事務局反省会においてごみ集は昔からの事務局の作業であること、来年度もやっていただくことを確認した。
しかし、来年度以降も引き続きこちらからの確認文書を提出する必要はある（今年度も提出したのだが、紛失したらしい)。その際にはあくまで“確認”という形にし、こちらからの“要請”と受け取られないような文書の方が良いのではないだろうか。
また今年度は本祭中のごみ集と後片付け日のごみ集との区別が曖昧だったため、これについても次年度以降はきちんと確認すべきであろう。

２．本部運営に関する報告

文責：田辺 文子

(１)本部の機能
今年度、11 月祭環境対策委員会の本部は京都大学生活協同組合吉田食堂１階に設置した。本部には、下記の機能が求められる。

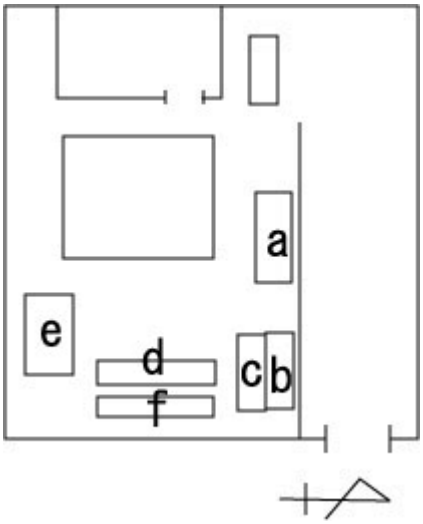
◆ スペースの確保
物品の保管場所、スタッフの荷物の保管場所、スタッフの待機及び休憩所、事務スペ―ス、反省会

スペース等。詳細な設置については、下記参照。

◆ 代表の常駐場所
11月祭本祭中には、不測の事態が起こる可能性があるため、代表は連絡が容易で素早く対応できる場所にいることが求められる。また、本部は対外関係（対事務局・対他大学等）の窓口としての機能ももつ。

◆ シフトの開始と終了の管理
シフトに入る際は必ず５分前に本部へと集合となる。その場で簡単な説明をした後に、シフトに入り、終了後再び本部へ戻り報告等を行う。
本部にはこれらの機能を十分に活かせるように設置／運営していく必要がある。

(２)本部の設置形態
今年度本部は右図のように設置した。各スペースの役割及び設置状況は下記の通り。



ａ)物品保管場所
各作業に必要な物品を保管するスペース。今年度は企画ごとに箱を設け、物品の管理の向上に努めた。

ｂ)スタッフ荷物置き場
スタッフの荷物保管スペース。休憩所や本部スペースが圧迫されないように、荷物の置き場所は限定した。

ｃ)スタッフ休憩所
シフトの待ち時間や休憩のためのスペース。
昨年度は11月祭パンフレット、マニュアル、当日パンフレット等を置いたが、今年度はそれに加え、80ページに記載している「エピソード集」の回収箱も設置し、より新鮮なネタが集まるようにした。

ｄ)本部スペース
本部の事務を行うスペース。各種資料や文房具類、シフト表等を常設。

ｅ)反省会スペース
１日の終了後の反省会のためのスペース。

ｆ)ごみ袋
本部で出たごみ用のごみ袋である。分別形態は祭りの形態に従う。

(３)必要物品
必要物品については内部資料として別途リストアップした。次年度以降の参考となるだろう。

(４)今年度反省及び次年度への展望

ａ)各スペースの確保について
今年度も本部の設営時から、各スペースの区分けを貼り紙などで徹底し適時指示を行ったため、スペースの住み分けは上手くいき、機能的であった。ただし、本部机に関しては若干乱雑であった。書類の整理は適宜していたが、模擬店マップの管理はずさんであった。これは反省すべき点である。また、細かい文房具については今年度も基本的に本部で管理し、必要に応じて貸し出すとしたが特に問題はなかった。

ｂ)代表の常駐について
先に述べたように、本部では可能な限り代表が常駐しているのが望ましい。が、今年度に関しては

シフト管理も全体の流れを把握していたため、お互いに本部から出られる場合が多かった。現場や会場内に目を配ることもまた必要なことであるため、この形態は望ましいものであると考える。

ｃ)物品の管理について
本部には物品を失わないよう管理する役目があるが、後片付け日後に、生協より借用したスタッフジャンパーが借用時の枚数に１着足りないことが分かった。本部に置いてはスタッフジャンパー置き場を設け、作業に入る際には常にそこから取り出し、作業後も同じ場所へ返却してもらっていたため、紛失の可能性より借用枚数が間違っていた可能性の方が大きいと考えられるが、生協側から言われた借用枚数を確認しなかったこちらのミスである。借用時、すみやかに枚数を確認し、本祭中においても日に一回程度枚数の確認をすべきであった。次年度以降、ジャンパーに限らず、そのほかの物品についても同様に管理すべきである。

ｄ)対外関係について
今年度は大阪府立大学、同志社大学、鳥取大学、龍谷大学の方よりそれぞれ訪問があり、代表が対応した。これらの大学の学園祭においても環境対策がなされており、お互いの活動を知ることによって互いに得るものがあると思う。今年度は当委員会の報告書を渡し、こちらの活動内容や相手側の活動内容についての意見交換や集積場の見学などをしたあと、時間があれば洗い皿や集積場にスタッフとして入ってもらった。受け入れる側としてどのような対応が適しているのか、考えていきたいところである。

３．後片付け日報告

文責：田辺 文子

(１)後片付け日について
後片付け日は 11 月祭最終日の翌日に設けられ、各企画は撤収作業を行い、また全体で大掃除もある。当然、ごみが多く排出され、11 月祭環境対策委員会はそれに対応する必要がある。また、11 月祭環境対策委員会も同時に、本部の撤収作業や物品の搬出作業等を行う。事前の計画がほとんど立てれていなかった昨年度の反省をもとに、今年度は前者のごみ回収には独自に担当を設置し、後者の本部撤収等については代表が指揮をとった。また後片付け日には各委員の疲労も蓄積しているため、速やかな作業の完了が特に求められる。

(２)実施日時
2002 年 11 月 25 日（月）8:00～18:30

(３)実施内容
後片付け日の全体の流れを下表に示す。

略

(４)各作業について
上記の各作業の内、ごみ回収に関することはごみ分別・リサイクル担当の項に記載する。以下ではそれ以外の項目について述べる。

◆ 吉田食堂清掃（作業人員：６人程度）
１） 机の上にのっていたものをすべてクイックに運び、椅子を机の上へ乗せる。
２）ほうき、モップ等を用いて床の掃除を行う。ごみについては、分別して集めておく。
３）机、椅子を原状復帰させる。（コンパ等があって大幅に机が動いた場合は職員の指示をあおぐ）

〈反省等〉
作業時間は 4 時間取っていたが、実際は約１時間半で終了した。しかし、コンパ等があって机の位置が動いていた場合はより時間がかかると思われる。

◆ 看板撤収
表によると約 45 分で終了しているが、これはM・M法（※当日、常人の数倍の早さで作業をこなしていた当委員会スタッフのコンビ。二人の頭文字を取ってこう名付けられた。）のなせる技であり、通常は４人で２時間かかる（今年度は２人で 45 分だった）と見ておくほうが無難である。

◆ 物品輸送（作業人員：４人）
本部及び集積場にある物品を全て安全センターに搬出する。ただし集積場の物品輸送は集積場運営終了後であり、本部撤収の関係から本部の物品輸送を優先する。

〈反省等〉
途中からシフト伝達のミスでリヤカーを一人で引くことになってしまっていた。リヤカーは疲れるため必ず２人で１台にすべき。（特に雨の日は。）

◆ 物品等整理作業（作業人員：３人）
安全センターで待機し、搬入される物品については確認し所定の場所に配置する。

〈反省等〉
・始めのシフトは２人だったが、４人（男２、女２）くらい必要。
・シフトに入った３人の内、物品の搬入場所を知っているのが責任者だけだった。責任者が対応出来ない場合もあるため、できれば全員知っておいた方がよい。
・今年度は事前に全ての物品について搬入先を紙に明記しておいたため混乱せずに済んだ。
来年度以降も責任者は事前にリストを作っておくべき。
・割り箸、立て看の搬入などは力仕事なため、力のある人が欲しい。
・受け入れ完了後、廊下の掃除をする必要がある。
・物品をしまう順序（木製ごみ箱とごみ袋の順序など）を考えて輸送してくれるとありがたい。
木製ごみ箱の輸送は早めが良い。
・事務局の搬入作業によりトラックで道を塞がれたが、これについては事前の打ち合わせが困難なため適宜対応するしかない。

◆ ごみ箱復旧（作業人員：各地区２～３人）
１）鉄製ごみ箱の原状復帰
鉄製ごみ箱を元の位置に戻し、表示等を剥がしてごみ袋を設置（缶ビン、PET はごみ袋を設置しなくてよい）する。

２）総合人間学部構内（校舎内）のごみ箱復帰
ごみ箱を元の位置に戻し、ごみ袋を設置する。

〈反省等〉
ごみ箱撤去の際の移動先が複雑な場合は撤去者がシフトに入っていないと分かりにくい。

３）本部構内のごみ箱復帰
ごみ箱の口を塞いでおいた使用禁止ビラ等を剥がす。ただし、校舎内は本祭最終日に事務局が原状復帰するため、剥がす必要はない。

〈反省等〉
一部ガムテープで貼っていたごみ箱があり、剥がし跡が残りやすかった。透明梱包用テープか布テープにすべき。

(５)全体を通して
今年度の後片付け日は、昨年度の人員不足、事前の計画の甘さをふまえ、後片付け日ごみ回収に関する専門の担当の設置、コアスタッフの積極的な参加を図った。結果、昨年度の問題点は大幅に改善されたと考える。
人員数については問題なかった。午前中に午後の予定だった作業のいくつかが終了したため、当日スタッフに関しては午前でシフトを上がってもらった。ただし、雨による発泡トレー洗浄の中止がなければ、そのようなことは出来なかったであろう。
作業時間について、吉田食堂からの撤収が 17 時頃になってしまったことは代表の指揮のミスであるが、BOX での物品の受け入れが、スムーズに進んでいたにも関わらず 17 時頃まで続いており、本部を 17 時以前に BOX に移すのは困難である。吉田食堂の都合が付けば、来年度以降 17 時まで食堂（クイックのみ）を借用した方がよい。しかしもちろん、作業終了時刻を早めるよう努力するとともに、食堂に本部が無ければならないのはどの時期までなのか見極める必要がある。
また、今年度は吉田食堂１階に代表が常駐し、防犯面においても気を付けた。
最後に、後片付け日は本祭終了後ということから事前の計画がおろそかになりがちであり、かつ詳細な計画が立てにくい作業である。事前に最低限各作業の人員と必要時間の見通しをたて、当日は臨機応変かつ迅速な指揮が求められる。来年度以降、後片付け日の指揮を執る人にはこのことを十分意識し、より円滑な運営を心がけてもらいたい。

(６)補足
直接後片付け日とは関係ないが、学園祭終了後の BOX 等の原状復帰について述べる。
学園祭終了後は、同じ BOX を使用している団体に迷惑をかけないためにも、すみやかな原状復帰を行うべきである。今年度は約２週間で片付けたが、特に問題はなかった。学園祭の準備のために借用していた中庭旧テント倉庫についても同様の期間で原状復帰し、これも問題はなかった。

４．エピソード集

【模擬店編】
＜かに屋の子＞
君、どこからきたの？ときかれた。・・・高校生って思われたのか・・・・。
＜ザ☆交渉＞
ｂ－２は誠意ある対応により終結
＜ボヤ＞
a 地区で２件続けてボヤ発生。急場で一致団結する模擬店の姿を見た。
＜豚キムチ大好き＞
A-21〇〇の会の豚キムチ犯罪的な味。閉店を要求する。
＜酒は飲んでも飲まれるな＞
模擬店で酒を売っている所があったが店員自体が酒を飲んでいた。そして作業がとどこおった。・・・・飲むなよ！
＜最終日ぐるぐる＞
「あ、ごみの人が来たよー。」はい・・・・。「うちにもごみの人がいるんで、奥で話しつけて下さい。」えっ・・・・。

【スタッフ編】
＜Hくんへ＞
もっと仕事選んでもOKですよ～
＜H君の名言（余裕）＞
「巡回なんて２人で十分なんだよ！」
＜MM砲＞
強力
＜M木君の名言（漫才C）＞
「中村クンと昼」、集積場♪イジりまくり♪」
＜ひも結びのprofessional＞
が、当日スタッフの中にいる。レストスペースの設置に関して多大なアドバイスを受けた（責任者が)。
＜らいふすてーじのメンバーが＞
昼にカレーバイキングに行くらしい。・・・。シフトの内容は特に問題ないと思います。♪私は暇～（今井美樹 PRIDE）
＜レスト撤収＞
M木「お前なんかいらねぇ！」
＜ワン切り＞
洗い皿bossの某N君にワン切りしたら、「電池のムダ」とおこられた。
＜年老いた＞
みんな若い
＜名言（遺言）＞
「こ、小林クン！ｂ－２は君にまかせた・・・・ぐはっ」
＜名言（遺言２）＞
「コ、小林くん・・・巡回部長は君に任せた・・・ぐはっ。」
＜名言（我不迷）＞
帰る時に後ろを振り返るな。
＜巡回３のペア決め＞
三木「お前ひとりで行け」早川「福井さんとはダメ」

【集積場編】
＜すだれ＞
再分別エリアに突如出現！バブリーな企画によるものか？！
＜ダンボールにくるまれたもの＞
中には包丁３点（４点かも）セットが・・・。しかも大小さまざま。ごみが宝になる瞬間をかいま見る。
＜呼ばれて飛び出てジャジャジャーン＞
割り箸の袋からみみずが・・・・。
＜集積場にて＞
自信満々に「全部竹串です！」と50本ほど持ってきた模擬店さん。「・・・じゃあ、紙ごみへ・・・・」
＜模擬店の人として分別中に＞
紙ごみの中のビニール袋を取り出したら中に犬のフン。
＜あ゛あ゛応援団＞
身も心もごみに埋もれる４日目の集積場。「おつかれサンです！がんばって下さい！！」さわやかなその声は応援団の××氏。いい人だ。

【トレー編】
＜行方不明＞
あるはずのトレーが朝なくて、ケルンにより回収。すでに焼却とのこと。
＜ケルンって＞
ケルンにトレーを回収された。その勢いでシチュー処理へ。身も心も汚れました。
＜ケルン再び＞
本祭２日目に続き、４日目もケルンが発泡トレーを回収。不機嫌な声でしかっておきました。はぁ

ぁ。

【ごみ編】
＜ごみ袋＞
え゛……４５？！
＜消えるごみ箱達＞
模擬店が設置した後に忽然と消えるごみ箱達・・・・。いづこへ？
＜トイレの憂鬱＞
とあるトイレ（D 号館の女子トイレらしい）の洗面台にフードパックなどのごみが大量に投棄されていたのだそうな。あな、おそろし。
＜シチューはたべたくありません＞
あのにおいはいつまで残り続けるのでしょうか。　僕の中にいつまでもいつまでも
＜新しい発見＞
牛乳は腐ると緑色になる。

【看板編】
＜環対巨大看＞
これが倒れたとき、代表の首も飛びます。
＜看板撤去＞
シフトでは３人２時間半の仕事。がんばって、2 人 45 分で終わらせた。
＜鳥取大学ありがとう＞
巨大 PR 看の写真を撮ってくれました。

【その他】
＜Beer＞
青柳さんはお酒が好きらしい。終わりも近づいた 24 日にビールを持っていったら「エエの？」と言いながらお飲みになられていた。来年からは、お酒は完備で！（to 洗い皿さん）（編者注：青柳さんは今年で定年・・・・）
＜えこみっと発見？＞
教室のごみ集で E11 に行ったら劇団の方に「あっ、えこみっとだ」と言われてしまった。そんなにジャンパーが珍しいのか・・・・・。
＜もぎてんコンプリート＞
４１！（11/23 10：15）
＜もぎてんコンプリート＞
８１！（11/24,21：10）
＜わんしょう＞
今年はない・・・・
＜リ○カー＞
なかなかダイナミックな挙動を示してくれました。これは、操作しがいがあります(＊^ - ^＊)。
＜女の戦い＞
いやいやなかなか。事○局本部に緊張が漂っていた・・・・・かな？
＜食堂そうじ＞
僕の属する生協学生委員会では、例会やその他いろいろな場面で吉田食堂を使っているのですが、掃除を全くしていません。今回シフトで掃除しながら（勝手に）普段使わせてもらっているお礼が出来たかな～とかおもってしまいました。アホなことですいません。
＜天球＞
雨が止み、薄れゆく雲の間から綺麗な月の光が目に届く。それはまるで、長く続いた大仕事が終わり、肩の荷が降りるかの様。
＜無＞
あぁ、なんて充実した時間だったのだろう。今から思えば、あれほど楽しくてツライ時はそうないであろうに。
＜ぐるぐる＞
１日で 130 人（のべ）にごみの話をしました。